

平安の念おもひ





講話集

平安の念おもひ

第二十九回神道講演全国研修大会・京都大会

目次

近江日野鉄火裁判小史

過去 現在 未来

大祓式を終えて

食事と感謝

正直の頭に神宿る

彼我戦歿者慰霊

天のめぐみ 地のめぐみ 大和魂は、稲作から

神職の役割

盃状穴

「神様のマニフェスト」

一国一文明の国・日本―天照大御神の御神徳を伝え広めるために―

日本人の蘇り

神主さん、ありがとうございます、今年の賀状より

氏神様の力

社 信 大 1

二ノ宮 雅 子 6

畠 田 明 彦 11

渡 邊 泰 年 16

真 庭 孝 雄 21

野 上 正 紘 26

西 尾 酒 子 32

金 土 重 徳 41

小 林 晴 美 45

河 本 文 夫 51

後 藤 大 志 郎 56

鈴 木 明 子 65

寺 本 正 徳 70

平 石 綾 子 75

神職の地域活動

和の国の和の心を育む御遷宮

おかげ

「伊勢神宮と式年遷宮」

桜と御英霊

祇園祭について

氏神様と季節の行事

おひさま運動

神社と人生儀礼の係わり

氏神（うじがみ）と親神（おやがみ）様

真清田神社桃花祭について

『氣枯レ』を祓うイセヒカリ

「敬神婦人の役割」

杜

東條貴史 80

渡邊知宣 84

金倉卓彦 90

塩崎昇 95

小野日隆 102

北島雄貴 110

馬淵明美 114

中木屋豊 118

都築務 122

今井一雄 127

犬塚智博 130

佐古建彦 134

鈴木重和 143

上妻敏基 147

「伝統」

天神さまは暮らしと共に

光格天皇とご生母大江磐代君

米国分社 アメリカ椿大神社について

あの日、あの時から

「惟神と根源」

こんな子どもに誰がした

巳歳談義

神道講演構成法

京都大会の記録

神道講演全国協議会役員名簿

全国大会の歩み

あとがき

京都大会実行委員長

佐古一洌

山下裕嗣

東川楠彦

石塚智康

佐藤直道

佐々木美津子

山本行恭

村田和之

佐古一洌



第29回 神道講演全国研修大会・京都大会

平成25年6月11日～13日（京都府神社庁）

第二十九回

神道講演全国研修大会・京都大会

とき 平成二十五年六月十一日～十三日

ところ 京都府神社庁

近江日野鉄火裁判小史

社 信 大

本日は春の例祭にご参列いただき、誠に有難うございました。

さて、本日の祭礼に際し頂戴致しました御献酒を御本殿にお供えしておりましたが、ご覧いただけましたでしょうか。実はこの御献酒の一部は、数百年前から伝統的に当社へ奉納する慣わしとなつていゝるものでございます。どうしてそのような慣わしとなつたのか、その経緯が当社所蔵の古文書の中に詳しく記されておりますので、まずはそちらをご紹介させていただきます。

時は江戸時代初期の元和年間。日野の町は山の領有を巡つて東郷九ヶ村ひがしのうと西郷九ヶ村にしんのうに分かれ、延々十年に亘る相論が続いていました。当時は江戸幕府も大阪冬の陣・夏の陣の直後で、田舎の一地方の山争いどころではなかつた頃です。一向に解決せず泥沼化する相論に対して、このときついに西郷側から「鉄火にて決着を付けよう」との提案がなされ、

角兵衛という者が名乗りを上げました。

この「鉄火」とは、争い合う双方の代表者が自らの正義を神に誓った後に焼けた鉄を握り、そのときの火傷の程度によって勝敗を決する裁判の方法です。神仏のご加護によって、正しい者の方がより火傷は軽いはずだ、というわけです。

この提案を受けて、東郷は大変動揺します。これを拒否すれば自然とこの裁判は負けということになり、延いては相論自体の負けにも繋がりがねません。しかし、こんな恐ろしい役目を誰が率先して引き受けるのか。皆が困り果てていたところ、九郎左衛門という者がこれを買って出ました。ただし、交渉の過程で、東郷からは九郎左衛門に代わって喜助という者が改めて名乗りを上げ、結局鉄火裁判は、東郷より喜助、西郷より角兵衛の二人が争うこととなりました。

元和五年（一六一九年）九月十八日、江戸幕府の役人立ち会いの下、ここ当社境内が勝負の場となりました。当日、斎場には幕が張り回され、東郷・西郷の村人だけでなく近代稀な鉄火裁判を一目見ようと集まった他村の人々で境内は溢れんばかりとなっていました。神前に据えられた棚には斧の形に加工された「鉄火」が供えられ、五間ほど離れた場所で

は炭が赤々と燃やされておりました。宮司が参進し祝詞を奏上した後、双方の鉄火は真つ赤になるまで焼かれ、白装束に身を包んだ喜助と角兵衛の前に運ばれました。ここでの二人の役目は、手のひらに乗せた折皮一枚の上に鉄火を置き、神棚まで運ぶというものです。そして勝負の時。誰もが固唾を呑んで見守る中、両者は鉄火を取りました。

喜助は鉄火を受け取ると、すぐさま神前に向かって駆け出し、そのまま神棚に鉄火を投げ入れました。真つ赤に焼けた鉄火はそのまま神棚の棚板を焼き抜き、棚の下へ煙を上げて落下したといひます。

一方の角兵衛は、鉄火を受け取ると忽ち手のひらが焼け焦げ、走ることにできずにその場で鉄火を投げ落としてしまひます。神社の境内に人々の大きなどよめきと東郷の村人の歓声が同時に上がりました。逃げだそうとする角兵衛は、幕府の役人に捕らえられ、気の毒にも死罪に処せられてしまひました。

これによって東郷は相論に勝ち、懸案となつてゐた山の領有権を獲得しました。鉄火裁判に勝利した喜助には東郷の村人より土地が褒美として与えられ、また喜助よりも先に取り手として名乗りを上げた九郎左衛門にも一〇〇坪程の田地が与えられたそうです。

以来、決戦の場となつた当社では、毎年新暦十月十八日（古くは鉄火裁判当日の旧暦九

月十八日)に、喜助の子孫である音羽家によって、東郷の鉄火勝利に感謝するとともに、喜助の勇気を称える「鉄火祭」という神事が、現在も変わらず執り行われています。また、九郎左衛門が賜った田地は「鉄火田」と呼ばれ、そこで収穫された米は毎年当社へ奉納される慣わしでした。九郎左衛門の家が途絶えた後は鉄火田のあった地域から、そして米もいつしか酒に変わりながら、現在でもお正月と春の例祭の折に奉納が続けられています。

今回は起源の分かりやすいものをご紹介させて頂きましたが、数本の御献酒という些細な伝統にも、これだけのドラマチックな地域が誇るべき歴史があるのです。「伝統」という言葉をインターネットで検索いたしますと、『伝統という理由だけで、なぜ伝統を守らねばならないのか』『伝統を守っていくことの利点は何か』：そんな話が並びます。何も伝統だから盲目的に守れとは申しませんが、それが始まった理由、現在まで絶えることなく受け継がれてきた理由をよくよく調べてみますと、意外に納得できるものです。

本日の祭礼も、八百年以上の歴史を持つ、伝統あるお祭りでございます。伝統的に守られてきた諸行事や細かな取り決めも多く存在しております。中には氏子の皆様に大変な御苦勞をおかけするものもあるかと思いますが、全て先人がこの祭りを守り伝えるにあた

って必要であつたからこそ、今に残っているものです。そういった経緯につきましても少しずつお話をさせて頂き、また皆様がご存知のお話をお伺いしながら、この伝統ある神事を来年も、再来年も、十年後百年後も、守り伝えていきたいと考えております。皆様の変わらぬご支援ご協力をお願い致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

(京都府 松尾大社 権禰宜)

過去 現在 未来

二ノ宮 雅子

誰もが憧れる古き良き伝統を今に伝え、一方では、最先端技術のロボットやi p s細胞が開発され、日本人の未来への無数の可能性を秘めた都におかれまして第二十九回神道講演全国研修大会・京都大会に参加でき、今年も皆様にお会い出来ましたことを心より厚く感謝申し上げます。

さて、戦後七十年近く経ち日本はいろいろな意味で国際社会となりつつあります。皆様は国際化・国際社会にはどんな印象をお持ちでしょうか？

あの日、戦争に負けた日本が人間の極限を味わい、この国を戦後復興させると共につかんだもの・・・

それは、本当は心の闇だったのではないのでしょうか。なぜか？・・・心を豊かにするのは物であるとされ、日本人の大切な祖先から受け継がれてきた精神は、年数を懸けて蝕まれていったと思うのです。

この事が、いかに国や自分を損なうものであったかを気づき、日本人の精神を操縦しようとする外国から守り、これを克服し、国際社会で生き残り、やがて日本が和をもって世界を引っ張って行くには、一つは、まず自分の国に興味を持ち柔軟な姿勢で国をよく知る事。もう一つは思いやりと勇氣を持つて真剣に生きる事です。

かつて、福岡県には旧陸軍が東洋一を誇った一大軍都が存在し、大刀洗という飛行場がありました。私は、時々その史料館へ行くのですが、その度に特攻隊の方々が家族や身内に宛てた手紙や遺書を拝見し、この中には時代を超えて私たちへ語りかける未来への掛け橋が必ずあると思つたのです。

例えば、

「御両親様 岩美ハ御國ノ為ニ笑ツテ散リマス 良クヤッタト祝ツテ下サイ
家ニ居リシ時ハ何一ツ孝行シマセンデシタガ一生ニ一度ノ孝行ヲ致シマス。」
と言う一説や、

一人は、

「兄は靖国の宮より皆の成長を見守っています。兄弟仲良く御國の為になる人となられる事を祈っています。」とか

「この方は京都出身のかたでした」

またある人は、

「只、心中にあるのは、敵艦必沈の闘志のみ。豊の満足この上なし。父上母上様のご健康とご長寿をお祈り致します。皆様によりしく。さようなら。」

など、これを書いた数時間後に敵に体当たりするとは思えない程、落ち着いた文章と、整いのある美しい字なのです。

内容も、自分の事より父、母の事を気遣い、兄弟仲良くして、立派な大人になりなさい。というような文章が多いのです。次世代が立派な愛国心のある人間に育っていく平和な日本をつくるため、純粋な特攻の若者達は尊い命を捧げたのです。

でも、平成の今、一般社会の地上では親が子を子が親を殺し、学校では学級崩壊…

「生きる。」という緊張感の稀薄な現代にはいじめや自殺が充満し、空では外国不審機警戒

のため戦闘機が飛び回り、他国との共存共栄ではなく、日本は狙われているのです。

では、外国人が特に好きな日本の場所や興味あるものとは何か？

美しい風土をもつ夢の国、長い歴史と伝統ある京都の神社仏閣、桜、水、酒、黒髪、日本人の心などだそうです。

反対にがっかりした事。日本の女の子が髪を染めている数が多く日本に來た意味がないともいつているそうです。

實際私の友人も妊娠中にもかかわらず、妊婦さんにも安全だというカラーリングを勧められ染めてしまい、私はとても心配でした。

髪のを染めると子宮にそれが溜まり、奇形児が出来やすくなったり、人体の七〇％が水分で保たれている人間の身体も悲鳴をあげます。今の日本はいいものを根底には宿していても、らしさを解らないのかも知れません。

外国の方がいうには日本がアメリカに憧れる様に、アメリカも日本に憧れるところがたくさんあるので本当にいいところを潰すのは良くないといっていたそうです。

おとしの東日本大震災からは二年、震災の時、九州は福岡―鹿児島間新幹線開通式が

あり、セレモニ―飛行のため宮城県松島基地所属のブルーインパルスがこちらに飛来して
いて奇跡的に助かり、約二年間そのまま故郷や家族と離れ、福岡で移動訓練されていまし
たが、本年三月三十一日で無事帰還され、翼に輝く日の丸に人々の願いをのせ再び、太陽
輝く大空を舞うことができました。

完全ではありませんが、復興も進めながらこの国は、底力をだし、伝統を守り、きっと
良くなると願いを込めて神社人は本当の日本を示そうと、明き清きまことの心を一つにし
て皆さんを導いています。

また、今年は幸運にも神宮の式年遷宮と、出雲大社平成の大遷宮が同じ年に重なります。
日本は全ての再生へと向かい出しました。皆さん、どうぞご自分の国に希望をもつてそ
して一緒に良くしていきましよう！

（福岡県 嘘吹八幡神社 出仕）

大祓式を終えて

畠田明彦

本日は大変蒸し暑い中、大祓式にご参列頂き有難うございました。折角の機会ですのでこの大祓について少しお話をさせて頂きます。

「神道は祓いに始まり、祓いに終わる」と言われるように、「祓い」は神道の核をなすものです。ですから最初にこの祓いについて説明させて頂きます。

まず、「祓い」とは他の宗教には見られない神道独特の行事です。海外の祓いといえば、あの有名な映画「エクソシスト」の悪魔払いを思い浮かべる方もおられると思いますが、これは神道の祓いとは全く違ったものであります。エクソシストの悪魔払いや霊能者の除霊とは、人間に憑依した悪魔や怨霊を追い払う事であり、神道の祓いとは、知らず知らずの内に降り積もった罪や穢れを払い落す事であります。つまり、悪魔や怨霊という原因が特定されるものと、罪や穢れという原因が特定されないものとの違いがあります。更に神道の祓いには、霊と対話し、それを排除或いは浄化させるというプロセスがない。これも

違いのひとつでしょう。

この被いについて、数年前に他界された春日大社の葉室頼昭前宮司さんが、著書『神道と日本人』の中で次の様に仰っています。



日本人と西洋人の大きな違いは、西洋医学では、たとえばガンならガンという状態に体が変化したのが病気であると考えています。しかし日本人はそんなことは考えていない。我々人間の体というのは、神さまが完璧におつくりになった体だから、病気でそんなふうに変化することはないのです。罪・穢と言いますが、「つみ」というのは体を「包む身」という意味です。——中略——「つみ」という日本語は、すばらしい神さまからの体を包んで隠してしまうということです。「けがれ」というのは、穢という字を書いています。汚いというのではなくて「気枯れ」です。我々を生かしてくれる神さまの気を枯らしてしまふものが、「けがれ」なんです。そういうもろもろが体についてしまったために、もともとのすばらしい姿が見えなくなった状態が、病気であると考えerわけです。——中略——どんな病気が来ようと、もともとはすばらしい体であり、それに罪・穢という異物がくっついてあるだけなのだから、それを消せばもとの体が出てくると考える。私もそれが正しいと

思います。そして、これを行なうのが祓いです。

○
素晴らしい考えですね。祓いは日本精神の核である神道の、更にその核を成し、不浄を清浄に（浄）、絶望を希望に（明）、異常を正常に（正）、歪んだものを真っ直ぐに（直）する、神様が我々日本人に教えて下さった世界唯一の「業」なのです。

さて、本題の大祓に入ります。大祓とは、自らの罪穢れと社会の罪穢れを祓い去る、六月と十二月の晦日に執り行われる行事で、歴史は古く、大宝元年（七〇一）に撰修された大宝律令には、正式な宮中の年中行事として定められています。現在でも宮中では、大祓の儀に先立ち、天皇御自ら「節折よおりの儀」により御身を清められます。この儀式は、背丈をはじめ御身五カ所の長さを測った九本の竹の節を折る、天皇ご自身のお祓いです。

次ぎに祓主が唱えました「大祓詞」ですが、大まかな内容を申し上げます。

前半の「高天原に神留り坐す」から「天つ祝詞の太祝詞事を宣れ」までは、高天原における神々の協議から始まり、天孫降臨の様子、瓊瓊杵命による大倭国（日本）の統治、天つ罪・國つ罪の発生、それを祓うための天上から伝わった宮廷の儀式と神聖な祝詞宣読の教示が記されています。後半の「此く宣らば」から最後の「聞こし食せと白す」までは、

祓いの祝詞を唱えると、天つ神・国つ神がそれをお聞きになり、その罪が「風が雲や霧を吹き払うように」「停泊中の船が縄を解かれて大海原に押し放たれるように」「焼いた鋭利な鎌で繁茂した木の根本を薙ぎ払うように」消滅していく様子が記され、さらに高い山・低い山の頂から落下して川の急流へ、そこから大海原に持ち出され、激しい潮流の渦巻く中へ呑み込まれ、それを息吹で地底へ追いやる、罪消滅のルートとそこに関わる神々の役割が記されています。

この後半部分、大変ユニークな表現ですね。しかしここにも日本精神の根本が窺えます。罪を完璧に消し去るために、要所要所で神々が力を合せておられるのです。まさに大和魂、大いなる和の心です。

続いて、皆さん切り麻で自身を祓い、人形に罪穢れを移されました。これは個人の祓いで、大麻でのお祓いが社会の祓いです。そして、白い布を裂きましたね。白い布は木綿（もめん）です。木綿は古代の「白和幣」しろにぎてに当り、「にぎて」とは神様の御心を和めるための捧げ物です。また同時に人間にとって掛け替えのない大切な衣料でもあります。それを何故切り裂くのか。つまり祓いの代償という訳です。これを贖物あがものと申します。

大まかな説明でしたが、お解り頂けたでしょうか。日本人は精神的に世界で一番清らか

な民族であります。神様から頂いた大切な素晴らしい心身を輝かせるために祓いがあるのです。この大祓式において、皆さん一人一人が清められる事は、国が清められる事に通じると思います。

最後に余談ですが、京都で六月の和菓子といえば「水無月」です。三角形の外郎ういらうの上に小豆が載ったこのお菓子にも「祓い」の要素があります。赤色の小豆は厄を払う意味があり、形の三角は暑気を払う氷を表しているそうです。ご存知でしたか？

それでは時間が参りました。この後の茅の輪神事については、また別の機会にお話させて頂きます。それではまた年末にお会いしましょう。

（兵庫県 六條八幡宮 宮司）

食事と感謝

渡 邊 泰 年

婦人会の皆さんは、日頃から自分の為だけでなく、愛する家族の為に食事を作っていることはいうまでもありません。今日は議題に移る前に一つ、食事と感謝についてお話しします。

我々、神主はお祭りの作法や流れに関することや、古事記や日本書紀等の日本神話について学ぶ「勉強会」と呼べる研修や、冬の寒い時に海の中に入って目に見えない罪や穢を祓う禊等、皆さんから見ると、「修行」とも呼べるような、様々な研修会が開催されます。そのような研修会では、食事を取る機会があります。その時に「いただきます」「ご馳走様でした」という前に、和歌を一首唱えて食前・食後の挨拶を行います。実際にやってみましょう。まず食前に唱える和歌は、

正座 一拝一拍手

たなつもの ももの本草も 天照らす 日の大神の 恵みえてこそ

という和歌を唱えて食事を頂きます。ちなみにこの和歌は『古事記伝』を書いた本居宣

長先生が詠った和歌です。最初の「たなつもの」の「たな」とは漢字で、田んぼの「田」に、植物の根つこの「根」が当てられていることから「たね^{田根}」、つまり我々日本人が主食として食べているお米や五穀をはじめとした野菜や果物の種のことを指します。「もも」は、岡山の名産である清水白桃を頭の中に想像してしまいましたが、果物の「桃」ではありません。歌手の山口百恵さんの名前にも出てきますが、「百」を「もも」と読みます。「百」は数えきれない位沢山ありますので、ここでは「たくさん・多くの」という意味です。この和歌の意味として、「私たちが主食としているお米・五穀やたくさん野菜・果物は、天上世界である高天原から降り注ぐ光、太陽の神様である天照大御神様の恵みをいただいて収穫していますので、感謝して頂きましょう」という意味になります。そして、食べ物恵みに感謝する為に、できるだけ無言で食事をとります。食事の後、食後の挨拶を行う前にも和歌を唱えます。

端座 一拝一拍手

朝よひに 物食ふ毎に とようけの 神の恵みを 思へ世の人

この和歌も本居宣長先生が詠んだ和歌ですが、この和歌の「とようけの 神の恵み」と詠んでいる通り、我々人間が朝夕の食事は、伊勢神宮の外宮の神様である豊受大神様、

我々の食糧や食事を司る立派な神様の恵みをいただいて生かされています。お米や野菜などを汗水たらして丹念に育てたお百姓さんや漁師さん等に感謝し、更に天地からいただくありとあらゆる恵みを、先ほどの食前感謝で申しました、太陽の神様からの恵みだけでなく、地面・水・動植物など、ありとあらゆる自然の神様からの恵みを受けて生活しております。

さて、何年か前の話で申し訳ありませんが、給食費を毎月払っているのだから、学校の給食を頂く前に手を合わせて「いただきます」という事は宗教行為だから、手を合わせて「いただきます」の挨拶を取り止めるべきなのではないか？という投稿がラジオでありました。結果としてほとんどの人が、作ってくれた人に対しての感謝の念を忘れてはならない、食べ物の恵みに感謝する心を養う為に、今の子供達には必要である、という意見が圧倒的に多く、中には料理人さんから、「いただきます」「ご馳走様」と言ってくれるから頑張れる」という投稿もありました。婦人会の皆さんは日頃から、仕事や勉強等で出て行く皆さんの家族の為に毎日朝昼晩の食事を始め、家事をしておられるのは言うまでもありません。つい最近、この年になって、人生で初めて揚げ物を作る機会がありました。大の男がビクビクしながら、熱い油の中に唐揚げを入れる時、緊張したのは、今でも忘れることができ

ません。ですので、ご飯を作ることの大変さは身に沁みており、また同時に、家族にご飯を作ってもらうことにありがたみを感じています。

日本がバブル絶頂期以降、食べ物がたくさんある、「飽食」の時代だと叫ばれるようになって、かなりの時間が経ちます。日本でも毎年年間1800トンもの食糧が捨てられています。スーパーやコンビニ等でも賞味期限・消費期限が切れた弁当やおにぎり等が山のように残り、捨てられています。その対策の為に近年では、余った食糧を畑や街路樹等のたい肥にして還元させている話を聞きます。しかし、いくらたい肥、肥料として還元させているとはいえ、折角、天地の恵みを受けて、お百姓さんが丹念に育ててきたお米や野菜等を、期限が切れたからといって肥料にしてしまうのは、一神主として、これは非常にもったいないことだと思っております。皆さんの子供の時を思い出してみてください。よく皆さんのお祖父さん・おばあさんから「一粒の米粒も残すとバチが当たる」と言われませんでしたか？嫌いな物を残して、嫌でも無理やり食べさせられた事を覚えていますでしょうか？先ほどの食前感謝の和歌の「日の大神の 恵み得てこそ」の通り、神様の恵みから我々は食事を頂いております。是非、今日の会が散会しまして、家に帰られましたら、皆さんのお子さん・お孫さんに是非、食べ物や粗末にしてはいけないこと、食べ物に対して

よくよく感謝をしていただくことを皆さんからお伝えしていただければ、と思っております。皆さんご静聴ありがとうございました。

(岡山県 若宮神社 禰宜)

正直の頭に神宿る

真 庭 孝 雄

清く明るく直く正しく、「浄明正直」という言葉は神主の基本精神として、位階名にまでなっておりますが、これの「正直」についてお話しさせて頂きたいと思います。そもそもこのきっかけと致しましては、先日とあるニュース番組を見ていたところ、次の様な話を話す小学生のお母さんがいました。「息子が友達数人と学校の備品を壊して、後日先生が犯人捜しをし、息子だけが馬鹿正直に自白して、先生から叱責された。将来世渡りが上手に出来そうに無く不安である。」と。更に驚いた事は、番組ではその母親の意見を良しとするような編集がなされていた事です。

正直な心とはそんなにいけないものでしょうか。確かに正直というと、純真・無垢・誠実といった様なイメージが持たれますが、その反面、無知や「正直者が馬鹿を見る」と言った様に、正直者で無い人がずる賢く立ち回るばかりに、損を被りやすいといったイメージもあります。

確かに嘘をつく事は、本音と建て前を使い分ける日本人にとっては重要な事です。他人

と交流する場合において、思っている事そのままを言い続けてしまつては、いずれ喧嘩になつてしまいます。「嘘も方便」ということわざがある様に、嘘をつく事によつて相手に、自分の為にもなる様であれば、いくらついても構わない事でしょう。第一「私は正直者です」と憚らず公言してしまふ人間ほど、信用の無い事はありません。この様に、嘘をつくことは状況次第では大事なことである、という認識は世間一般に広まっています。

では、神道においてはどうかでしょうか。まず、神垂は祈禱を以て先とし、冥加は正直を以て本とす。という『倭姫命世記』等に記された有名な託宣がございます。つまり神様の恵みを得るには祈り願う事が第一であり、神様のご加護に預かるには正直であることが重要である、という意味合いであります。又先ほど申しました「浄明正直」という言葉からも分かるように、神道において正直な心を持つことは大切である、ということは火を見るより明らかです。

では、神道における正直とはどういったものなのでしょうか。私が思うに、左を左とし、右を右とす。や、左の物は右に移さず、という言葉があります。この言葉が意味するところとは、神様が左と言われた物は左にし、右と言われた物は右にしなさい、つまり連綿と

受け継がれてきた作法や伝統をありのままに正直に受け入れ、それを誤り無く正直にこなす事、これが神道における正直であります。

五大御伽噺といわれる昔話がございます。すなわち『桃太郎』『猿蟹合戦』『舌切雀』『花咲爺さん』『かちかち山』ですが、この中の『花咲爺さん』の話の一つに、白い仔犬が川から流れてきて自分の子にしてくれ、と頼むものがあります。ここでお爺さんは何の疑いも無くその仔犬を拾って自分の子にしてしまうのですが、常識的に考えれば喋る仔犬など異形の物ではありません。しかしそのお爺さんは、その仔犬の言ったことを正直に守ってしまう。また五大御伽噺ではないですが亀を助けた『浦島太郎』においても、背中に乗れるくらい大きな喋る亀ですから、こちらもよく考えれば異形の物でございます。それを助けた浦島太郎は、亀に誘われた時も躊躇する事無く亀の背中に乗り、皆様ご承知の通り竜宮城での夢のようなもてなしを受けます。これら昔話の主人公に通じて言えることを、柳田国男氏は『普通の人ならば格別重きをおかぬこと、どうだってもよかりそうに思われることを、ほとんど馬鹿正直に守っていた老翁だけが恵まれ』た、と述べております。ここからも、神道における正直に相通じるものがあるように思います。

つまりは、神道における正直とは、神様から言われたことを正直に守りなさい、という

ことですが、これを家庭に置き換えるなら、お父さんやお母さん、お爺さんやお婆さん、ひいてはご先祖様からの古くからの教えを、正直に守りなさい、ということになると思います。では家庭内での古くからの教えとは何かと言うならば、日本人が昔から大切にしてきた、はい、という素直な心、ありがとうございます、という感謝の心、神様ご先祖様を大切にする心、つまり神道の基本であります、敬神崇祖の美風を家庭の中で涵養することこそが、家庭内での正直の実践になるのであります。

日本人は古くから道徳的水準が高く、来日した外国人は皆その美しい姿に驚愕し、また羨望の眼差しを向けたと言われています。そこには日本人の根本的な宗教であります、神道の教えの影響によるものだと言っています。現代においても、日本人のマナーの良さは世界一と言われていますが、冒頭の少年のように、自分の犯した罪を反省し、古くから言われている「いけないことをしたら正直に言いなさい」という言葉を実践したにも関わらず、「世渡りが上手に出来なさそう」の一言で一蹴されてしまう親や家庭が生まれてきているのも事実です。

古くからの日本人の教え、つまり神道の教えを正直に守る人、そしてそんなお父さんお

母さんの教えを正直に守る子供がいる明るい家庭にこそ、神様は宿り、ご加護を授けて頂けるのではないのでしょうか。ご清聴ありがとうございました。

(京都府 松尾大社 権禰宜)

彼我戦歿者慰霊

野 上 正 紘

本年も杵束地区出身戦没者慰霊祭をご一緒にご奉仕致すことができて誠に有難うございました。この碑には先ほどの祝詞の中でも申し上げましたように、日清・日露以来、先の大東亜に至るまでの本村出身の戦没、戦病死の御英霊九十一柱の御魂がお祀りしてあります。当神社にこの忠魂碑をお預かりして四十年程になりますが、その間特別の事情が有った年を除いて、毎年この慰霊祭をお勤めできますのは、遺族会のご尽力のお蔭で御英霊もさぞかしご満足頂いていると存じます。

当社に忠魂碑が建てられたのは、このご社頭で祈願祭を勤め、出征される方々をお送りしたご縁からであります。数年前まではこの忠魂碑を訪れて、いつも碑の周辺の掃除をして下さる方があり、また慰霊祭にお参り下さる方も多かったのですが、現在では英霊等のご両親も奥様も全く居られず、兄弟の方も子供さんもほんの数人になってしまい、中には村から転出されて、全く縁の無い御英霊もかなりの数に上ります。

この状況は護国神社でも、靖国神社でも同じで、神社の維持、祭典の執行にも苦勞して

おられるのはご存知のとおりであります。

昭和二十年八月、「萬世の為に太平を開かむ」と宣らして矛を収められてよりこの方、国民諸々が力を協せて苦しきに耐え、勤しみ励んで経済的には世界中から驚きの目で見られる程の復興を遂げましたが、これは英霊たちが己が身を顧みず、只管に御国を思い、残された家族たちを思つて、尊い生命を捧げて頂いた真心に依ることは言うまでもありませんのに、国家として靖国神社を顕彰することは勿論、一国を代表する責任者が参拝することすら叶わぬ状況が続いております。

今年の靖国神社の春の例大祭に総理大臣が真榊を奉納され、閣僚数人が参拝しただけで、中国や韓国の反発が物凄いものであったことはご案内の通りであります。

さて本日は、去る四月十二日の浜田護国神社例大祭の後の宮司の挨拶の中でお話のあったことをご紹介して、本日の慰霊祭のご挨拶としたいと存じます。

それは同社の境内に植えられている記念樹の一本なのですが、中国戦線で激しく戦つて命を落とした戦友の鎮魂のために、無事帰還した同僚たちが昭和四十七年に植え、その脇に標柱を建てた。その石柱には「彼我戦没者鎮魂植樹之碑」と彫られている。同じように市内長沢町の旧二十一連隊の浜田陸軍墓地にも、「鎮魂彼我之英霊碑」というのがあり、毎

年紅葉の美しい十一月に、浜田支部の神職等が祭員となつて慰霊祭が続けられている、という話であります。「彼我」とは言うまでも無く、彼と我ということ、国の為に命を捧げた人を、相手方の戦没者も我が邦のも区別無く慰霊をしようとする、我が国ではこのようにして慰霊祭をしているというのであり、当日の宮司の祝詞にもその気持ちが綴られています。

ここで考えてみたいのは、中国や韓国と我国とでの、靈魂や慰霊についての考え方の相違ということであります。事ある毎に中・韓は歴史認識を持ち出し、「正しい歴史認識を持つて」とか「過去の歴史を直視せよ」などと言います。今年四月の靖国の例大祭でも、或は朴大統領の米国議会での演説でも、言ったことはご案内の通りですが、これは一つには歴史認識問題をカードに使えば、我国は贖罪意識で小さくなり、交渉事が先方に有利に動くということ、教科書検定基準の近隣諸国条項や、中曽根首相の靖国公式参拝取り止め等と味をしめたと言ふこともありましょう。また我が国内に積極的に中韓と協力して、その圧力を利用して意見を通そうとするマスコミや政治勢力のあることも事実でしょう。

しかしそれと同時に考えておきたいのは、靈魂や死に対する彼我の考え方の違いの問題ということでもあります。人の死・死後の靈や魂・魄について難しいことは存じませんが、

我国ではどんな人でも死んだなら神や仏になると考えるが、中国では悪人は死んでも未来永劫悪人で絶対に許さない。

その典型的な例として、井沢元彦氏が『仏教・神道・儒教集中講座』の中で紹介している、南宋時代の愛国軍人岳飛を祀った廟の話です。岳飛は侵略を繰り返す北方民族の金に對して徹底抗戦を唱えますが、そんな岳飛を邪魔に思っていた時の総理大臣、秦檜に陥れられ獄死します。その岳飛を祀った岳王廟が杭州にある。其処では日本人には絶対に想像できない光景を目にすることになるという。中央に廟があつて岳飛の像が安置され、神として祀られているが、その沿道のすぐ側に、後ろ手に縛られ、引き据えられた夫婦の像が逆茂木型の鉄柵の中にある。(写真を提示) それは岳飛を陥れた秦檜夫妻の像で、参拝者が唾を吐きかけるためのものだと言うのです。

中国は儒教の国なので父祖の敵は絶対に討たなければならない。苦節何年やと攻め入った時には相手の王はもう死んでいたという時は、相手の墓を暴いて死体を鞭打つ、そういう記事がよく出てくる。儒教では死んでも罪は絶対に消えず、未来永劫悪人のままなのだと言うのです。韓国も小中華の国なので儒教を取り入れている。先般の「千年経つても加害者と被害者の関係は変わらない。」という朴大統領の発言がこれをよく象徴している。

我々にとって、祖国のために尊い生命を捧げた英霊も、彼等にとっては憎き敵。これを国家が神社に祀るなどということは、多分想像だにできないに違いない。更に彼の国では仮に非があつても決して認めないという伝統がある。愛国無罪を叫んで日本企業や店舗を襲撃してもお咎めなし。最近では、同国内で猛威を振るっている鳥インフルエンザについても、「七三二部隊が自衛隊の内で密かに再結成され、釣魚島（尖閣）を永久に日本のものにするため中国に新種の細菌を送り込んだ」などというような、誠にやかな書き込みがネット上に広がっていたり、尖閣のみならず沖縄も元々は中国領で、琉球は独立すべきだというようなことを言い出しています。こんな国柄では、冷静な議論などおよそ期待できません。

しかし私たち日本人は、これらは中韓での考え方であり、彼等の文化、宗教であるということを理解して付き合うようにして行かなければいけないのではないかと思います。それでも理解してはくれないかも知れない。

しかし我々は今後ともぜひ、彼我戦没者慰霊・鎮魂の姿勢で臨みたい。そしてこのことを世界に発信して行きたい。これこそが神道の現代的な意義であることを訴えていきたい。皆さんにもそのことをお伝えして本日の慰霊祭のご挨拶と致します。

(島根県 錦岡八幡宮 宮司)

天のめぐみ 地のめぐみ 大和魂は、稲作から

西尾 酒子

稲の実

作詞 西尾 酒子

米作り 田んぼの土を耕し みんな 汗をかく

米作り 田んぼの土を練り練り みんな 汗をかく

米作り 田んぼのあぜを 鋤で撫で撫で みんな 汗をかく

池から水引 汗をかく

田んぼの田底の床馴らし 汗をかく

早苗をみんなで植えて みんな 汗をかく

太陽の恵みに感謝して

雨の恵みに感謝して

ひとりのできない米作り

家族・隣人 手と手をあわせ 汗をかく

みんな 手と手を合わせ神様にお祈りして 実り待つ

神様のご加護のもと みんなの和みの心と汗が合わさって

おいしい おいしいお米が いっぱい いっぱい 生まれるよ

神様 神様ありがとう！先ず 神様おめしあがりください！

みんな にこにこ和み 喜び合って

おいしい おいしいごはんが、食べられる

米作りによつて 人と人の和 人の輪がうまれますね。

人の輪の力 ひとつの目的に向かって成し遂げた喜び

何ものにも代えられません。

稲穂が実り その実の中の米は ごはんになり

もみがらは畑の土の中で活躍

わらは 注連縄 縄 蓑 牛のえさ

果物の木の下敷きや被せ

わらぐつ わらぞうり いろいろ工夫して

ひとつも無駄にしない日本人の知恵

わらは 腐れば 肥料にする リサイクルの知恵

米は日本人の命を支えてきた。

この すばらしい米作り誰が伝えたの

わたしたちに 誰が教えてくれたのですか？

それはこの方の祖先です（今上天皇さまの写真をみせる）

日本の国作りは今から二千六百六十六年前神武天皇様に依って
つくられたことが『古事記』によって伝えられています。

天照大御神様が 天皇様にこの米を育てみんなと助け合い
絶やす事無く造り 国をたいらくやすらげく治めなさい。と
お命じなされたのです。

だから、今も天皇様はお米を作り 田植え 稲刈りをなさり
感謝して 神嘗祭・新嘗祭を怠らず執り行っておられます。

その事に習って 全国津々浦々に至るまで 秋祭り 新嘗祭を
執り行って 大神様に感謝し続けています。

私たち日本人の命をこれまでに支えてきてくださったのは
天照大御神様のおかげともいえます。

感謝の心 米づくりに培った生きる知恵の遺伝子

創意工夫の力ある遺伝子を持つ日本人

戦後 六十年を向かえ日本の遺伝子が危うくなりつつあります。

これからは 一人でも多くの人に こどもたちに 日本の

伝統あるお米づくりのすばらしさ お米のおいしさ お米の

価値を伝えていこうではありませんか。

日本人にとってお米づくりは 切っても切り離せない関係であり

お米作りが日本から姿を消したとき日本人は滅亡したときと

言えるでしょう。そのような事にならないためにも 力を合わせ

日本人の米を絶やさないように伝承していきましょう。

皆様ようこそ ご参拝くださいました。大神様も皆様のご参拝を心待ちなされていたことでしょう。

『いのちはんの中には、天のめぐみと地のめぐみがふくまれています。ありがたくいただきます』

昨今、お米のごはん離れが目立ち、パン食・肉食・菓子食など多くの人たちが、好んで食べる習慣になりつつあります。なぜ朝ご飯は、パン食とコーヒーで済ます人がおおいのでしょうか。わたしの年代の人の多くは朝ご飯は、ごはんとみそ汁・漬け物がメインです。朝ごはん作るのが面倒と若いお母さんからよく聞かれます。そこで、今日は、ごはんには、どんな力が含まれているかを解っていただきたくここに参りました。

ごはん離れの危機・ごはんの力・大和魂は、稲作から・お米の由来についてお聞きいただきたいと思います。

一、ごはん離れの危機

このグラフをご覧下さい。日本人の食品群別摂取量の推移（厚生労働省国民栄養調査）を見ると千九百六十五年から二十九年の間にお米の摂取量は、低くなり卵類・乳製品・肉類が多くなっています。ご飯は、大腸ポリープの発生を抑制する可能性があると言われていす。このグラフからは、肉類がおおくなればなるほど大腸ポリープの発生が高くなることをしめています。また、このグラフ肥満・高脂血症・耐糖能異常の時代的推移（久山

町研究）からは、卵類・乳製品・肉類を多く摂取してきた推移と平行して肥満・高脂血症になる人が、多くなっていることを示しています。また、がんの年令調整死亡率（厚生労働省統計）このグラフは、千九百六十五年から二千二年までの推移を見ると大腸がん結腸がんの死亡率が年々多くなっています。このことから日本人の食生活のあり方・ごはん離れに危機を感じさせられます。

二、ごはんの力

ごはんには、どんな力が 隠されているのでしょうか？

ごはんのお米の力について農林省で調べられています。

お茶碗一杯のごはん（百五十グラム）を食べると私たちの命を支えてくれている栄養が、どれだけ含まれているか？と言うとカロリーは、二百五十二キロカロリー含まれています。身体をつくり、体の中で様々な働きをする蛋白質三、八グラム（牛乳百十一ミリリットル分）身体の細胞を作り、エネルギーになる脂質0・五グラム（六枚きり食パン一枚分）・身体と脳を働かせるエネルギーとなる炭水化物五十五、七グラム（じゃがいも小三個分）丈夫な歯や骨を作りイライラした気分を抑えるカルシウム五ミリグラム（ゴマ約一・二グラム）身体のすみずみに酸素を運んでくれる鉄分0・二ミリグラム（ほうれん草の葉一枚から

二枚分）疲れた身体を元気にしてくれるビタミンビーワン0・0三ミリグラム（キャベツの大きい葉一枚分）おなかの調子を整えて、いろいろな病気を予防してくれる食物繊維0・五グラム（りんご三分の一個分）などが、含まれていると言われています。

そして、その運動する力は、お茶碗一杯のごはん（百五十グラム）を食べると、体重四十キロの場合運動パワーは、ランニング（時速八キロメートル）で三十八分・自転車（時速十五キロメートル）で六十三分・歩く（時速四キロメートル）で一時間四十一分・サッカー三十六分・野球三十八分・水泳クロール（分速三十メートル）五十一分・平泳ぎ（分速三十メートル）六十八分に相当すると言われています。

ごはんには、驚くべき栄養素が含まれている事がわかってきました。

私の中学生のころは、ごはんに梅干しを乗せた日の丸弁当を持って学校へ通いました。日の丸弁当のおいしかったこと、いかに私の命をささえてくれていたことか、感謝するばかりです。

三、大和魂は、稲作からうまれた

ごはんはお米から、お米は稲から生まれます。

稲は、天の恵み、天照らします太陽の光・雨の水・大地の土・自然の恵みから生まれます。

す。人は、稲からお米が、実るまでどのようにして作られてきているか思い起こしてみましよう。

稲を育てるには、水を貯める土壌作りから始まり、自然の恵みの水、太陽の光が無くては育ちません。水を田んぼに引くときお互いに田を持つ人たちが寄り合って話し合い決めます。水の引く順番・時間を決め必ず守る掟になっています。台風がくるとみんな田んぼを見回り困ったときは、苦境を乗り越える工夫に迫られます。お田植え・稲刈りも近所どうし助け合います。また、大切に育てきた稲・お米を粗末にせずリサイクルする生活の知恵もうまれてきました。時期を外すと育ちません。季節の気候に合わせしんどくても忍耐力と勤勉さで苦境を乗り越え工夫をしてお米作りをしています。お互い「助け合い」「和」を尊び「睦び合い」。常にお米作りは、自然と共に自然に感謝して人は、自然と共に共有しあいながら生きてきています。

稲作は、共に助け合い・話し合い・決まりを作り守り苦境を乗り越える忍耐力・勤勉さ・常に者を粗末にせず工夫してリサイクルする創造力・和を尊ぶ輪・睦び合い・自然の恵みに感謝しながら共に生き、共有し合う魂がなければ育てられません。何千年と繰り返して培ってきた稲作から生まれた魂、遺伝子となって今も生き続き、継がれてきています。

これこそ大和魂です。

この稲作、お米づくりの課程で驚くべき事があります。私が、調べたところお米の種三粒から株になって約二十四本の茎が誕生していることに私は驚きました。そして、一本の茎からは、約八十粒が生まれていました。この二十四本の茎からは千七百八十五粒のお米が生まれていました。

だから、たくさん国民の命が護られてきたのです。

その年によって収穫は異なりますが、稲作の力に感激するばかりです。

四、稲作の由来

この稲は誰から授かったのでしょうか？この絵をご覧ください。

これは、天照大御神様が天皇様の御始祖「にぎのみことさま」に

「この稲をもつて、日の国の民の生きる食べ物として育て国を守りなさい」

とおっしゃられたそうです。そして、にぎのみこと様から稲作の方法を国民の人々に伝えお導きになられ今日に至っています。

神様からお授かりになったこのお米は、今も日本の国の主食として私達の命を支えてくれています。今上天皇様は、今も自らお米をお作りになられ、神嘗祭に懸税として伊勢神

宮にお供えされています。神嘗祭には、全国からも神宮にお供えして五穀豊穡の感謝する慣習があります。勤労感謝の日として全国でお祝いしています。

このお祝いは 日本人の命を支えてくれている稲作から生まれるお米を通して神様に感謝し、大いなる自然の恵みに感謝する日です。

今年は、伊勢神宮式年遷宮のめでたき年、天照大御神様から授けられたお米、私達の命をささえてくれているごはん。あらためて朝ごはん・昼ごはん・夕ごはんごとに感謝して頂きたい思います。

「このごはんの中には、天の恵み、地の恵みが含まれています。ありがたく、いただきま
す」

ご静聴ありがとうございました。

(和歌山県 宇治神社 宮司)

神職の役割

金 土 重 徳

私は現在、ここ京都の松尾大社に奉職させていただいております。東京の國學院大学を卒業し、神職となり今年で四年目になります。

生まれは福島県のいわき市という所でありまして、父も祖父も代々神職をしている、社家の出身であります。そのため、私は子供の頃から神職である父の姿を見て育ちました。今、自分が神職になってみて、改めて父の行動を思い返すと、日々神社のためにさまざまな努力をしていたのだなと思います。その中でも特に印象深く、今現在の自分の中でも大事に思うことを、今回「神職の役割」、という題目でお話させていただきたいと思います。

私の実家では現在、神職は宮司を務める父を含めて二人。それ以外に境内の管理や雑務を担当する職員が二人、計四名で日々の社務をこなしています。特別行事の無い普段の社務であればその人数で差し支えないのですが、大きなお祭り前など、忙しい時期になるとそうはいきません。特に実家の神社では、一年間の中で最も参拝者が訪れる「例大祭」が

一月の十日にあるため、年末年始が神社の中で一番忙しい時期となります。

その時期になりますと、まず、身近な親戚や親しい氏子の方々が神社に手伝いに来てくれます。正月用の仮設の建物を建設したり、夜の神社に集まってもらい、新年に取り替える注連縄を連日かけて編むなど、さまざまな協力を頂きます。

大晦日、元旦にもなると、地元に帰省してくる若い氏子さんなども手伝いに来てくれます。また、三が日が過ぎ、十日の例大祭が近づくと、県内外から、父の知り合いの神職が祭りの手伝いに来てくれるなど、さらに多くの人が集まり、忙しい時期の神社を支えてくれるわけがあります。

というように、私の実家では年末年始にかけて、実に多くの人の協力を頂きます。そして、その人たちの中心にいるのが宮司である私の父親でありました。

みなそれぞれが、忙しい時期にもかかわらず神社の手伝いに来てくれます。それはもちろん、氏神さまということもありますが、何よりその神社との間にいる、父の人徳の成せるものだと思います。

それは、普段からの付き合い方でもあり、お祭りを手伝っていただいた時は後日お礼に一軒一軒挨拶回りに出向いていくなど、氏子さんへの感謝を忘れない姿勢があります。私

はそのような父の姿を見て、神職にはこのような役割もある、神社と氏子さんを繋ぐ大切な仕事だと思いました。

現在自分が神職になり、同じ役割を担えているかというところ、おそらくまったく至らない状態だと思います。しかし、私の少ない知識と経験ではありますが、神社に参拝に来た人へ、できるだけ神社のことを知ってもらうだけでもいいのではないかと思います。

神職にとってはあたりまえの事でも、一般にはあまり知られていないことも多いと思います。そこで、少し極端な例ではありますが、先日体験したことをお話させて頂きます。

私が奉職する松尾大社では、毎日夕方に当番で境内の賽銭を集めて回ります。その日は私が賽銭集めをしていました。ご本殿前に一番大きな賽銭箱があり、そこから賽銭を集めている時のことですが、集めている時は賽銭箱の引き出しを引いた状態にするため、その間はお賽銭を入れるのを待ってもらっています。そのときも賽銭箱の前に何人かの人がいたので、少々待つてもらうように声をかけました。すると目の前にいた若い二人組の男に「お金を恵もうと思った。待たされるのはおかしいのではないか」と言われました。賽銭箱を、募金箱かなにかと誤解しているようであつたので、お節介かとも思いましたが、これは賽銭箱であり、募金ではなくお賽銭を入れるものと説明しました。すると、納得してく

れたようで、二人とも賽銭を入れてお参りをして帰っていきました。

ただそれだけの話ではありますが、その二人には一つ神社の事を知ってもらうことができました。些細な話ではありますが、大事な神職の役割だと思っています。

私は、それほど多くの神社を知っているわけではないので、例外もあるかもしれませんが、やはり神社は氏子さんや地域の人たちの協力があつてこそ、成り立つものだという認識があります。ですので、神職は氏子さんたちと神社を繋ぐ存在でなければいけないと思います。

私的な実家の話を中心でお恥ずかしく、お聞き苦しかったとは思いますが、以上で私の話を結びとさせて頂きます。

ご静聴ありがとうございました。

(京都府 松尾大社 権禰宜)

盃状穴

小林 晴 美

当三石神社には、社名の謂れともなりました「三石の遺跡」をはじめ色々な石造物がありますが、本日はこの二本立っている石のそれぞれにあります窪みについてお話しいたします。

石は永年の風雨の影響により、多くの窪みが出来て変形してしまうのはあたりまえの事で、私も子供の頃から目にしておりましたが全く気にしておりませんでした。ところが二十数年前にある御婦人が見えまして「あの窪みはハイジウケツではないのか」とおっしゃいました。突然の事でびっくりいたしました。そう指摘されてよく見ますと自然に出来た窪みでは無く、盃のように人の手により穿たれた窪みだと気付かされました。測ってみますと直径約六センチ、深さは約五センチありました。その御婦人が来られた時は、このように立っていたのではなく、ご本殿にお参りする手前の階段の一番下の段に設置されておりました。この石がなぜここに立っているのかと申しますと、平成五年に御修造をいたしました折に玉垣や参道・階段等全て新しく造り直しました為に、この階段の石はハ

イジヨウケツのあるところを残し、このように短くして展示・保存している訳です。しかし、あの御婦人がご参拝に來られていなかったなら今頃この石は、どこかの山の中に埋もれてしまっていたでしょうから、このことは神様のおぼしめしと言えらると思います。

さてハイジヨウケツとは、盃状穴と書き信仰の為に人の手により盃のように丁寧に穿たれた穴のことで全国で多数発見されています。一番古いものは縄文時代にまで逆のほりますが、興味深い事にはそれ以前にヨーロッパで盃状穴を掘る習慣があった事が記録により分かっております。まずフランスでは、先史時代から青銅器・鉄器時代に至る長い年月に渡ってドルドーニュのラ・フェラシーの岩陰に三角形の墓石と呼ばれた石の面に、盃状の窪み群が不規則に施されているのが発見されているのに続き、旧石器時代（約二万年前）の遺跡で発見されたものに、女性墓には男性器を抽象化して彫り、男性墓には女性器を意味した盃状穴を彫ることで死者の再生を祈願する呪術的な行為が行われていたと考えられており、同様の物がエジプトのテル・エル・アマールナ遺跡でも発見されています。又、スカンジナビア半島に位置するノルウェー並びにスウェーデンやフィンランド・シベリア・中国のシンチャンウイグル自治区あたり・朝鮮半島等の原始的な墓域の石囲いに盃状の窪みが発見されています。台湾北部の遺跡の一角にも盃状の窪みをもつ立石があり、似

たような窪みをもつ岩がハワイにもあります。このように盃状穴は世界の広範囲にわたり発見されております。

では、この盃状穴でどのような信仰がなされていたのかと申しますと、スウェーデンでは夜にバター又は獣脂を盃状穴に流しこんで祈れば、その年の農業と家畜の生産が高くなると言われている他、子供の病気が治るようにと獣脂に充たされた盃状穴のある石の上に供物を置いて妖精や悪霊をなだめる習慣が残っているとのことでした。

韓国では、男児に恵まれたい女性が陰暦の七月の七夕に盃状穴を訪ねて七つの穴に粟を入れて祈った後、この粟を韓紙に包みチマ（スカート）の下にかくして下山すれば男児がえられるという信仰があります。

ハワイ島では、原住民が「永生の丘」と呼ばれている岩に新生児が誕生すると盃状穴のような孔をあけ、ピコ（へその緒）を納め石で蓋をしておく。もし一昼夜たってもそれが残っているなら、その子供に永生が約束されたのだと信じられているとのことでした。

さて、我が国の例を数例述べますと、沖縄地方には墓所を母胎と同様に考える思想があります。墓所の壁に盃状穴と同様の窪みが彫刻されていますが、これは墓所は母胎に帰するという帰元思想を示し、再生への第一歩であると考えた表示であらうと思われます。

九州は福岡県の三雲遺跡の弥生前期の支石墓の蓋石に盃状穴が見出されておりますが、山口県の神田山古墳の石棺の蓋石にも見事な盃状穴が、ずらりと三列に並んで造刻されているのが発見されております。この二つの古墳の盃状穴に共通するものとして、穴と穴との間を連結する溝状の窪みが施こされており、これは朝鮮半島の漢江の上流・琴南里一帯で発見されたものと酷似しているとのこと、この事は中国の少数民族の一つであるモン族が常に移動する生活をしていた為、北欧での先住民との接触によりその習俗を摂取し、朝鮮半島を経て山口県等に盃状穴の習いを持ちこんだものと考えられております。

大分県国東半島では道教思想に基づく盃状穴や、中国古代の干支信仰由来の盃状穴が燈明石（別名・拝み石）の上に発見されています。具体的には十二個の盃状穴のそれぞれに十二支を当てはめ、自分の干支に相当する穴に油を入れ燃灯祈願をすれば、病氣は平癒し願ひ事は成就するといふものである。また、秋に収穫された新米をこの燈明石にお供えをして燃灯をするという伝承もあるそうです。

さて東日本に目を向けますと、山形県の元木の石鳥居は平安時代後期の作で、国の重要文化財に指定された著名な遺品ですが、石柱全体に穿たれた数えきれない程のたくさんの盃状穴は、しばしば襲い来る冷害や厳しい風雪の自然条件の中で、ただ只管祈りに救いを

求めたであろう農民の姿を偲ばせるものがあります。

京都では、東山にある六波羅密寺の境内にある「阿古屋の塔」の基礎石に家型石棺の蓋石が使用され、宝塔を囲むように盃状穴が穿たれております。

最後に兵庫県で発見されております盃状穴をご紹介しますと、赤穂の二の丸城壁や、加古川の飯盛山の中腹岩盤に畳八帖程の大きさの祭祀跡が発見され、その岩盤表面に九十一個の大小の盃状穴が確認されています。明石市人丸町・柿本神社の手洗石の上縁は、原形をとどめぬ程の盃状穴に覆われております。

国宝姫路城の「二の門」や「備前門」付近の石垣にも多くの盃状穴が確認されております。この姫路城の石垣を築く時、幾ら積んでも直ぐに崩れるので困っていると、夜分名も知らぬ老女が臼のような小石を携えて来て石垣の上に置いたそうです。それからは崩れなくなつたという伝説が残っており、実際に石臼が城壁の石垣の中に組み込まれています。

臼に関しては、柳田國男氏の著書にも「石に靈魂が宿るという考え方は、まだ人間の信仰が系統立った宗教にならぬ前から、多くの民族に共通して行われていた。日本においては臼に似た石に靈が宿ると信じ祭り捧まれていた。」と著されております。又、戦国時代の天文年間の『廻國雜記』にも「石の枕という不思議な石がある」と記されており、この石

の枕は別名「姥石」とか「臼石」と呼ばれ信仰の対照物であったことがわかっております。このように盃状穴への信仰が受け継がれてゆくなか、穴の大きさが変遷し臼にまで発展していったことは充分考えられるのではないかと私は思います。

現代では、何処かの遺跡や神社の石造物に幾ら信仰による行為とは言え、勝手に穴を掘れば「器物損壊罪」という罪に問われかねますのでとんでもない事です、固い石を穿つという切実な思いのこもった盃状穴に、いにしえの人々の篤い信仰心を垣間見ることが出来たのではないのでしょうか。

時代がいくら変遷しようとな人の心に宿る信仰心が変わることはありません。現に皆様は先程、神様に手を合わせ拝まれたばかりです。どうぞいつでもご参拝頂き、大神様の御神徳をお受けになり幸せな日々をお過ごし頂きたいと思います。

(兵庫県 三石神社 権禰宜)

「神さまのマニフェスト」

河 本 文 夫

そのお社は、跡継ぎがまだ若く、私が宮司代務を勤めているのですが、そのお社で秋祭りの事です。

本殿祭、御神幸と終わり、さて後は恒例の餅撒き。参拝者は、会場に集まっております。全ての行事が順調に進み、餅撒きの時刻まで、すこし余裕があります。参拝者から餅撒きを催促する声が聞えます。そんな中、総代さんからアナウンスがありました。

「少し時間がありますが、餅撒きは、ご案内のように正午丁度に始めます。もう少々お待ち下さい。というのも、昨年早めに餅撒きを行いましたところ、電話があり、正午丁度に餅を拾いに行ったら既に始まっており、余り拾えなかったとお叱りを受けましたので、正午丁度に撒きますのでもしばらくお待ち下さい」

とのアナウンスです。その後総代さんから、「宮司さん時間もありますので、一言お願いできますか」と来た。突然振られてあせりましたが、ここは何とか纏めねばと思い、このように挨拶上げました。時間の関係で要旨だけ述べます。

「総代さんより、昨年少し早めに、餅まきをして、お叱りを受けましたとの、話がありました。が、如何なものでしょうか、餅撒きが既に始まつており十分拾えなかつたそうであります。が考えてみてください。なにか寂しく思いませんか？　この方はお参り済まされたのでしょうか？　私どもは、多くの恵みの中に生かされております。五穀豊穰を感謝するこの秋祭りも、私ども人間の力ではどうすることも出来ない自然の力があつてからこそ、五穀の恵みがいただけるのであり、本日の餅撒きのお餅も、自然の恵み、そして、皆さんが奉納された浄財から、もち米を購入し準備させて頂いております。即ち撒かれるお餅は、この神社を崇敬される方々、また神社護持に力を頂く皆さんの絆の餅。即ち絆餅です。ですから餅撒きのときだけでは無く、早めにこられ参拝の上、餅撒きを楽しんでお帰りになればと思うしだいであります。」

さて、秋祭りでの出来事ですございますが、全てが終わり、ふと頭によぎったのが、やはり自分のことしか考えない風潮が、広がっているのかなと思つたのであります。ある政党のキャッチコピーに「生活が一番」というのがあります。自分の生活が第一で、もらえるものはもらおうという風潮が何時から蔓延した社会になつたのでしょうか。戦後の教育が

大きく影響しているのは明白ですが、人間には要求する権利と同時に与える義務があると思うのです。まさに昨今日本人に染み付いた乞食根性なのでしょうか。

いつからこのような風潮になったのか？日本の社会は勤勉で奉公に尽くす国民性であったはずです。

ここで思い出す人物がいます。私が三〇代でしたでしょうか、その方は、「個人の生活は質素に、社会は豊かに」が、信条で、このようなエピソードがあります。

取り調べを受けた政官財界人八〇〇〇名強。逮捕者一〇〇名強。即ち昭和二十九年の造船疑獄。四月二日午前六時半、東京地検の捜査官は横浜市鶴見区の社長宅にやってきた。検事は社長宅を見て驚く。

「これが一流企業の社長の家か」

門を叩くとエプロン姿の女の人が出て来た。検事はてっきりお手伝いさんだと思い

「奥さんか社長さんはいませんか」

「私が家内ですが何か・・・」

「社長にお目にかかりたいのですが」

「主人は出かけたばかりです」

「？」

検事たちは青ざめた。てっきり捜査の手が伸びたのを感じられて逃げられたと思ったのである。

「どこに行きましたか」

口調を厳しくする。

「会社です」

「えっ、こんなに早く、会社に車で・・・」

「とんでもない。今出かけたばかりですから、近くのバス停でバスを待っているかも知れません」

検事たちは慌てて近くのバス停に向かった。まさにバス停そこに立っていた。それが石川島重工業の社長だとは信じられなかった。ぱらつく小雨の中、傘をさして立っているその姿。なんともいえぬ風貌を感じた。

その姿に「この人は白、この疑獄には関係ないと直感した」と、その後の取調べに対する対応にも「この人はいずれ、財界の長になる人と感じた」と検事は述べており、直感の当たり、東芝の再建を任せられ、経団連の会長。そして、時の首相に請われ臨調の会長へと、

そうここまで言えばわかると思います。

土光敏夫さんでございます。臨調会長時代の年収は五千万もあったが、母・登美さんが創設した女子校・橘学苑、将来を担う女子のためにその大半を寄付し、本人の日々の生活は大変質素でございました。

今、我々は何かを失っています。質素儉約を旨とすることが日本の伝統的な教えであったものが、生活が一番などと、神さまは、何を思っておられるのでしょうか、淨く明るく正しく直く、今一度神さまのマニフェストを、考えてみたいものでございます。

(山口県 宮尾八幡宮 宮司)

一 国一文明の国・日本―天照大御神の御神徳を伝え広めるために―

後 藤 大 志 郎

はじめに

おはようございます。今月も八幡神社の月次祭にご参列いただき有難うございます。

皆様には八幡神社の維持運営に加えて、我が国の総氏神であられる伊勢神宮の奉賛にいても、ご理解とご協力を頂いておりますことに、改めて御礼を申し上げます。

ご案内のように、今年の十月にはいよいよ式年遷宮の「遷御の儀」が執り行われます。皆様方を始め、多くの国民の奉賛により、この度の式年遷宮が滞りなく盛大に挙行できることをお喜び申し上げます。

このように式年遷宮については順調に進んできましたが、神宮奉賛のもう一つの柱である神宮大麻については頒布数が伸び悩んでいるというのが現状です。

「神社の御神札は一つでいいんじゃないんですか」とか、「八幡神社の御神札は地元的神社だからお付き合いするけど、どうして伊勢神宮の御神札まで買わなければならないので

すか」などとよく言われます。

伊勢神宮は全国の神社の中で特別な神社であること、天照大御神が至尊至貴の神様であることをご説明するのですが、なかなか分かっていただけないというのが現状です。

そこで今日は、天照大御神の御神徳をどのように捉えて、どのように伝えて行けばいいのか、ということをご一緒に考えてみたいと思います。

一 太陽神としての天照大御神

まず、天照大御神の御神徳の一つ、天照大御神が「太陽神」であられる、ということについて考えて見ましょう。

太陽、お日様というものを考えるのに、各国の国旗に着目してみるのはどうでしょうか。世界の国々には様々なデザイン国旗があります。

○まず、日本の国旗・日の丸のように、「太陽」をデザインしたものがあります。全ての生き物に等しく光と熱をもたらしてくれる太陽の恵みに感謝する気持ちが込められています。

す。

○次に、太陽ではなく「月や星」を使った国々があります。トルコ、アルジェリア、パキスタンなど、太陽が過酷な砂漠の炎熱の国々です。

○また、太陽でもない、月や星でもない、「三色旗」や「十字旗」を国旗にしている国もあります。

北欧など一年中 太陽が弱弱しい寒冷地に多いようです。

このように、一口に太陽と言っても、温和であつたり、灼熱であつたり、薄弱であつたり、国々によって同じではありません。

太陽が、何処でも、誰にでも、等しく、恵みを与えてくれる有難い存在であると考えるのは、一方的な思い込みです。それは願望ではあつても、地球上の現実ではありません。

およそ、その土地がどのような国土・風土の土地であるか、砂漠の国か、白夜の国か、泥土の国か、緑豊かな森の国であるかは、その国が現実にとどのような太陽を戴いているかにかかっています。

日本では太陽がいかなる存在であると考えられているか、すなわち、太陽神であられる

天照大御神がいかなる御存在であるかということについて、「日本書紀」に、

「この子（みこ）光華明彩（ひかりうるわしく）して、六合（くに）のうち照り徹る」と述べられています。

また、「古語拾遺」に、

「天照大御神は、これ祖これ宗にましまして、尊きことならびなく、ほかの諸々の神は、すなわち子すなわち臣にまして、いづれも得抗（えたぐえ）ず」と述べられています。

すなわち、天照大御神が太陽神であられるとは、

一つには、世界中の国々が様々な太陽の下で暮らす中で、我が国が最高最善の太陽を戴く国であること、比類なく慈愛に満ちた太陽を戴く国であるということ、それがいかに幸せなことであるか、ということをも物語っているのではないのでしょうか。

また、もう一つには、太陽神と他の神々の関係について、太陽神たる天照大御神が他の神々を超越した存在であること、八百万の神々は神様ではあるにしても、太陽神の掌の中で森羅万象を司っておられるに過ぎない、ということ宣言していると考えてもよいのではないのでしょうか。

二 皇祖神としての天照大御神

もう一つ、天照大御神の御神徳「皇祖神」ということについて考えて見ましょう。

東日本大震災の時に、日本では略奪や暴動が起こらず、誰もが忍耐強く秩序を守り、自分のことさえ精一杯の状況にありながら、お年寄りやか弱い人たちに思いやりの手を差し伸べている姿を見て、世界中が感動しました。

そして、外国に住んでいる日本人はその国の人達から「日本人はどうしてあんな行動がとれるのか」と口々に質問されました。

ところが、質問された日本人は、「そうするのが日本人だから」とか、「日本人は昔からそうだから」などと答えるのがやつとで、上手く説明できなかったということがありました。

いかがでしょうか。同じ質問を受けたら、皆さんならどのように説明されるでしょうか。説明の仕方は幾つもあるだろうと思いますが、恐らく「それは日本が天皇陛下を戴く国であるから」というのが最大の理由ではないでしょうか。

そこで、天皇陛下の御存在、天皇陛下の大御心というものが、国民精神性の涵養に及ぼす意義について考えてみたいと思います。

歴代の天皇は神武天皇以来、常に「国の安寧と国民の幸せ」を祈り続けて来られました。天皇陛下の祈りは、天皇ご自身のための祈りではなく、国民のための祈りであります。

それも特定の一部の国民のための祈りではなく、誤解を恐れずに言えば、日本国民の中にも居る一部の不敬不忠の輩をも含めた、全ての日本国民のための祈りであります。

そして、天皇陛下の国民のための祈りは、たとえ国民がそのことを忘れていても、天皇陛下がそのことをお忘れになることは片時もないのであります。

このような言葉があるかどうか分かりませんが、「君主道徳」という言葉があるとすれば、我が国の天皇陛下こそは、最高峰の「君主道徳」を体現されている世界に冠絶した御存在であります。

そしてこのような天皇陛下を戴いているからこそ、我が国は開闢以来、天皇と国民が一体となって家族国家、道義国家、大木国家の国柄を築き上げてきました。

東日本大震災の非常時に、日本国民が示した模範的な行動、道徳的な行動の拠って来た

る所以を考えると、それは「天皇陛下」の御存在の然らしめる所であり、更にそれは「天皇国・日本」の礎を定め給うた天照大御神の皇祖神としての御神徳の然らしめる所である、と言わなければならないのではないでしょうか。

三 一国一文明の国・日本

地球上には砂の文明・石の文明・泥の文明・森の文明などいろいろな文明があります。

世界の国々が属する文明について、ハンチントン、トインビー、シュペングレーなどの文明史家は、現在、世界には七つから八つの文明圏があるが、日本は高度な歴史・文化・伝統を持つ独自の文明「日本文明」を形成する国であるとしています。

そして、日本文明が中華文明の一部でもなく、東アジア文明の一部でもないと言われる理由は、日本には「天皇」と「神社」があるからであり、これがあるために日本は他の文明とは一緒に出来ないと考えられています。

さらに、これらの文明史家の見解によると、日本文明以外の文明は複数の民族・言語・宗教を持つ複数の国家国民からなる文明であるが、唯一「日本文明」だけが日本民族とい

う単一の国家国民からなる「一国にして一文明」の国であるとされています。

この一国一文明の国・日本について、京都大学の中西輝政先生は次のように述べておられます。

戦後、日本では余りにも長く「国家否定」の風潮が続いてきた。一国一文明の国・日本にとつて、これはやがて文明の衰弱死をもたらしかねない。

先の敗戦によつて国家が毀損された。その最たるものは憲法九条である。自らの生存を他者に依存すると謳っているこの九条こそは古今東西の歴史に類を見ない「国家の否定」そのものである。

国家としての生存を否定されれば、「文明としての日本」はやがて生命力を失い、回復しがたい致命傷を負わずにはいられない。

それが一国一文明の国・日本の宿命である。世界中のどこの民族でも「国家」は大事なものであるが、日本人にとつて「国家」がとりわけ重要な理由がここにある。

このように、日本という国を文明論的に見ると、

①日本は「一国一文明の国」である。

②その中心にあるのが「天皇」と「神社」である。

③その「天皇国・日本」「一国一文明の国・日本」の根源に、「太陽神」「皇祖神」としての天照大御神の御存在がある。

こういうことを申し上げたいのであります。

まとめ

今から二千六百年以上も前、神武天皇御即位の時に次のような詔が出されました。

「上は即ち乾靈（あまつかみ）の国を授けたまひし徳（うつくしび）に答へ、下は即ち皇孫の正（ただしきみち）を養ひたまひし心（みこころ）を弘むべし。然（さ）て後に、六合（くのにのうち）を兼て都を開き、八紘（あめのした）を掩ひて宇（いえ）と為（せ）むこと、亦（また）可（よ）からずや」

「天皇国・日本」、「一国一文明の国・日本」、その大本は神武創業の時にこのように正々堂々と定められております。

かくも由緒正しい出自を持った国、かくも気高い理想を持った国が外にあるでしょうか。このような高貴な国柄の国・日本に生れ得た感謝と感激を新たにしながら、更に天照大

御神の御神徳を伝え広めて参りたいと存じます。

本日は八幡神社の月次祭に御参列いただき誠に有難うございました。

(鹿児島県 岩川八幡神社 権禰宜)

日本人の蘇り

鈴木明子

（真つすぐに、正直に、一所懸命、前向きに生きる）――

これが今放映されているNHK大河ドラマ「八重の桜」に込められた、内藤プロデューサーのメッセージだそうです。

彼はこうも言っています。「こういう時代だからこそ、必要なドラマもあるのではないか
と思つて作つた」と。さすがですね。本当にこういう時代――日本が世界に誇れる日本人の
高い精神性――正直、勤勉、他を思いやる心、礼節など忘れたかのような時代――だからこ
そ、こういうドラマを作つて若者達に日本人の伝統的価値観、精神性に対する誇りを持つ
てほしいものです。会津藩の愚直なまでの幕府への忠誠心、天皇様への熱い思い、「会津の
女性の心は一つです。」と照姫様のお言葉で、女、子供、全てが団結して立ち上がる有様な
ど、まさに大和魂ここに有り、と言う感じで感動します。

八重さんは三つも異名があるそうで、会津のジャンヌダルク、京都ではハンサムウーマ
ン（美しい行いをする人）、日本のナイチンゲール（日清、日露戦争で看護婦として働い

た。晩年八重さんは、「私はただ一生懸命に生きただけです。」と言われたそうですが、会津藩の教育、幼いときからの仕の掟、弱いものいじめをしては、なりませぬ。卑怯な振舞をしてはなりませぬ、ならぬものはならぬのです、という教育、江戸時代の教育、徳育は世界に冠たるものだったそうですが、そうやって培われた日本人の魂だったからだと思えます。もう一つ、日本人の魂に感動したことがあります。

ご存知の方もおられると思いますが、今年の本屋大賞第一位に輝いた百田尚樹作、「海賊と呼ばれた男」の生き様です。これは戦後焼け野原となった東京から立ち上がり、出光興産という民族系石油会社を一代で築いた創業者、出光氏をモデルにしたドキュメント小説です。彼は恩師から言われた「士魂商才」、武士の魂で商いをする、を座右の銘とし、「黄金の奴隷たるなかれ」を社是として、あらゆる困難や妨害に立ち向かっていきます。その原動力は、終戦の二日後の訓話にあります。茫然自失としている社員を集めてこう言います。「愚痴をやめよ。愚痴は泣きごとである。断じて男子のとらざるところである。日本には三千年の歴史がある。大国民の誇りを失ってはならない。すべてを失おうとも日本人がいる限り、この国は必ず立ち上がる日がくる。昨日まで日本人は戦う国民であったが、今日からは平和を愛する国民になる。しかしこれが日本の真の姿である。これこそ大国民

の襟度である。日本は必ず再び立ち上がる。しかしその道は死に勝る苦しみと覚悟せよ。」と。一人の社員も首を切ることなく、復員してくる社員もすべてかかえ込んで、千名近い社員と共に歩み出すのです。困難にぶつかった時には、「店の事より国家のことを考えよ」と立ち向かっていくのですが、その様子はまさに日本人の熱き魂が甦ったといえるでしょう。

籠こもよ　み籠こも持ち　ふくしもよ　みぶくし持ち　この岡に　葉摘ます児　家告らな
名告らさね

万葉集卷一の巻頭の歌に雄略天皇が丘に若菜を摘みに来た乙女に心を引かれ、お声をかけられる御製の歌がでてきますが、古代より自然を愛おしみ春になれば、野山に出て若菜を摘んで命の息吹きをいたたく民族の私たち、現代の心の荒廃は自然から離れたからだとして、写真家の白川義員よしかずさんは「永遠の日本」という写真集を出版しました。「美しい日本の姿を徹底的に美しく撮って、清く正しく美しい日本人の精神を取り戻してほしい」という狙いだそうです。

そんな麗しくも美しい日本の自然に育まれた日本人は、江戸末期や明治に日本にやって

きた外国人達に、親切、正直、親子の情愛の深さ、勤勉、節度ある礼儀正しき（礼節）、細やかなものづくりなど、賞賛されます。特にからくり仕掛けなどは絶賛されました。

戦後六十八年、明治百四十六年がたちました。今こそ古来より培ってきた日本人の品性、清らかさを尊び、他を思いやる心、真つ直ぐに正直に、礼節を重んじ陰日なたなく働くなどを取りもどし、日本人として甦っていかなくては、と思うのです。

日本人として甦っていくとき、日本人の精神的支えとして天皇陛下の御存在の大きさを訴えていかなくてはと思います。

私が子供の頃、明治四十年生まれの母が、何気なく「天皇陛下がおられる限り、日本は大丈夫ですよ。」と言いまして、子供心に「ふうん、そうなんや」と思ったことを思い出します。家庭の中で何気なく、さり気なくポツとつぶやくことがこれからは大事ですね。

昭和天皇の御製

国民の幸あれかしと祈る朝

宮居の屋根に鳩はとまれり

常に国民や世界の平和を祈っておられます祈り人としての天皇陛下の御存在を、もっと世に知ってもらわなければならないと思います。

(滋賀県 立木神社 権禰宜)

神主さん、ありがとう、今年の賀状より

寺 本 正 徳

神主さん、神主さん、今年も早々に年賀状ありがとうございました。今年の賀状、あれ「ちゅうこん」と読むんですかいな。神主さんが一人ずつに書きはりましたんか……
そうです。真心を込めて書きましたんで、あれな、中なかと今いまと書きまして「なかいま」と読んで下さる。

ヘエ……儂な、てつきり「ちゅうこん」だと思い込んでいました。そう読みましたんで。

なんだか、今年の賀状あんたさんのような質問が多くありました。屁理屈すぎましたかいな。来年は工夫しますわ。

いや、いや神主さん、あれでええ、神主さんらしいわ。たしか昨年は、日本の原点、自然に対する畏怖と畏敬でしたわな、今年は「なかいま」、神主さんあの意味なんですかいな。

えらい心配させましたな、今度は素直に書きましようか。

神主さん、あれでええ、儂ら老人の頭の体操になりますで、儂らあ、あれでええ。

そうですか、頭の体操になりますか、真剣に、真摯に受け止めて下さる方々がおられることが嬉しいです。

処で神主さん、辱ながら改めて聞きますがな、中^{なか}と今^{いま}と書いて「なかいま」それどんな意味ですかいな。

古い大和言葉でしてな、続日本紀の宣命にみえる言葉で、天皇が新しく御位につかれた時、新皇の御代が弥栄に榮えますようにと言寿称え奉った時に使った言葉ですわ。

広辞苑、神道事典によりますと「ただいま、現在、刻一刻」の意味として使うと解説してあります。また、神道の死生観、神道の永遠、そして惟神の道にも通ずる言葉です。

なるほど、神道の死生観、惟神の道より出た言葉なんですか。

ご存知だとは思いますが、大和民族の死生観は、肉体は滅びこの世から亡くなっても、靈魂は永遠にこの世に存在し、今の自分から、子孫から祀りを受け蘇生をくり返しより強いものになる、永遠に守ってくれるという信仰を守ってきた民族ですわ。何方様にも先祖があり、現在の自分があり、子孫へと繋がっていくこの連帯を重視してきた民族です。

神主さん、ほんまその通り、先祖↓自分↓子孫へと引き継ぎ自然と共に生き共存共栄し

てきた民族ですわな。ええこと話しはりました、そんな大切なこと何時の間にか忘れかけてました。

いや、いや、今時の方に神道の死生観なんか説教しても信じません、戦後の教育は、目に見えないことの大切さ、教えてませんもの、それどころか一部の宗教でも、目に見えないことは迷信、だと説教してはります。残念ですな。

神主さん、戦後の教育も悪い、ほんま失敗でした、だがそれ以上に世間が乱れすぎてますわ。農ら多少でも戦前の教育を受けたもんにはたまりませんわ、農ら餓鬼の頃、悪さすると、爺、婆さんから「お前ら悪さすると罰が当たるで」と諫められたもんですがな。

神社に來られる方に「目に見えないものこそ大切なんですぞ」と説教しても馬耳東風、まるで知らぬ顔、淋しいことです……

ほう信じませんか、そういや我が家の孫でも目に見えないこと、迷信、と言いますもん。こんな世にや夢がありませんな。戦前生まれの農らなんかだんだん付いていけなくなりました。いま神主さんが説教しはった「大和民族の死生観、神道が惟神の道」に通ずるという意味、よう理解できました。

流石にええとこに気付いてくれはりました、亀の甲より年の劫、よう理解してくれはり

ましたな。辱ながら私昨年喜寿の祝いを受けました、自然の恵、自然からの掟をすっかり忘れかけていましたが改めて、刻一刻に生きる「中今」を大切にと心に彫刻しました。毎日が反省です……

神主さんでも、そうですかいな、年賀状の意味も解りました、僕も一足早く米寿の祝いを受けましたが、まだまだお迎えがきません、「中今」に頑張りますで。神主さん、よろしゅう頼みます。頑張りますで……神主さんの話聞いて胸のつかえが取れました「祭り（祀り）は靈魂の蘇生」ほんま、その通りです、神主さん神宮の式年遷宮も靈魂の蘇生ですかいな……。

話しましたように、神道は、靈魂の永遠を大切にします。式年遷宮は「神の勢いを保つ聖なる儀式」で『常若の思想』を強調、神の勢が常に瑞々しくあつて欲しいと願う民俗信仰の表れだと学習しました……

そうでつか、遷宮は、『常若の思想』その表れですか。……

遷宮には他にも色々な説がありますが、私は式年遷宮副本部長の河合先生の常若の思想説を取ります。

なるほど、ほんの一寸のつもりでしたのに、えろう長くなりました、家で婆さんが心配

してますんで、今日はこの辺で、またきます……

老人は、振り向きもせず帰って行きはりました。互に「中今」を大事にと手を合わせた次第。

完

（大阪府 稻荷神社 禰宜）

氏神様の力

平石綾子

氏子の皆さん、本日は「春祭り」と言われております当氏神様の御例祭にお参りを頂き有難うございます。総代様を始め行い当番の皆様、力を合わせての準備のお陰をもちまして、本年も無事にお祭りを終える事が出来ました。先立ちましては、老人会の皆様にも境内清掃をして頂いて居ります。私達でいえば、誕生日に例えられる御縁の深い、大切なお祭りですので、氏神様は、皆様の心尽くしを受けて大いにお喜びのことと思います。

さて、この数年来、大晦日の夕方、大祓い神事後、拜殿脇にテントを建て、自治会の地域作り事業として、「幸せ蕎麦処」を開店し、年越し蕎麦がふるまわれています。お世話下さる方々は、年末で忙しく大変な事と思いますが、年々お参りが賑やかに増え、帰省された方にもこの行事は、好評のようです。始めは、蕎麦を子供会や地域作りのメンバーで栽培する自然体験事業が企画され、おまけのように、皆で試食する機会として、大祓神事終了後が選ばれたのですが、寒い中での温かい蕎麦は好評で、蕎麦の量が足りない程喜ば

れ、今では栽培体験はないものの、既成の蕎麦をふるまう事業として残り、親交を深める場となりました。神事終了後も、境内が子供や氏子大勢で賑わう事は嬉しい限りです。

また、元日には同じように、（この地域では拝賀式と言っておりますが）朝の九時に揃って氏神様にお参りをし、氏子同志が年賀の挨拶を交わす折にも、甘酒のふるまいを行って頂いております。元日早々から村はずれの氏神様が賑わうことは縁起も良い事です。

地域の自治会の住民と氏子が、ほぼ同じであるという恵まれた条件が有るとはいうものの、会議所や運動場と同じように公共の福祉に神社の境内が使われる事は有りがたい事です。社務所がないので、お祭り以外には集う場所になりにくかった事情を思うと、本当に良い企画をして下さいました。

ところで、神道には敬神生活の綱領と言うものがあります。神様を敬い信じる生活を送るうえで、大切なところを示しているものです。読み上げてみます。

敬神生活の綱領

- 一 神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまことを以って祭祀にいそしむこと
- 一 世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
- 一 大御心をいただきて睦び和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

一つ目は、毎日を御先祖様や神様に感謝の祈りを捧げてきれいな気持ちで過ごしましょうということですね。二つ目は、自分の欲ばかりにとらわれず、世の為人の為という奉仕の心で貢献して過しましょう。三つ目は、国民が安全で平和に過ごせるようにと祈って下さる天皇様の心に応えるように仲良く過し、日本の繁栄と共に世界の人々とも仲良く繁栄できるように努めましょう、ということです。

考えてみますと、氏子の皆さんが、今日のようにお祭りの準備をしたりお参りして下さること、地域の繋がりを深め和やかになる場に神社を選び、蕎麦や甘酒のふるまいを企画して下さること、「有難いなあ」「嬉しいなあ」「美味しいなあ」「ご苦労さんやったなあ」と感謝や労いの言葉を発しながら、参加協力することは、全て敬神生活の綱領の実践に繋がっていると言えます。素晴らしい事だと思います。

それにしても私達が、何か催し事を起こす場合、その催しに「〇〇まつり」とすることが多いと思います。例えば、観光協会主催の「小谷城まつり」や地域福祉の会の「福祉まつり」「公民館まつり」等、人が寄り集まる機会やイベントは「まつり」とされる事が多いようです。子供会行事等で、神事とは無関係に空き缶で神輿を作り、担ぐことを楽しむ事もあります。にぎにぎしい事やたくさんの協力というエネルギーを必要とする時「まつり」

がふさわしいようです。知らず知らずのうちに祭りの持つ力を確信し必要としているように思えてなりません。

一方、今日のような氏神様の祭りは、お掃除をし、お供えをし、宮司が祝詞をあげ、皆で玉串を捧げ、湯立ての湯を浴びるというように年々歳々肅々と神事が進められますが、この年年歳歳こそ、そこに込められた力・エネルギーにはより一層大きいものがあると言えるでしょう。

私達の暮らしぶりは変わっていきます。人情味が薄れたと感じてしまう程、「交ぜ事」といわれる冠婚葬祭や先祖の供養の法事等、この地域でも「生活改善」の名のもとに簡略化や省略化が進んでいるのは御承知の通りです。「人付き合いは強情で嫌」、「忙しく夫婦共働いているのに休みに休めないのは嫌」というのが現状のようですが、その一方で、人との関わりなくしては生きてはいけない事も皆さん分かっています。少子・高齢化が進む今、防災上からも地域は固い絆で結ばれている事が、安心に繋がることも知ってはいるのです。

氏神様は昔からこの地域をずっと守っていて下さるのです。私達はこの地域に住み、私たち共通の神様、心の拠り所と大切にお守りし、祭りを続けることで、心の繋がりを、安らぎを共に感じる事が出来るのです。氏神様は太く長い絆で私達一人一人を結び繋げて

いて下さるし、困っていれば、秘められたエネルギーを最大限に放出し、助けて下さると共に、私達の持てる力をも十二分に発揮させて下さるのが氏神様です。

今日のお参りで、神様のお徳と共に、お下がりの御神酒も遠慮せずお受けになり、明日からの元気に繋げていきましょう。色々と大変な毎日ですが、どうぞこれからも氏神様の護持運営に御協力をお願い致しまして、本日お参りのお礼とさせて頂きます。

(滋賀県 地主神社 権禰宜)

神職の地域活動

東 條 貴 史

本日は「神職の地域活動」という演題でお話しを致します。現在私は、八坂神社で神職を務めておりますが、実は夜になると、白衣を脱ぎ、地元の弥栄学区の消防団「弥栄消防分団」の一員となります。

八坂神社では、国の重要文化財に指定されております、本殿や西楼門を始め、貴重な文化財等を多数有しており、急な火災や災害という不測の事態に直面した時への対処として、神社職員による自衛消防隊が組織されております。したがって神社の防火、防災に日々努めておりますが、私が奉職して二年目に、その当時、私の所属する弥栄消防分団の分団長であり八坂神社の氏子組織である弥栄自治連合会の方から「平成二十三年の六月に十一年に一度の京都市総合査閲に出場するので弥栄消防分団に入ってみないか」というお話を戴き、平成二十三年一月一日付けで弥栄消防分団に入団しました。

弥栄消防分団の活動は、主として地域の防火防災がメインであります。実際所属する学

区内で火災が起こった際、消防分団も実際現場に出動し、周辺道路の交通規制などを行います。又七月に行われる当社の祭礼「祇園祭」にも弥栄消防分団は奉仕しております。七月の十日・二十八日に「神輿洗式」という神事があります。この神事は当社の所有する三基の神輿一基のみを鴨川に架かる四条大橋上まで巡行し、お祓いをするという神事です。が、神輿が出る前に大きな松明が先導します。松明はもちろん火が出ています。この火の燃えカスを、弥栄消防分団が消火していきます。さらに、年末にも年末特別警戒と称し、所属する学区内を拍子木を打ちながら夜回りします。その年末特別警戒のハイライトは、十二月三十一日午後八時頃より始まる、「をけら詣り」です。八坂神社境内各所に灯籠を設置し、氏子の方々が祈願したをけら木を組み、葉草の一種であります「をけら」を入れます。この「をけら」は焼くと非常に強烈な臭いを発します。この臭いにより厄を祓うと云われておりまして、またこの火を燃えにくい竹の繊維で編んだ縄に移し、消さないようにくると回し自宅に持って帰り、それをおくどさんに移し新年の雑煮を炊き、無病息災を祈願する、これが「をけら詣り」です。これも境内の中で火を焚きますので、この防火活動に弥栄消防分団が奉仕します。私はもちろん両方とも神職として神事に奉仕しますので、弥栄消防分団の活動には参加できませんが、このような地域の方々の協力により八坂神社の

神事・行事が滞りなく斎行されることに非常にありがたいかみを感じます。

今まで話致しましたが、弥栄消防分団の主な仕事、又八坂神社と弥栄消防分団との関わりでしたが、さて最初に私が申しました弥栄消防分団に入団するきっかけとなった、「京都市総合査閲」の説明をしたと思います。京都市総合査閲というのは、京都市の消防分団、各区の代表全十一分団が、通常点検、小型動力ポンプ操法二つの訓練を行い、その内容を競い合う、京都市の消防分団の活動としては、一番大きい大会です。ポンプの方は消防分団員から選抜で四人出場するのですが、通常点検は弥栄消防分団総員十九名全員が参加しなければなりません。もちろん私は右も左も分からない状態です。そこで、六月の大会の約四カ月前程から、東山消防署での個人訓練が始まりました。基礎のみをしつかり練習し、四月から始まる、消防分団員全員での訓練に遅れを取らないよう、また迷惑にならないように練習をし、四月を迎えました。四月になり、毎週日曜日の十時から、消防団全体での訓練が地元中学校のグラウンドで始まりしました。五月になり訓練の回数が週に二、三回に増え、平成二十三年五月二十二日東山区総合査閲に参加しました。後日聞きました所、見事一位でありました。

東山区の査閲が終わり、日が近付くにつれ消防署の方々、署長を始め副署長など大勢の

方が訓練にお越しになり、指導にも熱が入り、徐々に緊張感が漂い、良い精神状態で本番を迎えました。

平成二十三年六月五日本番の朝、弥栄消防分団、また東山消防署長を含む消防署の職員数名と一緒に八坂神社に必勝祈願の御祈祷を受けました。現地に到着し、開会式では京都市長にもお言葉を頂戴し、京都市総合査閲が始まりました。順位の方は、六位以下という残念な結果に終わりましたが、弥栄消防分団に入団した一年目から、非常に濃い半年を送れたのかなと今現在思う次第であります。

神職が消防分団の活動に参加しておりますことは、全国的にも珍しいことと聞いておりますが、地域独特の消防活動や行事に参加することにより、私は神職として地域の方々と神社への情報を共有する架け橋となれるよう日々努めて参りたいと思う次第であります。

(京都府 八坂神社 権禰宜)

和の国の和の心を育む御遷宮

渡 邊 知 宣

一、東日本大震災

平成二十三年三月十一日、午後三時頃の事です。

神社境内に湧出している御神水を汲みに来られた方が、近くにいた私に「宮司さん、さつきまで綺麗だった水が急に濁ってきました。どうしてでしょうか」と話しかけてくれました。不思議に思いながら自宅に帰って、テレビを見ましたらびびっくり仰天の映像です。釘付けになって、ニュースに見入った日の事を思い出します。

この日からは皆様と同じように、大地震と大津波、加えて原子力発電所からの放射能という三重の被害に対し、悲しみに耐えながら再建復興への努力を続けられる被災地の方々に、心を寄せ続ける毎日となりました。

二、和の心・絆で進む震災復興

東日本を襲った今回の大震災には、その直後より世界中の国々から沢山の義捐金等の援

助のみならず、震災時の日本人の行動に対して賞賛の声が挙りました。

日本人が悲しみ苦しみながらも、助け合い励まし合う姿への賞賛は、私たちが日本人であるということに誇りをも感じさせてくれました。

そこで私は、現地の状況を自分の目で直に見てみたいという事、さらに世界中から賞賛された東日本の人々の「絆」の根源は何なんだろう、という疑問への答えも知りたくて昨年の三月に一人で、四日間の被災地への慰霊旅行に出かけました。

「百聞は一見に如かず」の通りでした。東日本の海岸線の惨状は目を覆うばかりで、涙を流しながら黙祷を捧げたり、大祓詞を奏上したりの旅でした。そして岩手県の平泉へも足を運んでみました。

今回の災害に襲われたこの地方は、平安時代末期の約百年間、奥羽藤原氏三代が治めた所です。激しい戦いの中で、父や妻子まで殺された初代藤原清衡公が、極楽浄土のような平和な世界を地上に実現したいと願って治めた平泉を中心とした文化圏です。この藤原氏を始め、この地方の人々は東北地方という厳しい生活環境下で、多くの神社仏閣を格別に崇敬し大切にされてきました。

現在でも、有名な神楽や虎舞等の伝統行事が数多くあり、地域一体となって神を敬い祖

先に感謝をする心が非常に強い、そのような事を知りました。

この敬神崇祖の心を基盤とする「相手を思いやる心・助け合いの心」が見事な「絆」となって世界中の人々を賞賛させているんだな、と思いました。大きな感動を得た東北地方への慰霊の旅でした。

三、神の国には相応しくない原発の利用

大学で化学を学び、現在は神職である私は、今回の大震災によりいろんな事を考えさせられました。

此度の東日本の大災害には二つの側面があります。

天災と人災の両側面です。天災は地震と津波による災害であり、人災は原子力発電所の爆発による放射能汚染という災害です。

まず、天災についてですが、天災の予測はこれからも完全には不可能でしょう。過去人類が経験した事のないような地震や火山の爆発等の災害が、今後無いとは言いきれません。隕石等の落下物が突然、空から原子力発電所を直撃するかもしれません。

そして天災よりさらに恐ろしいのは、人災の側面です。

人間は完全無欠の生き物ではありません。誰でもいつ何時、精神が異常になるかも知れ

ません。自分達の主義主張を通すために核兵器を作る国、コンピューターウイルスを送り込みサイバー攻撃する国や人、また他人の苦しむのを愉快がる人もいます。ボタンの押し間違いも起こります。いい人ばかりとは限らないのが人間社会です。人類の歴史は戦争の歴史である、とも言われます。

そしてさらに、原発で発生した使用済み核燃料の処理の方法や場所等は、ほとんどの国で未解決のままです。

また、この処理方法や場所を決めたとしても、地球のどこかに長い間、毒物を残してしまふことになります。

原発を利用するのであれば、これらの問題を先送りせず、子孫のために解決してから進めるのが当然の義務のはずです。次の世代へ「大きなツケ」を回す現代人の、何と無責任な事でしょう。

特に自然を神様と仰ぐ日本人の国においては、自然を破壊し神祭りを出来なくするような危険性のある核分裂の利用は相応しくない、と神職の私は思います。

今回の我が国の大災害は、その事をも神々が示唆されたように思えてなりません。

四、和の心を育む御遷宮や神社の祭りは日本の命

今年は古代より続く伊勢の神宮の御遷宮の年です。

我が国最大最重要の神祭りが斎行されます。

我が国は美しい自然に恵まれた国ですが、時には多くの人命を無くしてしまうような台風や水害、地震や津波などに襲われる厳しい国でもあります。

この厳しさに打ち勝つために、人々は東北地方だけに限らず大昔から神祭りを大切にしてい、その御加護を祈りながら「他の人を思いやる和の心」、即ち「絆の心」を育んできました。我が国が、和を以て貴しと為す「和の国」、「大和の国」即ち、「ヤマトの国」と呼ばれてきた所以であります。

天皇陛下はあらゆる折々に、「思いやりの心」「和の心」の手本を私たち国民に示されています。

千三百年もの昔より、二十年毎に斎行され続けてきた御遷宮の行事によって、日本国中の人々の敬神の念が、より強くなり、和の心をさらに高め、絆を深めてきたことでしょう。皆で神様を守ることによって皆が神様に守られる、そのような伝統を持つのが日本の国であると思います。先人の知恵と教えに頭が下がります。

天災も人災も残念ですが今後も続くことでしょう。その場合、最も大切なのは人々の

「和の心・絆の力」です。

五、敬神の心・和の心を未来に

平成二十三年は、我が国にとって不幸な年ではありましたが、私の奉務する正野神社では今回のような大地震にも耐える耐候性特殊鋼による見事な大鳥居が、氏子崇敬者の多くの方々の御奉賛で完成致しました。

千古の歴史を持つ神社が、さらに現代の人々の敬神の真心によって維持され祭りが続けられていく。

神社を預かる者として、大切な義務が少し果たせたような気がしています。これから「和の心・絆」という日本の伝統を、人々の心の中にさらに伝えていけるような、そのような神社でありたいと願っています。

- ・ 式内の正野の宮の大鳥居 朝日に輝やき天に聳ゆる
- ・ 伝説の出湯の里の大鳥居 人々見守り常磐に聳ゆる
- ・ 玉杵名の古き社の大鳥居 眞澄の空に眞白に聳ゆる

おかげ

金 倉 卓 彦

上板町西分東光地区子供会の皆さん、本日の当神社例祭に御神輿廻しを元気に御奉仕いただき誠に有難うございました。皆さんの「わっしょい、わっしょい」と言う大きな掛け声に神様も大変お喜びになられたことだろうと思います。また保護者の皆様方には大変暑い中に色々とお世話を頂きまして有難うございました。この後皆さんには冷たいアイスやジュースを準備してありますが、その前に少しだけお話をさせて頂きたいと思っています。

皆さんにとって、神社とは何をするとお願ひをしますところですか？それとも遊び場ですか？

いろいろと神社に来ることがあると思いますが、神社にお参りするということは神様に對して「おかげ」を伝えることだと思ひます。

では「おかげ」とはどう云う意味でしょうか。皆さんのお父さんやお母さんが「御蔭様で元気にやっています」という風に使っているのを聞いたことがあると思いますが、「おかげ」

は漢字で書くと「御」（オン）に、少し難しい字ですが「陰・蔭」（カゲ）と書きます。陰とは日の当たらない場所や表面に現れないなどの意味があります。つまり「御蔭様でうまくいきました」などと使った時には、私の知らない目に見えない場所で働いた作用によって物事が成功した、と言うことを表現していることになります。時には皮肉を込めて使われることもあります。が、「おかげ」とは感謝を表現する言葉ですよ。大抵の場合はこの感謝を伝える相手は人間でありますけど、実はそこには神様に対しての感謝の気持ちも含まれているんです。

皆さんは毎日当然のようにおいしいご飯を食べていると思いますが、それは誰のおかげですか？

お父さんお母さんが一生懸命働いて食事を作ってくれるおかげですよ。では食事に使われるお米やお野菜、お魚などの食材はだれが作っていますか？農家の皆さんや水産業の皆さん、またそれを市場に運んでくれる運送業の皆さんですよ。このお米やお野菜やお魚を作る為には太陽、酸素、水が必要ですが、これは誰が作ったのでしょうか？よく判りませんよね。昔の人たちはこのよくわからない力を神様と呼びました。そしておかげさまでと言うことで、人だけでなく目に見えない力、神様に対しても感謝の気持ちを伝えて来

たわけです。いままで当たり前と思っていたことをよく見つめてみると、この世の中は「おかげ」で溢れていることがわかります。この事に気がつき、意識することが出来れば皆さんのこれからの人生に必ずプラスに働くと思います。いまここに私がいて皆さんとお話できるのも皆さんのお父さんお母さんや色々な人々、そして神様の御蔭なんですね。本当に有難いことです。どうか皆さんがこれから成長していく中でこの「おかげ」の気持ちを忘れないで神様や人に感謝して生活していつて欲しいと思います。

実は私もつい最近この御蔭の心の大切さを強く意識する出来事がありましたので、ご紹介したいと思います。

四月中旬、妻が私に言いました。

「赤ちゃんできたよ」

私には既に二人の息子がおりますが、初めの子供を授かった時のように大興奮で喜びました。それから産院を受診し更に驚きました。なんと双子だったんです。私の妻も双子、兄の妻も双子で、周りが双子だらけになっちゃうよなんて思いながらも、神様のおかげに感謝しました。二人の息子達も一人ずつ抱っこしてあげると言って喜びました。双子の妊娠には色々リスクがあると聞いていましたが、検診の度に元気にしている事を聞かされ

ており、何の不安もありませんでした。

ある日、出張から帰宅し妻に聞きました。

「赤ちゃんどうだった」

すると五才の息子が言いました。

「赤ちゃん居なくなっちゃった」

言ってる意味がわかりませんでした。妻は目に涙を浮かべながらも子供達を不安にさせてはいけなと思ったのでしょうか。いつもと変わらない口調で

「心臓がとまってたの」

と言いました。染色体の異常が原因ではないかとのことでした。

ショックでした。心から楽しみにしていただけに大きな衝撃でした。なぜ私の子供が命を授かりながらも生まれ出ることができなかったのか。なぜ神様はお守り下さらなかったのか。

何もしてあげられなかった罪悪感に苛まれました。

そんな時、母が言いました。

「親孝行な子供やったやないの」

障がいをもって生まれてきて私たちを困らせないように赤ちゃんが自ら死を選んだ。だからその思いを受け止めて悲しむより感謝しなさい。そう言いたかったんだと思います。

実際にはお腹の中の赤ちゃんが意思をもって生死を選ばなんてことはあり得ないことだと思いますが、そう考えることで少しずつ気持ちが前向きに変わってきました。もちろん全て納得したわけではありませんし、今でも元気に産まれてくれればとの思いはあります。それでも双子の死が生命の尊さ、当然の様に生きて居られることの有り難さを身を以て教えてくれました。私は双子の死の御蔭でそれを知ることが出来たんです。

それまで頭の中では理解していたつもりでしたが、生きて居ることの有り難さと、良いことも悪いことも「おかげ」の気持ちで考えることで有難いと思うことが出来るということとを、この出来事ははっきりと教えてくれました。

私事ばかりではありましたが、どうか皆さんも身の周りにある当たり前のことに対して「おかげ」の気持ちを忘れず立派な大人に成長していただく下さい。

(徳島県 大麻比古神社 権禰宜)

「伊勢神宮と式年遷宮」

塩 崎 昇

皆さんこんにちは。今年は伊勢神宮の式年遷宮の年にあたります。

今から約千三百年前の昔、飛鳥時代から二十年に一度、連綿と受け継がれてきた式年遷宮、今回で第六十二回目を迎えます。二十年に一度、御殿を新しく造り替え、新宮に大御神様をお遷しし、国を挙げて御神威の更なる更新と発揚を願い、国民の平安と国家の隆昌を祈念いたします。そこには多くの人々がたずさわります。弥生時代の建築様式、奈良、平安時代に培われた宝物や装束をつくる技、それらのすべてが受け継がれてはじめて式年遷宮は成り立ちます。今日は、伊勢神宮の社殿のご用材を伐採する木曽の御山の男たちのお話を、NHKスペシャルから抜粋してご紹介したいと思います。

江戸時代から三百年間、神宮のご用材を伐り出す山は木曽の御山と定められています。平成十七年六月三日、伊勢神宮のご神体、八咫の御鏡を納める器である御樋代木のご用材を伐採する御杣始祭が執り行われました。

特にご神木と呼ばれるこのご用材は、樹齡三百年以上、高さ二十五メートル。節の少ないまっすぐな木が選ばれます。これを伐り倒して丸太にして伊勢まで運びます。この、ご神木の伐採は古式に則り、斧で行われます。そしてその切り方にも特徴があります。三つの方向から斧を同時にに入れて切りすすむ「三ツ紐伐り」と言う技を使って切り倒されるのです。これは、貴重な木を傷めずに倒す究極の技です。木を傷めずに倒すには、障害物のない方向をねらって確実に倒すことが肝心です。倒す方向の反対側に一点を決め、それを頂点とする二等辺三角形ができるよう他の二点を決め、そして三点のつるの部分を残して、三方向から中心まで伐り進めます。その間約一時間、杣夫たちはひたすら、斧をふるいつづけます。そしてご神木は、三本のつるで支える三点支持の原理でそのまま、一切傾くことなく立ちつづけます。そして最後に、倒す方向の反対のつる、「追い弦（づる）」を伐ると、ねらった方向に自然と倒れてゆくのです。

木を切り倒す杣夫は地元の職人たちがつとめてきました。数多くの職人がいた頃は二十一年に一度のこの舞台に立つことは最高の名誉でした。「木曾檜のご神木は 木曾の職人が誇りを持って伐る」この伝統は前回の御遷宮までかろうじてつづいてきました。

しかし今回、その三百年の伝統に危機が訪れました。チェーンソーが普及して五十年あ

まり、とうとう斧を扱える職人がわずかの人数となってしまったのでした。

そこで、土壇場になって伝統を守ろうと立ち上がった木曾の人たち。長野県上松町で、草の根の呼びかけが広まり、地元の実業関係者を中心に「三ツ紐伐り保存会」が誕生しました。七十歳代のベテランから二十代の若者までメンバーは二十人です。

最高齢は、保存会で指導役を務める田中登さん。御歳七十七歳。前回の杣夫の総責任者を努めた程の実力者です。田中さんは昭和四十年と六十年の過去二回、御杣始祭に参加しています。あれから二十年、当時の仲間たちの多くは亡くなったり病に倒れたりしています。三度目の御杣始祭に挑むのは田中さんただ一人だけです。「この機会に若い世代に伝統の技を伝えたい。」強い決意を持って保存会に加わりました。

そして、最年少は、田中さんとは五十歳年の離れた越健太郎さん、二十七歳です。斧で木を伐るのははじめての経験ですがやる気は十分です。越さんは、山の仕事をはじめて十年になりますが、普段使うのはもちろんチェーンソーです。父親が斧を使うせっかくの機会だからと参加を勧めてくれました。

保存会が練習で使うのはもみの木の丸太です。指導役はもちろん最高齢の田中さんです。現役を引退し、既に七年たっていますが、一度斧を手にとると本領を発揮。実力では誰に

も負けません。

その斧をふるう姿は、文字通り、足腰が座り、力を入れているように見えないのに、どんどんと伐り進んでゆきます。他の人と比べ、大きな木っ端を出しながら切り進んでゆくわけです。それは、斧をねらい通りの場所へ正確にコントロールできている何よりの証拠なんです。田中さんの斧はねらったところに吸い込まれるように入ってゆくのです。

それを食い入るように見つめる最年少の越さん。ここに、大ベテランと意欲旺盛な若者とが出会い、保存会を通じ伝統の技を伝え残してゆく道筋ができました。

最年少の越さんの家は、代々、木曾の山で木を伐る職人の家です。その心意気を受け継ぐと、越さんは、ひいお祖父さんが使っていた斧の柄の一部を切り取って、自分の斧に埋め込みました。その、四角い小さなくさび、越さんは、ここに先祖の心を受け継ぎ、練習に励みました。

練習も回を重ね、越さんは確実に腕を上げていきました。田中さんから始めて直接指導を受けたとき、越さんはこう感想を述べました。「始めて、目の前にして教えてもらった、知らないことをいっぱい教えてもらって、だからここでしっかり自分の頭の中にたたき込んで二十年後伝えられたらいいなと思ってます。」越さんにの心には、伝統の技を受け継い

でゆくものとしての責任感が生まれていました。

さて、最高齢の田中さんは、今回も総責任者である杣頭をまかされることになりました。田中さんはテレビのインタビュにこう答えました。「前の二回も尾弦を伐りましたので今回で三回目ですよ。」そういつて自信ありげで満足そうにうなずき、そしてなぜか寂しそうな目をして「皆さまの情けがそういう形になりました。最後です。これ伐って伊勢までとどければ私の人生終わりです。本望です。」こう言つて感慨深げに何度もうなずいていました。

そして、御杣始め祭の当日、三百人の参列者が見守る中、厳かに伐採がはじまりました。静寂のなか、田中さんのふるう斧の音が響きます。杣夫に選ばれた保存会のメンバーは全部で七人。交代しながらご神木を伐り進めます。その中には最年少の越さんの姿もあります。越さんはひいお祖父さんの斧の一部を御守にして、思いを込めて一つ一つ丁寧に斧を打ち込んでゆきます。

片や最高齢の田中さんは休むのを惜しむかのように斧を振り続けました。そして、切り始めてからちょうど一時間。いよいよご神木を寝かす準備ができました。木を切り倒すことを「寝かす」と言います。追い弦を伐る田中さんは、木を寝かす合図となる大きなかけ

声を出します。

「おーい、横山一本、寝るぞー」「いよいよ寝るぞー」そして、手につばをかけて、再び斧を入れ始めます。

田中さんの斧の音が静かにこだまします。八回程斧を入れると、「カッ カッ カッ」と次第に木が傾き始めます。すかさず他の二人が追い打ちをかけるように両端の弦に斧を入れます。すると「ギイイー・・・」とまるで木が悲鳴を上げているような音をたててゆっくりと倒れてゆきます。「ずっしーん」見事ご神木は、決められた方向に狂い無く寝かされました。参列者から拍手喝采。こうして、二本のご神木は無事寝かされました。田中さんはインタビュで恐縮そうに「今日は最高です。みなさまのおかげをもって みんな私を応援してくれました。お陰でできました。ありがとうございます。」そして、最年少の越さんは、満面の笑みで「いやあバテました。最高です。思い通りいったので、一つ一つ意味を込めて打ったので、最高でした。」

二十年に一度の式年遷宮、時代を超えて伝統の技を受け継いでゆく営みです。木曾で今、

斧を使って檜の巨木を伐る機会はこの式年遷宮の行事をおいて他にありません。式年遷宮をきっかけに木曾の伝統を守ろうと立ち上がった男たち、その心と技を二十年後の未来へと受け継いでゆきます。そして、森の再生。明日から再び将来のご神木を育てる仕事はじまります。親から子、子から孫の世代に伝統を受け継いでゆく。ここにも式年遷宮がもたらす大きな意義があると思います。

ご静聴ありがとうございます。

(和歌山県 伊勢部柿本神社 宮司)

桜と御英霊

小野 日 隆

本日はかくも大勢の皆様方にお集まりを頂き、恒例の慰霊祭を斎行することが出来ました。皆様方縁の御霊たちも、今日は皆様方のお元氣なご様子をあの御殿の奥から御覧になられ、さぞかしお慶びのことであろうと拝察を申し上げます。

今年は暖冬のせいか、境内の桜も例年より随分早く花が開き始めました。この分だと来月の春の大祭は葉桜の元での奉仕になりそうです。毎年この時期になると、咲き初めの境内の桜を見ながら思うことですが、あの桜の花に御英霊を重ね合わせる方は私一人ではないと思います。皆様方も桜の花に、その花びらにご主人の、お兄さんの、お父さんの面影をお偲びになられるのではないでしょう。

桜、それは日本人に最も愛される花、そして靖国神社、護国神社に最もふさわしい花です。万葉集の時代から今に至るまで多くの桜の歌が残されていますが、本居宣長は「敷島の大和心を人問はば朝日に匂ふ山桜花」と日本人の美意識と申しましょうか、純潔、純粹

無垢な心情を表しましたが、正に桜は「日本」を、「日本人」を象徴するものであります。そして、その散り際の潔さから「花は桜木人は武士」と、武士とその精神の象徴として捉えられて来ました。当然、その気高さ、純粹さ、潔さは御英霊につながるものであり、「桜」が靖国神社、護国神社に最も似合う花、相応しい花と言われる所以であります。実際、靖国神社を始め、全国の護国神社の御社紋は菊に桜です。

さて、本日は桜にまつわるお話をしたいと思います。それも、遙か南方のパラオという国にまつわるお話です。皆さんはパラオ共和国という国をご存知でしょうか。日本の南方三千二百キロに浮かぶ、南北六百キロに散在する二百以上の島からなる国です。ダイビングスポットとして若い方に人気があり、南洋の楽園、平和な島というイメージをお持ちの方も多いと思いますが、パラオは大東亜戦争の激戦地でした。ペリリュー島やアンガウル島は玉砕の島として知られています。パラオは日本軍にとってグアムやサイパンの後方支援基地として、日本の防衛圈上重要な拠点であり、滑走路を持つペリリュー島やアンガウル島はフィリピン防衛の正に防波堤でした。米軍は昭和十九年九月十五日にペリリュー島に、十七日にアンガウル島に上陸します。アンガウル島が十月十九日に、ペリリュー島が十一月十七日に夫々玉砕という壮烈な最期を迎えます。特にペリリュー島の日本軍は持久

戦に持ちこみ勇猛果敢な戦闘を繰り広げますが、圧倒的な戦力の差は如何ともしがたく十一月二十四日、生き残った将兵僅かに六十人足らず、ついに、玉砕を決定しました。守備隊長の中川男大佐、師団派遣参謀村井権次郎少将、飯田義栄中佐が割腹自決、そして翌朝にかけて、根本甲子郎大尉を中心とした五十五名の生存兵による「万歳突撃」が行われました。米軍上陸以来、日本軍は劣悪な状況の中で、実に七十三日間にわたって、ペリリュー島を正に死守したのでした。

この時、軍旗も機密書類も焼却したことを意味する最後の電文「サクラ・サクラ」が、パラオ本部に送られるのです。「サクラ・サクラ」、この六文字の電文は、ペリリュー島守備隊員全員が「桜花のごとく見事に散った」ということを伝えるためのものでした。

壮絶で永い戦闘が繰り広げられたにもかかわらず、このペリリュー島の民間人にはただの一人もの犠牲者も出ませんでした。これは、日本軍が「ペリリュー島民を戦渦に巻き込んではいない」との司令のもと、全島民をパラオ本島に疎開させたからなのです。当時パラオを委任統治した日本は、それまでの白人による植民地支配と違って、日本人の礼儀正さ、節度・道徳心、他民族を思いやる心で島民と共存共栄をしていました。

ペリリュー島の戦闘に関してこんな数字があります。日本軍の死者一万六百九十五名、

捕虜二百二名、米軍の死者二千三百三十六名、負傷者八千四百五十名、この他に精神に異常をきたした者が数千名。一方ペリリュー島の住民死者0名、負傷者0名。

戦闘が終ったペリリュー島は、米軍の激しい爆撃で変形していました。この珊瑚の島に戻った島民たちは、累々と散らばる日本兵士の遺体に涙を流し、兵士たちの墓地を作りました。この墓地は島民の手によつて今も整然と維持されているそうです。

一九八一年、自治政府としてパラオ共和国は独立、憲法が制定・發布されますが、この時に「日章旗」を模した「月章旗」ともいふべき国旗と共に、ペリリュー守備隊を讃える歌が作られました。ペリリュー守備隊とは当然日本兵のことです。題して「ペ島の桜を讃える歌」、国の為に尊い命を捧げ、ペリリュー島民を守り抜いた日本兵士を桜にたとえ、その日本兵への感謝の心を綴った歌、勇者を弔う歌です。

一 激しく弾丸（たま）が降り注ぎ

オレンジ浜を血で染めた

強兵（つわもの）たちはみな散って

ペ島（じま）は総て墓地（はか）となる

二 小さな異国のこの島を

死んでも守ると誓いつつ

山なす敵を迎え撃ち

弾（たま）射（う）尽くし食糧（しょく）もない

三 兵（へいし）は桜を叫びつつ

これが最期の伝えごと

父母よ祖国よ妻や子よ

別れの桜に意味深し

四 日本の桜は春いちど

見事に咲いて明日は散る

ペ島（じま）の桜は散り散りに

玉碎（ち）れども勲功（いさお）は

永久（とこしえ）に

五 今守備勇士（もののふ）の姿なく

残りし洞窟（じんち）の夢の跡

古いペ島（じま）の習慣で

我等勇士の靈魂（たま）守

六 平和と自由の尊さを

身を鴻（こな）にしてこの島に

教えて散りし桜花

今では平和が甦る

七 どうぞ再びペリリユーへ

時なし桜花（さくら）の花びらは

椰子の木陰で待ち侘（わび）し

あつい涙がこみあげる

八 戦友遺族の皆さまに

永遠（いついつ）までもかわりなく

必ず我等は待ち望む

桜とともに皆さまを

作詞者はオキヤマ・トヨミ女史、ジョージ・シゲオ氏です。現地の人々は未だ見ぬ桜の美しさを日本人の美徳と尊敬し、憧れの念を桜にたどって慕ったのでしょうか。桜を日本人の心だと感じたのでしょうか。パラオの人々は、日本軍は私たちを命に代えて守ってくれたという感謝の気持ち、そして圧倒的不利の中、強力な米軍と戦った勇敢さと純粋さに敬意を抱いています。日本兵は、勇気と国を思う気持ちがあれば、アメリカよりも強くなれることを教えて死んだのだと、今でも日本を敬っています。「サクラ・サクラ」の電文で桜花のごとく散った日本兵の美徳ある武士道精神は今もパラオの人々の中に生きているのです。

今年も、境内の桜は見事に咲くことでしょう。沢山の方々にお参りを頂き、満開の桜を見て頂きたいと思います。きっと縁の御霊たちの顔が浮かび、声が聞こえてくることで

しょう。

（大分県 大分縣護國神社宮司）

祇園祭について

北 島 雄 貴

本日は、私が奉仕させていただいております八坂神社の祭典祇園祭についてお話をさせていただきます。

祇園祭とは、大阪の大阪天満宮の天神祭、東京の神田明神の神田祭と共に日本の三大祭の筆頭として挙げられ、また賀茂の葵祭、そして平安神宮の時代祭とともに京都の三大祭の一つにもなっている祭事でもあります。

この祭事の始まりは、七九四年、桓武天皇により都を山城に移され、国が平安である様に祈りを込め「平安京」と名付けられたその時代まで遡ります。そしてこの京の都に多くの人々が密集するにつれ、必然的に疫病が蔓延することとなり、医療・防疫観念の発達していないこの時代において、都に住む人々に大きな打撃と恐怖を与え、この猛威を振るう疫病の原因を当時の人々はこの世への怨みの思いを持って亡くなった人々の祟りと考えられました。この怨霊を畏れ、祀る信仰は祇園祭の発生に繋がる御霊信仰の基盤となりました。

た。

そして貞観十一年、天下が大疫に見舞われた際、人民安全の為、勅を奉じ、六月七日、当時の全国の国の数に応じた六十六本の矛を立て、神輿を神泉苑に送り祈りを捧げた、この祭事が祇園祭の起源で、祇園御霊会といわれておりました。

現在の祇園祭では、八本の鉾、そして二十五体の山が七月二日の籤とり式にて順番を決め、七月十七日午前九時より四条通の地上より八メートル程の高さに張られた注連縄が長刀鉾に乗っている長刀鉾稚児によつて切られ巡行が始まります。

この巡行が始まる前、七月一日から七月十六日の間に八坂神社職員により清祓の祭事を執り行うのですがその際、各鉾町の祭場に行くと神前にその山に因んだ人形、掛軸、その山鉾を彩る様々な懸装品、ポルトガルなど外国にて生成されたタペストリーなど多くの国際性や宗教色を見る事ができ、その豪華絢爛さから動く世界の美術館とも称されています。また、各山鉾の主題とされているものは日本の神話・故事にとどまらず、中国の故事や仏教、道教など数多くの宗教文化と融合し、各鉾町各々の信仰、文化性窺い知ることもできます。

祇園祭にはこのように多彩な地域性のある信仰が多く存在しております。七月十日に執

り行われる三座のうち一座の神輿を担ぎ四条大橋上にて祓い清める神輿洗式においては、神社から神輿が出る前に何本もの竹を束ねた五メートル程の大松明を掲げ四条大橋へ至り八坂神社へ戻る道しらの儀を行うのですが、その際焼け焦げた竹を拾い玄関に厄除けを祈願しお祀りする信仰があります。他にも、巡行を終えた神輿は十七日から二十四日の間御旅所にとどまります。その七日間、参拝中はもちろん自宅から御旅所に行く間知り合いに会ったとしても誰とも口をきかず参拝をするようお願いが叶うという「無言参り」と言われる芸舞妓の信仰も見られます。この期間八坂神社の職員が御旅所に詰め朝方まで神輿警備、御守りの授与等を奉仕させていただいておるのですが、夜遅くになりますと、氏子の方や舞妓さん、芸妓さんの無言参りを見ることができます。

このように祇園祭では、神道はもちろん仏教、儒教、キリスト教など多くの宗教が取り入れられ、また地域においての庶民的な信仰、文化も加味され、祇園祭の多彩な宗教色・地域性・国際性を表しています。ここに日本人の古来より持つ複合的かつ重層的な豊かな信仰を祇園祭の中に見る事が出来ます。

また半月も立ちますと祇園祭が始まります。この祭典を経験する度、神社崇敬者をはじめ、氏子地域方々また各鉾町の方々、広くいえば観光に來られる方々との繋がりの大切さ

とその人々が一体となり、神と人とが共にある「神人と楽」の世界観を感じる事が出来ます。是非皆様に於かれましてはこの七月は八坂神社に参拝いただき、勇壮な神輿巡行、華麗な山鉦を見ていただき、この夏を清々しくお過ごしいただけますように参拝を心よりお待ちを申し上げます。

ご清聴ありがとうございます。

(京都府 八坂神社 権禰宜)

氏神様と季節の行事

馬 渕 明 美

鎮守の森の集いに、たくさんの方が集まって下さいまして有り難うございます。

稲荷神社は、野洲市の大字小篠原（北野、栄も含みます）にお住まいの皆さんの日々の生活を守り、地域の安泰をお護り下さる氏神様です。

遠いご先祖様や皆さんのおじいさん、おばあさん達が氏神様を敬い、感謝してこられた心を若い世代（子や孫）に伝え、更には縁あってこの地に住まいする事になった人々に氏神様の大切さを広め、古くから住まいされている人も、新しく住まいされた人も、皆さんのその住所の土地への感謝の心が広がる事、そして心のふるさと作りの手助けとなる事を願って、神社では、お祭りに併せて、様々な行事を開催しています。

年の初めは、お住まいの氏神様へ初詣。境内に掘った大きな穴での焚き火と甘酒で心も体も暖めてもらっています。

二月三日は節分です。お祭りのあとで『豆まき・福笹酒』の行事をしています。

五月五日は春のお祭りです。皆さんがお住まいのところに御神輿が巡幸されます。四基の御神輿は、約五百人近い子供がかついでくれます。

六月三十日は『夏越の大祓・茅の輪くぐり』をします。

七月には、神社の森で育ったカブト虫（約二百匹）を皆さんにプレゼントしています。

十月（または九月）は、収穫の感謝のお祭りに併せて『鎮守の森の集い』を開催します。このように、季節、季節にお祭りをしていきますが、その中でも三つのお祭りの行事についてお話しします。

先ず一つ目は、冬と春を分ける節分のお祭りです。お祭りのあとの豆まきはどなたでも参加できます。自宅では、なかなか大声を出しにくいというこの頃です。神社に来て下さい。みんなで「鬼は外。福は内。」とお腹の底から大きな声で言って、豆をにぎって思い切りまきます。体の中のものもやもとしたもの、邪気ははき出され気持ちがすっきりします。豆まきのあとは、福笹酒を召し上がっていただき、《福》を体に取り込んで下さい。すっきりした、穏やかな気持ちで新しい季節の春を楽しみ、一年の幸せをお祈りして下さい。

二つ目は、六月の夏越の大祓です。境内には、青々とした茅萱で作った大きな茅の輪が飾られます。神社に来て下さった方に人形代をお配りします。その人形代に、さまざま

「わざわい」を託し、そして、茅の輪をくぐって、邪氣を退け、すがすがしい《氣》を取り戻し、暑い夏を健やかに過ごして下さい。

三つ目は、今日の鎮守の森の集いです。この集いは、夏祭り（七月の愛宕祭）や、秋祭り（九月の粟の出来初穂祭または十月の草木祭）に併せて行つて来ました。

今年は、粟の出来初穂祭の日に行います。

生きていくのに食べ物が必要不可欠です。古くより日本人は五穀（米・粟・稗・麦・豆）を大切にしてきました。その中の粟の収穫を感謝するお祭りを午前中に行いました。午後からが今日の第十四回目の『鎮守の森の集い』です。この集いは、小学生を中心に中学生、幼児、お父さんお母さん、おじいさんおばあさんに、鎮守の森に集まってもらって、自然の中で笹舟を流したり、ザリガニ釣りをしたり、焼き芋をしたり、昔ながらの遊びをして、年齢を超えて交わり、楽しく過ごしてもらえたら嬉しいなと思つて行つて来ました。今までで、一番人気のあつたのは、「笹舟流し」でした。そして、大人も子供も夢中になった遊びは「ザリガニ釣り」でした。

神社の祭りを通して人と人の心の触れ合いを持つ事や、人間は土地と大自然の恵みを得て命をつないでいくことができる事を感じてほしいなと思います。また、子供達には、神

社の境内で遊んだ事が、妙に懐かしい思い出、自分が帰る事が出来る心の拠り所、懐かしい故郷の風景として心に残れば嬉しいなと思います。

さあ、恒例のワクワク宝探しや、遊びの広場や作ろうの広場で、お父さんお母さん達もみんな一緒に楽しい時間を過ごして下さい。集いの最後には、「ボン菓子」のプレゼント、焼き上がった「さつま芋」のプレゼントがあります。拝殿の廻りには、稲荷神社の九つの神事組の大人や子供達が一生懸命、画いて下さった大あんどんの作品も貼ってあります。夕方に電気を灯しますので、幻想的な雰囲気味わって下さい。

それでは、神職や神社の役員のおじさんお婆さんの注意事項をよく聞いて、けがのないようにして、楽しく過ごして下さい。

(滋賀県 稲荷神社 瀬川)

おひさま運動

中 木 屋 豊

私は羽田空港に着き、電車に乗り換え新宿に向かいました。私の隣は若いお母さんでその前には乳母車があり、十カ月くらいの男の子が乗っていました。電車が駅に着くたびに、反作用の法則が働くのでしょうか。眠っていたのに起こされるのか、三駅目で愈々泣きだしました。お母さんは、ジュースを持たせました。いったん泣きやんだのですが、次の駅で再びぐずりだしとうとう二つ目の駅では泣きやみません。すると哺乳瓶を含ませました。また一端泣きやみましたが、次の駅でまた泣きやまなくなりました。この間そのお母さんは、ずっと携帯電話で何かをしていたのです。メールだったのか、ゲームだったのか、のぞき見ることも出来ないのかわかりません。泣きやまなくなった赤ちゃんは抱きかかえられました。右手の携帯は相変わらず使われています。こんどは、反り繰り返って泣き出しました。私の辛抱もこれまででした。赤ちゃんに「お母さんお願いだから僕の方を向いてよ。僕に関心を持って欲しいと、云っているんだよね。」と言いました。赤ちゃんはすぐに

泣きやみました。続けて私は母親に、おしめかもしれないでしょう。泣くことでしかあなたに訴える方法を持たないのですよ。親は絶対自分を護ってくれる存在だから、知らない人が声をかけると、しがみついて人見知りをするのですよ。親との信頼関係ができている証左なのです。この子はお腹の中で母親の心臓の音を聞いたり、子宮の表と裏とに動脈があり、常に背中やおなかを柔らかく叩かれていますので、寝かせるときに軽い刺激を与えるのもそのためなのです。お乳を吸う練習もしているのですよ。人工乳も抱いてあげないと、本当の愛情がわからないのですよ。新宿まで本当に真剣に話を聞いてくれました。もうさみしくないよね、赤ちゃんは反応して笑いました。ハイタッチもしてくれました。降りるときその隣におばあちゃんも乗っておられる事がわかり、新潟からきて、これから病院に向かうのだと、おっしゃいました。良い話をありがとうございましたと感謝されました。

今の話のように、ほとんどの人が電車やバスの中で携帯電話を触っています。優先席にも若い人が座り、一心不乱に知らぬ顔をしています。三十年ほど前には車内で、漫画を読んでいる大人がいる事に、恥を知らないのか批判が上がっていました。公共広告機構の宣伝に、音楽を聴きながらはしゃぎ食事をしている若者に、電車はあなたの自宅ではありません。という痛烈な批判もありました。きちんとスーツ・ネクタイのサラリーマンが、新

幹線の車内で新大阪東京間を、ゲームをし続ける姿を見たこともあります。他にすることが無いのでしょうか。以前は公衆の面前での行動には、恥ずかしくない事が当たり前でした。いつからみんながしているから怖くない、日本人になってしまっているのでしょうか。

さて現在私の住む日置市は、おひさま運動に取り組んでいます。

おはようの声ひびく 思いやり育てる やさしい町 礼節（おはよう・こんにちは・いただきます・ありがとう・すみません）

ひろげよう読書 感動あふれる 学びの町 文武の文（本をひろげる・活動をひろげる・推薦図書の読破・利用カードの作成）

さわやかな汗 心と体きたえる 健康な町 文武の武（スポーツ・文化活動・ボランティア・地域活動・健康づくり・進んで健診）

まもろうきまりみんなでつくる 安全な町 きまり（交通の決まり「飛び出し注意、交通ルールを守る」・生活の決まり）

それぞれの頭文字で「おひさま運動」、これを市民運動として広げていこうと、今年二月社会教育委員の会の、答申としてまとめました。子どもたちは学校で家庭で取り組み、地域はそれを支えます。明るい挨拶が飛び交い、読書やさわやかな汗が、豊かな町を作ります。

思いやる心や決まりを守る道徳が、美しい人間関係を作ります。氏子や崇敬者はもちろん、天の下の国民全てが幸福でありますよう、全国の神社の恒例祭で祈られます。まさしくその思いを実現する実践活動です。戦国時代の薩摩、島津忠良公（日新公と称される）が残されたいろは歌は、「古の道を聞いても唱えても我が行いにせずばかいなし」の歌を残しておられます。実践が大事だと説いておられるのです。

繰り返し実践活動を進めていく事、大変困難が予想されますが、神社の活動を最大限活かし、賛同の輪を広げていきたいと思えます。今年二年目を迎えた、神社振興対策モデル神社の活動、夏越祭の六月燈と茅の輪くぐりに加えて、薩摩琵琶の弾奏と人形流しをしよう、計画を進めています。長い暑い夏を全ての人が、無事に乗り切る事ができますよう祈ることで、神社の社会的機能を発揮できるよう、まずは実践したいと思えます。

（鹿児島県 稲荷神社 宮司）

神社と人生儀礼の係わり

都 築 務

人はこの世に生を受けてからまず最初に受ける祭り、それは初宮参りではないでしょうか。

男の子は三十一日、女の子は三十三日に初宮参りに行くというのが一般的ですが、地方によって様々な風習がある様です。

今回研修させて頂いておりますこの京都、また関西地方では、初宮参りに行く赤ちゃんの額に文字を書いて初宮参りに行く風習がある様です。男の子には「大」の文字、女の子には「小」の文字を書くといった、私の地方では見たことの無い風習がある事を、たまたま見ていた某バラエティー番組で知りました。

この額に文字を書くというのは一体どのような意味があるのだろうか？つと、気になり調べてみたところ、色々な説がありました、この赤ちゃんの額に書かれている「大」の文字は男の子に書かれていて、「元気で大きく成長します様に」という意味が込められていたり、

女の子の「小」の文字は「優しく健やかに成長します様に」との意味合いがあるみたいです。

また何故、額に書く文字が「大」なのか調べると、額に「×」また「+」や「犬」等の文字もあり、この「×」や「+」の印は、古くから魔除けの意味があったり、また、「犬」の文字には、成長の早い子犬の様にスクスクと育ってほしい等の意味が込められているようです。その「×」や「+」印は月日が経つにつれて形が変わり、「犬」や「大」になった様です、また、女の子の「小」の文字は男の子が「大」なので、その反対の文字の「小」となったみたいです。

私とそのバラエティー番組を見ていた時は、お母さんが口紅を使って文字を書いていました。もともとは鍋墨を使っていたり紅などで書かれていたようで、鍋墨を使うのは将来この子が食べ物に困らない為に鍋墨を使っていた様です。

また本来初宮参りは男の子が三十一日、女の子は三十三日が一般的ですが、ここ京都では女の子が早くお嫁さんに行ける様にと男の子よりも早く初宮参りを行う事もあるようです。

もしかして昔はどの地域でも額に文字を書いて氏神さんに初宮参りに行っていたのかも

しません。

京都や関西地方等だけにこの風習が受け継がれて残っている事は、大変素晴らしく思いますし、これからも絶やしていけない大切な文化だと思っています。

そして次は七五三参りがあります。みなさんがご存知の通りこのお祭りも初宮参りと同じく子供の成長の奉告とこれからの健やかな成長を祈願する行事で、三歳の男の子と女の子の髪置きの際、五歳の男の子の袴儀、そして七歳の女の子の帯解の儀とその年齢ごとに祈願を行います。七五三参りは十一月十五日に行うのが一般的とされていますが近年は、あまり日を気にせず七五三に来られる人が増えてる様な気がします。

近年核家族の家庭が増えたせいかなシーズンはずれの問い合わせも増えてる気がします。初宮参りや七五三参りの行事や言葉は知っていてもそのお祭りの意味や内容まで知っている方は一体どれほどいるのだろうか？それならば私達が頑張って教えて行かなければいけないと考えます。

そして少し間が飛びますが次に成人式があります。二十歳になると、男女共に氏神さん等に出向き神様にお参りをして、無事に大人の仲間入りが出来たことを奉告し御祝いします。昔は男子は十五歳、女子は十三歳頃になると元服といい、髪型を改めるなどをして、

社会から大人として認められる儀式が行われていました。

今現在は地方の公共団体などが成人式を行っていて、成人すると社会人として選挙権などの様々な権利が与えられ、それと同時に法律上の責任や義務も生じ、大人としての行動や考え方を自覚する大切な節目の行事であります。

私自身は丁度その時、養成所の学生で、地元から離れていた為、残念ながら成人式に出席することが出来なかったのですが、ある日、毎日お世話になっていた食堂のお母さんがこの様な事を言ってきました。

「学生君達、成人おめでとう。」

「ありがとうございます、無事成人になる事ができました。」

「ところで、学生君達は地元の成人式に出ないのかね?」

「はい、丁度休みも合わなくて、帰れないんですよ、出来たら出たいんですけどね。」

「それじゃあ私の知り合いでレストランのシェフがいるから、私が頼んどいてあげるからそこに行つて、コース料理でも食べてきなさい。せっかく大人になったんだから、それぐらいしないと。」

「えっ、いいんですか?ありがとうございます。」

私達は早速、普段着る事が少ないスーツを着て、レストランに向かい、普段食べる事のない料理を頂き、食事を終え、大満足で席を立とうとすると、お店の方が「では、こちらでお会計をお願いします」と言われ、みんなが「えっ？もしかして頼んでくれただけだったの」とみんなでお金を出し合って店を後にしました。今思えば、大人になって、初めて社会の厳しさを知らされた、大変印象深い成人祝いだったと懐かしく思います。

また成人の日になるとテレビで各地方の成人式の報道をよく目にしますが、厳粛に成人式が行われる映像と、「荒れた成人式」等のあまり好ましくない内容の物も一緒に流れていました。

お宮参りや七五三参り、そして成人式等の人生儀礼の本来の意味をあまり気にしない人達が増えている様な気がします。

なかなか昔からの習慣や文化を伝えるのは大変です、しかし終わらせる事は簡単に出来てしまいます。その事を踏まえて私達が何をしなくてはいけないのか、また何をしてはいけないのかを今まで以上に自分もふくめ、氏子、氏子総代、参拝者また、あまり神社を知らない一般の人々に語り継ぎ教えていく事が私達の使命だと考えます。

(徳島県 大麻比古神社 権禰宜)

氏神（うじがみ）と親神（おやがみ）様

今井 一雄

・宮司さん

私は、八十九の歳になりますが「氏子で生まれ育った子供にとって氏神様は親神様になり、この親神様はその子の生涯の守り神になるんだ」と親から聞いております。私の親神様のおられる神社は、山奥の小さな部落にあります。私は、年（ねん）に一度のこの親神様の例祭日にはかかさずお礼参りをしてきました。しかし、今となつては、この部落も過疎化が進んでこの神社の神様も他に引越され社と森だけになってしまいました。私の親神様は、今でもこの森におられると信じ、今日の様なお祭りの日には、必ずこの親神様の方角に向いて感謝を申し上げます。私の子どもにとつては、ここの氏神様が親神様になり、こんな身近な所に親神様が何時でもおられ、大変有り難いことです。

などと私に話しかけて下さいました。今日の例祭日に当たりこの親神様ということについてお話し致します。

・一年（ひととせ）に一度（ひとたび）の氏神様の例祭日は、何時もと変わらぬ神のご加護に感謝を申し上げ、引き続き今後のご加護を授かる最も大切なお祭りの日であります。春祭りや秋祭りとは異なり、今日の祭りには、献幣使（けんぺいし）さんがお参りされました。ここに大きな意義がございます。献幣使さんは大きな弊（へい）を左、右、左と後ろに下がりながら三回振られ、続いて同じ動作を3回繰り返されました。これは、氏子民を代表し、氏子民に代わって神様のご神得（ごか護）を頂く（授かる）神事なのです。

・八百萬（はっぴゃくまん）の神と書いてヤオヨロズのカミと申しておりますが私達の周りには、数え切れない数（萬（よろず））の神様がおられ、父が母が祖父が祖母がそして又その父が母が祖父が祖母と私達の祖先さえも数え切れない萬の祖先神となった神様がおられます。これら祖先がお守りして来たこのお社の神様こそ親そのものの親神様なのです。

・人は、亡くなると身体と魂は別れ、魂は死霊となって家族の周りに留まっています。やがて祖霊になって氏神様の社に留まるようになります。その先は、祖先神となられ、ご家族の守護神となられるのであります。

・この私に話しかけて下さいましたお婆さんの親御（おやご）さんは、何処で誰からこの話を聞かれたのか判りませんが先祖代々言い伝えられてきたお話しでありますし、この祖先神の御霊（みたま）がこのお婆さんを通して私達に伝えてきた気が致します。

・今一度、例年に変わりなくこの例祭日を迎えられたことに感謝し、二礼二拍手

祓（はら）え給え 清め給え

守り給え 幸（さき）はえ給え

とお祈りし一礼しましょう。本日は、有難うございました。

（岐阜県 朝日大神宮 宮司）

真清田神社桃花祭について

犬塚 智博

本日は真清田神社の桃花祭についてお話をさせていただきます。

桃花祭とは毎年四月一日から三日かけて行われる当社の神事で、このお祭りは御祭神天火明命が当地にお鎮まりになった日を記念して始まったと言われ、当社にとって大変に重要なお祭りです。

文献上では室町時代の文明三年（一四七一年）久我家文書に見えるのが比較的古いもので約五四〇年前から行なわれていたようです。

このお祭りの起源については次の様な記録が残っています。

かつてこの地は「まつふりのしょうせいとうきゅう松降莊青桃丘」と呼ばれており、桃の木が多く繁り、付近に木曾川の支流が流れていました。人々は三月三日に桃の枝で身を祓い、それを川に流したというものであります。三月三日といえますと、皆様ご存知の通りひな祭り、桃の節句でござい
す。

もともとは「上巳じょうしの祓」とも言いまして、川辺や海岸に出て禊を行い、罪や穢を「人形」と呼ばれる、紙を人の形に切り抜いたものにつけて流していたのであります。桃の枝には厄を祓う力があると言われており、桃花祭は上巳の祓にあたるものと考えられております。現在では桃の枝で身を祓い、川に流すということは行っておりませんが、神職は冠に桃の枝を付けお祭りを奉仕します。また、お供え物にはそれぞれ桃の小枝を載せてご神前にお供えをしております。

明治四十二年までは旧暦の三月三日を祭礼日としておりましたが、翌年より新暦四月三日（太陰暦三月三日）を祭礼日として現在に至っております。

この桃花祭で一番の見所は、神社から南へ一・五km離れた御旅所まで神輿が渡御する神幸行列です。桃花祭は別名「馬まつり」と言われています。氏子町内から馬の背に様々な飾りを付けた「飾り馬」が引き出され神幸行列を一層盛大なものとしております。

この神幸行列の華とも言える馬ですが、実は非常に神経質な動物であります。襪が風にゆれてパタパタとなびく、また太鼓の音、カメラのフラッシュなどに敏感に反応し、神幸行列の途中で暴れ、乗馬者が落馬する事態も発生します。馬方さんは祭りに支障をきたさないために、お祭り当日まで懸命に馬の調整をしています。特に馬車馬は訓練が難し

く、お祭りの一ヶ月前から軽トラックを馬車に見立て、田畑でひたすらトラックを牽かせ当日に備えているそうです。

今お話したのはお祭りの一部分にすぎませんが、きらびやかな神幸行列もこのような馬方さんたちの支えがあつて成り立っているのです。

さて、話は変わりますが私は十年程前岐阜県で行われている長良川鵜飼についての講話を聞く機会がありました。その折に講師を務められた鵜匠さんは次のようなことをおっしゃいました。「文化・伝統を守るということは時代の流れに逆らうことです。」

我々は古式に則り、お祭りを行っていますが、時代の流れとともに様々な変化が生じています。桃花祭も時代の流れに飲み込まれ、大きく変化しています。かつて神幸行列には百頭程の馬が出されていました。しかしながら現在では三十頭程に減っています。この要因は何かと言いますと、昭和二十年七月二十八日に一宮を襲いました戦火により多くの町内が馬道具を消失してしまったこと、また地元で農耕馬を飼う人がいなくなってしまうこと、先程申し上げましたように、馬の扱いには大変に多くの危険を伴うことから扱う人も少なくなってしまったことなどが考えられます。さらに、一宮の地場産業であります繊維産業の衰退とともに、繊維工場が閉鎖し、大型ショッピングセンター、マンション、分

讓住宅などが数多く建設され一宮は名古屋のベッドタウンとなつてしまいました。ベッドタウン化が進むとともに、お祭りを知らない氏子さんが増えてまいりました。さらに少子高齢化が進むと共に、お祭りに参加するお子さんが少なくなつてきております。

鵜匠の先生が言われたように、文化・伝統を守るということは本当に難しいのであります。

人の心も時代の流れに飲み込まれつつあります。日本は経済的に豊かとなり、お金さえあれば何でも出来る、何でも手に入るそんな世の中になりました。その反面、目に見えないものを大切にする心が失われつつあります。神様仏様に手を合わす、自然の恵みに感謝をする、人を思いやる、そういった心が失われつつあるのではないかと思います。

古来より日本人は、木には木の神様が、水には水の神様が、火には火の神様がいらつしやると考えて生活をしてきたのであります。つまり目に見えないものも大切に、感謝してきたのであります。そして感謝の心を表すためにお祭りを行なつてきたのであります。お祭りを通じ、我々の祖先が大切にしてきた感謝の心、思いやりの心を今一度思い出し、文化・伝統を守つていきたいと思うのであります。

『氣枯レ』を誂うイセヒカリ

佐 古 建 彦

今年の二月、山口県神社庁の高橋主事より、「佐古先生、出雲大社の千家宮司の秘書から問合せが来ていますけど：イセヒカリの種籾の件で何か？」

「当方全く心当たりがありませんが、奥出雲の方で、種籾を希望されているグループがありますので、調べてみます。」と、一度電話を切り、無農薬で棚田の復元を実践しているグループの代表、坂本美由紀さんに電話で確認すると、「佐古先生が神社経由で種籾を頒布したいと申されたので、グループの方に相談したところ、その方が千家宮司様と親しい方でしたので、直ぐに今回の趣旨が伝わり出雲さまにお願いしたのですが：何か問題ありますか？」

私は、「坂本さんすみません、近くの氏神様か、崇敬神社さまにお願い出来ませんか？何はともあれ千家宮司様に失礼ですから：お断りして下さい。」と嘆願。二日後に坂本さんから、

「今年は五月の出雲さまの大遷座祭、十月はお伊勢さまの式年遷宮祭と大変おめでたい年です。その年にお伊勢さまで生まれたイセヒカリの種粃が、出雲さまに奉納され、奥出雲の棚田の復元に活用されることは大変有意義な事です。出来れば二月十七日、大社の祈年祭が斎行されますので、是非とも出雲大社でお願いします。とのことですが。」と逆に嘆願されたのです。

二月十七日の早朝、岩国から高速道路を利用し出雲大社さまへ。種粃四十五キロと、五橋イセヒカリの御神酒を奉納して、十五ヘクタール一、五町歩分、十七人の農家の方にお渡ししました。(全員無農薬有機栽培)

数日後、今度は国東半島の両子山ふたごやまの両子寺ふたごじさまから、イセヒカリの種粃を分与して欲しいとの連絡があり、詳細を聞くと、お寺のすぐ下の棚田が荒れているので、無農薬で棚田を子供たちと復元したいと若い副住職の寺田さんの篤い志に感動したのです。こちらの要望を伝えると、「イセヒカリは、神様から授かった貴重な高貴なお米ですから、出来れば神社経由で種粃の頒布をしたい。」旨をお伝えすると間髪を入れず「当方のお寺は、宇佐神宮から飛来された双子の神さまをお護りしている天台宗のお寺です。ですから、種粃は宇佐神宮経由では是非お願い致します。」とのこと。

四月四日、種粳十キロと五橋イセヒカリ御神酒を宇佐神宮に奉納し、種粳頒布奉告祭を斎行していただき、両子寺さまに種粳をお渡し出来たのです。

岩国イセヒカリ会として、今年は出雲大社さま、宇佐神宮さまに頒布出来ました。しかも両者共に棚田の復元と無農薬栽培を広めるグループからの要請です。自然再生と、自然に感謝する人達が増えていることは大変喜ばしい事です。

イセヒカリは何と申しまでも、無農薬・無肥料で出来るお米なのです。玄米で美味しく、安全、安心していただけるお米です。慣行農法（化成肥料・農薬使用）のお米で玄米を食べたら駄目ですよ！胚芽と糠に農薬・化成肥料が溜まるのです。だから精米して白米で食べざるを得ないのです。白米を横に並べると粕（かす）と読みます。栄養素の大半が除去されるのですから、栄養士たちは三十品目の栄養素を摂れと指導するのです。

日本人が白米を食べ始めたのは、江戸後期の大奥からです。白米を好んで食べた十四代、十五代の将軍は「カッケ」で亡くなっています。その後、一般庶民に白米食が広がり「江戸わずらい病」が流行ったのです。

戦後日本人は、「タンパク質が足りないヨ」とアメリカから肉食中心の食事に上手に転換させられ、動物性タンパクの摂り過ぎで肝臓は疲れ果て、脂肪の摂り過ぎで血液はドロドロ

口。カロリーの摂り過ぎはガン細胞に餌をやっているようなもの。一九九〇年以来、アメリカでは、ガン患者は減り、ガンで亡くなる人もずっと減り続けているのです。

全く逆に日本はガン患者が増え続けています。その理由は、腸の長さに関係があります。日本人の腸の長さは九m、肉食の西洋人は七mなのです。日本人の方が二m長いのです。穀物の消化は時間がかかるのですが、肉の消化は早いのです。日本人は、体の構造上からも肉食には向かないのです。腸が二m長い為に、宿便を溜め便秘の人が増え、ガンの発生率が高く成っているのです。『便秘は前ガン症状』『宿便は万病の源』なのです。

アメリカ政府は世界中の食事を研究しました。なんと日本の平安時代の食事が一番身体に良いと結論づけ、現在では野菜と玄米と魚中心の食事を勧めているのです。

私は有機農業を広める活動をしているので、有機農業を実践している篤農家の方達にお会いします。先日、広島で有機農業特に循環型農業を全国に広める活動をしている、大分県の赤峰勝人さんの講演を聴く機会がありました。その時面白い事を教えてもらいました。

京都大学の医学部のデータで、運動部の学生の精子の数を昭和四十年頃から調査しているそうです。日本に化成肥料や農薬の使用が一般化した頃からです。一ccに一億匹いた精子が、三十年経過した最近では、平均で五千万匹に半減しているそうです。三千万匹だ

と受精不可能でかなりの比率で問題のゾーンに入っているそうです。

そういえば、最近の言葉で「草食系の男子が増えた…」女性を必要としない男性が増え結婚をしたくない男性が多いそうです。赤峰さんは食事の影響だと断言されています。自分の農業塾「なづな農場」には、全国から有機農業を学びたいと若者が集まって来るそうですが、共通する特徴は、氣が抜けた「フヌケ」まさに「氣枯レ」の青白い青年ばかり。一日に二度の玄米（イセヒカリ）と有機野菜と手作りの「味噌」の食事を二か月続けますと、青白い青年がたくましい男に変身するのです。

それまではなかった、青年の男の特徴である「朝立ち」が現れとにかく元氣に成り精氣が満ち溢れ、きつい農作業も軽くなす様になるそうです。

まさに「氣枯^けレ」から「ハレ」に変わるのです。そして一年後には、塾の仲間の女性といつの間にか一緒に成り、結婚し独立して新規農業に参入するそうです。子供は三〜四人産んで頑張っているそうです。

その赤峰さんが申すには、玄米（無農薬）と天然の塩と清らかな湧水を摂ることが大切。数十年前は当たり前であったことが今では非常に難しい環境に成った。人間が生きて行く上で必要な、お米・塩・水を神様に御供えする。この三種を、安全で安心して摂れる自然

環境に戻す事を、今やらずしていつやるのですか? 「いままでしょう」と山・川・野・海を再生すると実践している、七十歳の赤峰勝人さんにエネルギーを戴きました。その赤峰さん、何とイセヒカ리를十五年前から栽培しているそうです。イセヒカ리의事を新聞で知り、神宮に行き神田の責任者に直談判して種粃を二百グラム戴いたそうです。イセヒカリには、特別な「力」があると申しています。

イセヒカリは、平成元年に神宮のご神田、西八号田に二度の台風に負けず、突然誕生したお米です。昭和四年第五十八回式年遷宮の翌年、昭和五年秋に神宮の瑞垣内、内宮の旧御正殿の軒下、こぶし大の白石が幾重にも敷き詰められた神域に一茎の稲が生まれ、いまにも三十粒ほどの粃が稔ろうとしていたそうです。普通には考えられない、あり得ない事です。古来、「お蔭参りの年」とされる遷宮の翌年に現れた「聖代の瑞兆」だということで、「瑞垣」と命名され、御饌料田だけで今も門外不出の稲として、大切に育てられています。この「瑞垣」が父方と想われます。

母方は、「コシヒカリ」と断言して良いと思います。昭和の御世替りに生まれた「瑞垣」を父親として、今度は平成の御世替り「イセヒカリ」が生まれたのです。

私は、この「イセヒカリ」は昭和天皇さまの大御心で、日本人の食生活の改善をしなさ

い、「氣枯レ」を祓いなさい、と（無農薬で栽培できる驚異のお米なのです）日本国民に与えられたと思っています。

まず玄米の「すごさ」に早く気付き、イセヒカリを里山・棚田で栽培することにより、限界集落の崩壊を喰い止め、都市に集中する人口を田舎に戻し、光を当て、限界集落の『神社を護持』し、自然再生、治山治水の原点に戻れと、昭和天皇さまがお示しになられていると思っています。

『日本書紀』神代巻にて、天照大御神は孫の瓊瓊杵尊に「この豊葦原の瑞穂の国は、あなたが治める国である」と仰せに成りました。そして「吾が高天原にきこしめす斎庭の稲穂を以て、また吾が児（みこ）にまかせまつるべし」と仰せに成りました。これを「斎庭の稲穂の神勅」と申します。ですから、私には神宮で生まれた「イセヒカリ」は昭和天皇さまの「平成の斎庭の稲穂」と思えてならないのです。

新嘗祭の十一月二十三日には天皇陛下さまがその年の新穀を神々に御親供なされる新嘗祭が宮中で行われています。戦後、この日は「勤労感謝の日」と改称され、勤労を尊び、生産を祝い、国民がお互いに感謝し合う日として祝日になりました。天皇様はこの御神徳に対する感謝の祭りとして、御自ら五穀豊穡を神々に奉告されるのが新嘗祭です。これに

倣って全国の神社においても新嘗祭が執り行われるのです。

昭和天皇 昭和二十九年 宮中新嘗祭の後 御製

新米を 神に捧ぐる今日の日

深くも思ふ 田子のいたつき

（天照大御神の神前に、新しいお米を神饌として奉納する新嘗祭の今日の日、農家の方々の苦勞にたいし、深く感謝の念をおもいます）

この歌の様に陛下が国民に感謝の念をお持ちになられる：

この様な国は絶対にありません！

神様にお参りする時の最初の祈りは「感謝」ですよ、お願い事は最後の最後ですよ・感謝する、感謝できる人は「謙虚」になれるのです、謙虚な人には「徳」が付いてきます。これが有る一面の「御神徳」かもしれません。

皆さん、日本人に生まれてきた事に、感謝しようではありませんか。自然崇拝と感謝、そして、イセヒカリのお話でした。

拙い講話にお付き合い頂き有難うございました。

（山口県 宇津神社 宮司）

「敬神婦人の役割」

鈴木重和

神社界を支える大きな力である、敬神婦人の役割について述べさせて頂きます。

現在、全国に多くの婦人組織がありますが、当神社の敬神婦人講の歴史は古く、今年で設立八十二年目となります。戦後に結成された敬神婦人団体は、概ね「○○会」という名称でご活動されておりますが、戦前に結成された同団体については、殆ど「○○講」と称しているようです。この「○○講」という呼称は、神社に参詣し神明に奉仕の誠を捧げる団体という本質を表します。当敬神婦人講は、昭和六年の設立以来、今も誇りと伝統ある名称を保って活動を続けております。

講員は現在四百名ほどを数えますが、活動内容は、毎月一回「例会」を開催し、向こう一ヶ月間の行事について協議の後、神職の月毎順繰りによる講話の聴講や、各種研修等を行います。又、神社祭典への参列・神賑行事への参加奉仕はもとより、春秋の境内清掃奉仕、七五三詣の受入れ手伝い、更に社会福祉活動として、育児院で七五三の歳を迎える子

供達を神社に招いてのお祝い会、塩竈市社会福祉協議会への寄付等を毎年行っております。講員の中には、茶道や華道を始め、音楽・演芸・絵画等に明るい方々、又、ある意味強い女性も多いのですが、各種行事の様々な場面で、女性ならではの思考と発想で、温かく神社を支えて頂いております。

我が国では、古来より女性を神聖視しております。八百万の神々の中で最高至貴の神・天照大神は女性神であることを始め、伊勢の神宮に奉仕する祭主も女性、斎王（さいおう・いつきのみこ）も皇族の女性でありましたし、式年遷宮に伴う鎮地祭に奉仕する物忌の童女の例も見られます。又、女王・卑弥呼の存立等々を鑑みましても、女性の「内に秘められた神秘なる強い力」を認めたものと考えられます。

武家社会に入りますと、当地は伊達家・仙台藩により治められますが、歴代の藩主は鹽竈神社の大神主、つまり当神社の最上位の立場で奉仕されていた歴史があります。その伊達家では、女性である夫人の役割が極めて重要視されており、十五代当主・邦宗公が、当家累代の歴史を子孫に伝える為に編纂した全十六巻に及ぶ書物『伊達家史叢談』の中に、「一家の繁栄・幸福は、夫人の手腕一切にかかるといった内容が見られます。伊達家では、特に「礼法」を重んじます。いかなる相手に対しても思いやりと気遣いをささげられ

る折り目正しい内面の部分と、目に見える清楚な立ち居振る舞いは、女性にとっては必須の教養と言えます。これを「婦徳（ふとく）」とも申しますが、女性として心得るべき最も尊い「婦徳」は、生命を誕生させ、そして立派に育むことにあります。又、男性が世間で評価を得れば、それは幼い頃からの家庭での躰であったり、夫人による平生の家庭采配の結果であり、それはすなわち女性の功績であると、伊達家では代々受け継がれ、そして繁栄して参りました。

因みに、余談になりますが、オシャレで粋な男性は「伊達者」と呼ばれますが、伊達家初代・政宗公が戦に出陣する際の軍装は、この上なく豪華であったとされます。そのスタイルは、二代目以降の歴代藩主にも受け継がれて参りますが、江戸時代の藩における最大の軍役であった参勤交代では、その人目を引きつける出で立ちは、当時、各地の大名が行列の華やかさを競う中でも、ひととき豪華絢爛、見送るすべての人々を魅了したと云うことです。これも、女性の影響かどうかは定かではありませんが・・・。

いずれに致しましても、やはり男女はお互いに尊重し合い、それぞれの徳性を涵養し、家や組織、共同体を守り、そして子孫・次世代の為に発展させてゆかなければなりません。ひと頃「ジェンダーフリー」という奇妙な和製英語が横行し、一部にあらぬ誤解や混乱を

招いた時期がありました。今では、ほぼ死語になりました。男女は人権上は平等であっても、本質的には全く異なります。伝統的な男女の価値観まで否定するような思想の下では、人としての規範はもとより家庭や社会が成り立ちません。男性には男性の「責任」があり、そして女性には女性の「役割」があるのです。

当敬神婦人講では、設立以来、次の四つの理念を基に活動して参りました。

- 一、皇室を敬い、親・祖先を大切にすること。
- 一、家庭仲睦まじく、楽しく暮らすこと。
- 一、浪費を慎み、家を富ますこと。
- 一、社会の福祉に寄与すること。

此を日々実践することによって、世の中に求められる人材を家庭から育み、明るく清らかに、強い志と真心をもって神社と地域に奉仕し、日本の美しい伝統を後世に継承してゆく事が、敬神婦人の担う大事な役割なのです。

(宮城県 志波彦神社鹽竈神社 権禰宜)

杜

上妻敏基

先日六月十日、霧島神宮では御田植え祭が奉仕されました。斎田に霧島山からの水を引き、田を耕し五月の播種祭からの奉仕で、田の神様を招き拔穂祭・新嘗祭まで奉仕致します。

水を引き始めた頃より森から沢山の蛙が出てきて鳴き始めます。人里より離れた山の田圃なので、螢の乱舞と共に数種類の蛙が周囲の山中から集まって参ります。住宅は少ないのですが、とても騒がしい日が七月頃迄は続くでしょう。因みに蛙の鳴き声を文字で表すと「ケロケロ」「ゲロゲロ」の音が、普通は思い浮かぶのですが、日本の蛙は「ケロケロ」「ゲロゲロ」とは鳴きません。よく見かけるトノサマガエルやダゴガエルは「グッグッグッ」「ゴッゴッ」茶色のツチガエルは「ギユウギユウ」ヌマガエルは「キャウキャウ」ニホンアカガエルは「キョッキョウ」ヤマアカガエルは「キイララキイララ」緑色のニホンアマガエルは「クワツクワツ」モリアオガエルは「コロロコロロ」シュレーゲルアオ

ガエルは「キリリカラララ」ヒキガエルは「クッククック」^{ツツ}と鳴きます。溜池では「ヴォーヴォー」とウシガエルが鳴いています。沢に近い所ではカジカガエルが綺麗な声で「フィフィフィーフィー」と声を聞き分けるだけでも大変なくらい沢山の種類の蛙が、霧島の山には住んでいます。

昭和九年三月十六日に日本で最初の国立公園に指定された霧島ですので、保護され豊かな自然が美しく、山は季節毎の変化があり訪れる人々を愉（たの）しませています。植物ではハルリンドウが、山中の寒椿の次に咲き始め、マンサクの花が登山者を和ませます。天然記念物のノカイドウがピンクの花を終えるとミヤマキリシマの花が高千穂峰を始め山々に、埋め尽くさんばかりに咲き、高山植物のコイワカガミ、山中にはコガクウツギの白い花、これからはドウダンツツジやオオヤマレンゲなど国立公園の守られた自然の中で美しい花々が、一年中楽しむことができます。花の少ない秋には山々を紅葉が彩り、冬場には山を真っ白に雪が包みます。

動物達も境内に猪・鹿や狸やアナグマ、夜にはムササビが飛び交い、猿・イタチやテンまでも出てきます。鳥も群れなす小鳥は数々おり、雉やカワセミ・ヤマセミ・アカシヨウビンやオオルリ・ヤイロチヨウ・ブッポウソウ、高山の大きな山鳥も現れます。貴重種と

される動植物が多く存在する自然の森が私どもの奉仕する、霧島神宮の鎮守の森です。

さて神社を包む鎮守の森を表すのに「杜^{もり}」や「社叢^{しゃそう}」を文字として充てます。樹木の根を意味する「杜^{もり}」の文字は、其の土地の土に適した樹木が生えていると説明ができます。また社叢は「社叢^{やしろぐさむら}」で叢の文字は、上代^{じやうだい}では、「モリ」の意味を示した物もあり、森林の生態学からも林の草むら（マント群と呼ばれる）から森が生まれるとあります。

只、上代^{じやうだい}には「杜」の文字を「モリ」の読みで用いた例は少なく、「モリ」の意味には「杜」が充てられ「もり」「やしろ」「さかき」の訓を持っていたようです。

漢字の発祥である中国に於いても「杜」の文字には「モリ」の意味は無く、『ヤマナシコリゴ』等の果物、または『ふさぐとじる』の意味『断つ 衝く』等の意味で、唯一『植物の根』という意味が「モリ」に近い意味であります。

林と森の違いと言えば、木が多いとだけ子供は答えますが、林は「生やす」の意味もあり人が生えさせた豊かにした「囃す」「榮やす」「映やす」など『榮えさせる、見映えのするようにする』と同じような意味を持ち、東北山形では包丁で物を切り分け数を増やすことを「包丁ではやす」という方言も残っているようです。対して森は木々が目に見えぬ神々の力により自然に繁り盛り上がった結果が森で、その中には神々が宿り「守る」「護る」

と云う信仰の対象と森はなり、日本の和訓で杜の文字を充てたのでしよう。

先に述べた如く、上代には杜の文字が「やしろ」「もり」「さかき」等の和訓を持ち、万葉集には杜の文字が一〇三首あります。「モリ」と読ませる和歌は十一首です。「ヤシロ」と読ませる和歌が十首あり、神社をそのまま「モリ」と読ませる和歌も三首あります。それ以外は、「何々コソ」神社者（カミコソハ）人社者（ヒトコソハ）などと読ませています。勿論「杜」の文字は万葉集には無く、森の文字も三首ありますが、「モリ」と読ませる歌は一首のみです。

神と繋がる意味の「ヤシロ」「モリ」「サカキ」を杜の文字に充てていたことで、空に近い山の水源から麓まで広がる自然の森が、天地を繋ぐ神々の道筋として大切にされていたかが理解出来ます。森の中に大切なものを奉る為に社やしろを建てるようになり、神の為の建造物に杜の文字を「ヤシロ」として専ら充てるようになり、天地を繋ぐ神々の神聖な森に杜「もり」の文字をと変わってきたのでしよう。

霧島には天降川あもりと云う河川が流れております。天より降る「あまおりる」の音が変化したのですが、「天降りあも」の言葉も万葉集には三首含まれます。これも「モリ」との繋がりを感じさせます。

自然をそのまま残した鎮守の杜は、動植物や昆虫細菌に至るまで科学知識の学習、社会に貢献する情操豊かな人間性の修得にも役立ち、自然界の森羅万象を信仰している我々日本人にとっては現代に於いても神であります。

鎮守の杜は今「パワースポット」という新しい名称を被されていますが、森の緑は目を癒し、梢のざわめきや水の流れる音などは、我々の心を癒す場所であります。また緑なす清らかな空気により、普段の生活では摂取出来ない自然界のマイナスイオンやフィトンチッドなる殺菌物質により体を癒す場所であることには間違いありません。

皆様も自分の親しみのある、なじみの杜をお持ちでしょうか？森林浴でマイナスイオンを浴びるだけではなく、小さな昆虫や落ち葉の形色彩まで、ゆつくりと森の中で過ごしてみて下さい。スポーツをなさったり、読書や映画鑑賞などストレス解消、心身のリフレッシュの方法は様々あるでしょうが、水と緑と大地の息吹を感じる鎮守の杜を訪ねて、日本民族の古代よりの神々に接近してみて下さい。

杜好きの一神主からの提案です。

「伝統」

山下裕嗣

さて、梅雨時期になりました蒸し暑い日が増えて来ましたが……。みなさん暑くないですか？……。エッ？「神主さん」「着物着てて暑くないんですか？」って？……。暑いですよ！下着に襦袢、さらに白衣も着てますから。「何で暑いのに着物着てるんですか？」って？……。そうですね、白衣着る「伝統」ですから。……「昔からですよね？」……。そうですね。……「いつ頃からですか？」……。……。

こんな会話が繰り返されるように、何事にも理由、悪く言うと理屈が無くてはならない今日この頃の世の中ですが、果たして全ての事柄に理由付けが必要なんでしょうか？今日「伝統」をテーマに、私の考えている事をお話しいたします。

私の奉仕している白山神社は、神社の歴史を見ても創立年代不詳となっておりますが、私が十五代目に当たるといふ事は、間違いのない事実のようです。少なくとも十五代は続いている社家としての「伝統」を、受け継いでいるわけですが、初代の時代はどんなご奉

仕だったんでしょうか？生活環境も、ものの考え方も随分違った時代に、どんなご奉仕をしていたのでしょうか？

大きなお社やしつかりした地域ならば、残された古文書を紐解いて見れば、ある程度の予測は出来るのかもしれませんが。しかし、当社はそんな大社でもなく、我が地域はしっかりとっているのですが、昭和五年にあった全町大火で、町の四分の三が焼け、旧社地にあった当社も全焼していますので、古文書など残りようがありません。

では、御創建当時の事は解らないのでしょうか？・ ・ ・ 答えは「ノー」です。そこには「伝統」の下に受け継がれた、不変のご奉仕の姿があるからです。御本殿には白山のお分け御霊である御神体が変わらず鎮まり、それに続く幣拝殿では、毎朝のお勤めと共にお供え物が用意され、祝詞が奏上されています。新年や春秋のお祭りには、地域住民がそれぞれ感謝と願いを持って参拝に來られ、平凡な日常の中にも「苦しい時の何とか」ではありませんが、神社の存在を感じて生活する氏子が居ます。ご奉仕の心とお祭りの形は、御創建当時と何一つ変わらないものであると信じております。

ご奉仕については、変わらない「伝統」の中に守られているのでしよう。では、他の事についてはどうでしょうか？御社殿は神明造や流れ造など、伝統建築によって受け継ぎ伝

えられています。装束についても、大祭や中祭に正服や斎服として着られる「袍」や、常装として着られる「狩衣」は変わらないものです。このように神社のご奉仕やその意匠は、昔ながらのままに伝えられ、大昔と同じ形をまさに今も見ることができるのであります。

冒頭にお話ししたところに戻って考えましょう。何故神職は白衣を着ていなければならないのでしょうか。また何故御社殿は伝統建築で造られなければならないのでしょうか。そして何故昔のままの装束でご奉仕しなければならないのでしょうか。……何事にも理由付けをしなければ事が収まらない現代社会の中で、神社を取り巻く環境に、その意味を解く事が果たして必要なのでしょうか？そして、その理由付けは可能なのでしょうか？

白衣を着ているのは、清浄を重んずる神職の在るべき姿です。伝統建築で御社殿を造るのは、宮大工としてその世界最高峰ともいえる技術を後世に伝えなければならないからでしょうか？装束を昔のままにご奉仕するのは……？……「伝統」だからです！有職故実でそう決められているからです！……なんか無理やりの理由付け、こじ付けになっちゃいましたか……。そうなんです！「伝統」の中に、理由付けなんか必要ないんです。もちろん、それを学問として研究し、そうであろう理由付けを探ることも教学研究の立場では必要でしょう。しかし、その時代時代において、人の生活も、ものの考え方も変わっ

てしまった時代に、その根源を考えることなどできません。推し量る事しかできませんし、当時の人々の考え方なんかは想像のしようありません。「伝統」の下に、そのままの形とそのままの心を只々伝える事が重要なんです。

藤原正彦先生の著書『国家の品格』にも「論理」ではなく「情」や「形」が大事であり、それが日本文化だと説いています。この本にも書かれている内容と同じような講演を、日本青年会議所の会頭が話された記憶があります。「なぜ人を殺しちゃいけないんですか？」を論理的に説明してはいけないという事。色々な切り口でこれを説明することもできませんが、それは「人を殺しても良い」を前提にダメな理由を考える事です。「人は殺してはいけない」のです。NHK大河ドラマの「八重の桜」が人気ですが、そこにも登場する会津藩校日新館の「什の掟」「ならぬことはならぬ」であります。

私も神社神道に受け継がれている「伝統」もその通りではないでしょうか？「どうしてこう」のではなく、「こう伝えられているからこう」で良いのです。今年は伊勢の御遷宮の年です。「伝統」として、変わらずに伝えられているからこそ、千三百年以上と同じ形の御遷宮を、今まさに目の当たりにすることができなのです。私も神社人は過去から伝えられた「伝統」を、後世に伝えてゆく「中今」にあることを忘れてはいけません。と

もすれば、今となつては不合理なものであつても、先ずはそのままの形を実践し、その中にある心をしっかり受け継ぐことこそ「伝統文化」なんです。この京都の町も、まさにその心で伝えられた「日本の文化」そのものではないでしょうか？

（石川県 白山神社 禰宜）

天神さまは暮らしと共に

東川楠彦

全国におよそ一万二千社を数える天満宮・天神社でお祀りされている菅原道真公は、古くより「天神さま」の愛称で日本人に親しまれている神様でございます。

菅原道真公は平安時代中期、天暦元年（九四七）御託宣により平安京の乾（北西）の隅にあたる北野の地に御鎮座になり、国家国民を守護する靈験あらたかな神として崇められてきました。天神さまをお祀りする各地の天満宮・天神社の多くが北野天神を起源としており、北野天満宮は天神信仰発祥の聖地とたたえられ、全国天満宮の宗祀（総本社）として広く人口に膾炙するところがあります。

道真公は天神さまと崇められ、学問・至誠・芸能・厄除・農耕の神として盛んに信仰されるとともに、やがて天神信仰として世の人々に展開し、庶民の暮らしに密接に関わり日本人の心の拠りどころとされてきた神様なのです。

今回はいかに天神さまが人々の暮らしと共に親しまれてきたのかを、いくつかの例を挙げながらお話しさせて頂きたいと思います。

まず以て、庶民の天神さまを語る上で象徴的なものとして挙げられますのが、江戸時代に流行した「わらべ唄」に唄われる天神さまでございます。誰しもが一度は耳にしたことがある童謡でも親しまれる神様として、わらべ唄の「通りゃんせ」には「天神さまの細道」という歌詞が出てきます。このなかでは「この子の七つのお祝いに、天神さまに参ります」と唄われているのであります。

歌詞の解釈には諸説ありますが、数え歳の七つといえ、昔で言うところの「氏子入り」をさしていると考えられます。それまで幼児として親もとで養育されてきたわが子が、齡七つを迎えますと、村の鎮守である「氏子」として正式に登録され、いわゆる「子供組」に加入するのです。

これの意味するところは、昔の日本社会では子供たちに幼少期から「組織の一員」としての自覚を持たせ、社会の秩序やルールを身につけさせる習慣があったという事であります。

さらに、江戸時代に盛んに開かれていた寺子屋への入門も大抵この歳ごろにあたるということから、七つという歳は当時の子供たちにとって、社会生活の第一歩を踏み出す大切な年齢であったと考えられるのです。

つまり、「七つの祝いに天神さまにお参りする」ということは、寺子屋入門にあたって、学問の神様である天神さまに祈願して、学業（読み書きそろばんなどのいわゆる手習い）の上達を願う親心をさすものであり、あるいは当時の子供たちの暮らしの姿を現しているものであり、童謡という人々に最も親しみやすい形の中で伝えられてきた身近な天神信仰なのであります。

他にも、一昔前までは兄弟や友達が集まってお菓子などを貰うとき、「どちらにしようかな…天神さまのいうとおり…」などと唱えて、指をさして最後にとまったものを取る風習などは、広く分布しているところでありますし、昔の子供は梅の実の種を「天神さん」と呼んで、「食べるとう頭が賢くなる」と言ってはこぞって梅の実を食べたそうです。まさに當時の子供たちにとっての天神さまは、梅干しと同じくらい日常的に親しく、身近な神様だったと想像できるのです。

また教育熱心な親たちは、暇を見つけては神社や寺院に参拝して、わが子のために天神さまの人形を買って帰ったそうです。この天神人形は全国各地に広く分布されているようで、現在でも天神人形なるものが郷土人形として伝承されている地域がたくさんあります。地方によっては節句の折りに天神人形を飾るところ、あるいは天神人形を御祝として贈る

地域もあるようです。

あるいは天神さまの御生誕が六月二十五日であり、御逝去が二月二十五日に当ることから、毎月二十五日を御縁日と称して多くの参拝者が天神さんを慕ってお参りをしました。

まさしく庶民たちの天神信仰とはこうした日常生活の風潮の現れであり、その名前もその信仰も、子供から大人に至るまで老若男女を問わず深く定着したものだっただと考えられるのです。

このように昔の日本人は事あるごとに「おてんとう様が見ている」あるいは「食べ物や粗末にすると罰があたる」あるいは「神様に足を向けて寝てはいけない」などと言い、常に自らの暮らしの中に神様を感じながら生活をしてきました。概して言えば、日本人は森羅万象、大いなる自然に靈魂を認め、神々を身近に感じ取ることが出来る感性豊かな民族であつたと言えるのであります。

親から子へ、子から孫へと伝えられていく敬神の心は言葉だけで教えようとしても、これはなかなか難しいものがあります。とくに子供たちに敬神の道を理論で教えるのは困難であります。遊びのなかや習慣のなかで、実際に見せて習わせて、体験から学ばせることが大切で、昔の人々は日々の暮らしの中にしっかりと神々の存在を伝え学ばせてきたので

す。神様を身近に感じられるようになれば、その人の暮らしにはおのずと「感謝」の気持ち
ちが芽生え、生活に「信仰」が生まれます。こうした心の働きが、敬神の心深き人間を育
て、心ある家庭を築き、誠の世の中をつくっていくのであります。

これはまさに天神さまが生涯一貫して示された「誠の心」に通じる姿であり、千有余年
に亘る長い歴史の中で、人々の暮らしと共に育まれ伝えられてきたものなのです。

こうした先人たちが継承してきた日本人の暮らしの姿に想い至るとき、現代に生きる
我々に必要なことは、いま一度、ひとりひとりが日々の暮らしに目を向け、敬神深き生活
を心がけること、これがなにより肝要だと思ふのであります。

（京都府 北野天満宮 権禰宜）

光格天皇とご生母大江磐代君

石 塚 智 康

昨年女性宮家創設に反対のお話をいたしました、幸いに安倍総理が白紙に戻すとの発言で一旦は安心しました。が、皇統の血を引いていらっしゃる旧皇族の方々の皇籍復帰を願う気持ちに変わりはありません。

第一二五代今上天皇様の會祖父が明治天皇様でその會祖父が第一一九代光格天皇様であります。即ち直系で六代遡ることになります。

この天皇様のご生母が「大江磐代君」というお方です。

大江磐代君の父は「岩室常右衛門宣休」という鳥取藩で倉吉を治める荒尾家に仕える家臣です。母は「りん」という町の娘です。父は思うところありて侍を辞めて医者になる決意を抱き身重の妻「りん」を残して單身京の都に上がりました。

「りん」さんは、延享元年（一七四四年）伯耆国久米郡神坂村田町（現在鳥取県倉吉市湊町）で女の子を産みました。名は「つる」といいます。

「つる」さん九歳の春父常右衛門が都から帰ってきました。医者として身を立てることができるようになり、名を「宗賢」と改めていました。

初めて見る我が娘「つる」の成長振りに、妻へ留守中にかけた苦勞に感謝し、愛娘に及ぶ限りの教育を受けさせたい、一家挙げて都に上がろうと説き勧めました。

しかし「りん」さんは「娘つるだけ連れて行ってください」と言い自分は京都に上がることは承諾しませんでした。

父宗賢は、止む無く妻「りん」を倉吉において、「つる」と二人で都に上がったのでした。都では、御所に勤める婦人たちの礼儀作法や身に着ける素養にも詳しい「寿仙」と言う人に娘を託し、上流家庭の子女としての躰や教養全般に亘る訓育を厳しくしつけられました。この頃名を「とめ」と改めました。

「とめ」十六歳のとき、「寿仙」の計らいで、即心院という宮中に奉仕する最高の女官「藤原保子」に仕えることになりました。

「とめ」は即心院の身の回りの世話から、訪れ来る人たちの応接など勤めました。

その頃、閑院宮妃籌宮成子内親王（中御門天皇の皇女で典仁親王とは従兄妹の間柄）が即心院にしばしば来て時を過ごされていました。

即心院にまめに仕えている「とめ」の健康で優雅さと人柄の良さは自然と目に留まり、懇望されて侍女となり閑院宮に仕える身となりました。

「とめ」二十三歳でした。このような経緯で幸運にも宮仕えの生活に入ったのでした。

閑院宮に仕えることになった「とめ」は閑院宮典仁親王の正室成子内親王の侍女として、籌宮に真心尽くして宮家、御所、更衣故実のしきたり等巧みに扱い、長年勤めの女官たちからも見返られるほどでした。

「とめ」が仕えて四年ほどたった頃、正室籌宮は体調を崩され病床に伏せる日々が続くようになりました。

典仁親王は籌宮に請うて、「とめ」を女房に召され（一部屋を賜り親王の側近）名を「大江磐代」に改め、籌宮の看護に勤めながら典仁親王のお世話をし、ご愛情にもお応えしていたのでした。

明和八年（一七七一年）五月十日籌宮薨去されました。

この年八月十五日「磐代君」は玉のような王子を出産しました。

閑院宮家にとっては第六王子にあたり、祐宮師仁親王と名付けられました。

「磐代君」二十八歳の初産でした。

宮家の深窓に暮らし、身に余る幸運と、思いがけない高貴な身分に上がったことへの恐れ多さに心を引き締めていた様子が、この頃書かれた消息文に伺えるそうです。

「磐代君」は典仁親王との間に五人の子宝に恵まれましたが、上の二人のみ成人されます。

安永八年秋、宮中においては、後桃園天皇の病気が重篤になり、御歳二十二歳ですがお世継ぎがありません。

祐宮に白羽の矢が当たったのは、皇統の関係から閑院宮家は最も新しい宮家で、祐宮は東山天皇の曾孫であり、ご健康で英資、聡明さが宮廷要路の人達から見込まれ、急遽、左大臣鷹司輔平が勅使として閑院宮家に赴き、祐宮師仁親王を「後桃園天皇のご養子に」というご沙汰がもたらされたのです。

祐宮師仁親王は九歳のご幼少でしたが、参内して儲君に挙げられました。

このとき祐宮兼仁親王と改名

安永八年十一月九日後桃園天皇崩御 十一月二十五日祐宮兼仁親王踐祚皇位継承されました。

翌 安永九年（一七八〇年）十二月四日 御所紫宸殿において天皇即位の大礼が挙行され、第一一九代光格天皇が正式に皇位に就かれたのです。

お齡十歳 ここに「磐代君」のお子が天皇の位に就くという奇跡が実現したのです。「典仁親王」は新天皇の父、大御所となられ、「磐代君」は新天皇のご生母となられたのです。

江戸時代の天皇は、天皇の子が皇位を継ぐのが当然という習わしだったので、宮家から皇位に就くというのは考えられなかったことです。

光格天皇は天皇の実子ではなく、閑院宮家という傍系から皇位を継承したことを常に意識し、古今の書物に触れて天皇のあるべき姿を追求しようと勉強に励み、和歌や音楽にも嗜みが深かったそうです。

それは、次の天皇に就く予定者の儲君となり、皇太子を経て皇位に就くのが正規の順序で、幼少の時から天皇学を受けるが、皇位継承の予定者ではなかったことからしても光格天皇には特別の苦勞があり、努力が必要だったようです。

朝廷の神事で最も重要なのは大嘗祭と新嘗祭ですが、天明七年の大嘗祭では、そ

れまでは略式で良くないから「貞観／延喜式」への復古がなされ、新嘗祭は御所内に神嘉殿を造り天皇自ら親祭する形に復古されました。

常に傍系意識を感じておられる光格天皇は、強い君主制を追及し、皇統の思いを意識統けられ、その思いは次の仁孝天皇、孝明天皇へと引き継がれ、曾孫の明治天皇によって明治維新へと結実していきます。

文化十四年（一八一七年）三月二十二日光格天皇讓位され同日仁孝天皇踐祚在位三十九年更に院政二十三年という長期間に亘り朝廷のトップにあり、儀式や神事を再興して朝廷の権威を復権された天皇でありました。

天保十一年（一八四〇年）十一月十九日光格天皇崩御 御歳七十歳

生前から「死後は親孝行させてほしい」との遺言により、母「磐代君」の眠る閑院宮家の菩提寺、京都の蘆山寺に尊牌が安置されました。

光格天皇ご即位から三年後の天明三年八月二十三日故郷倉吉に残した

「磐代君」の母「りん」死去 享年六十八歳

寛政四年六月十七日「磐代君」の父「岩室宗賢」死去 享年八十歳

寛政六年（一七九四年）七月六日「磐代君」の昼夜分かたぬ懸命の看護の甲斐もなく、閑院宮典仁親王が薨去されました。御齡六十二歳のご生涯でした。蘆山寺に正室壽宮と並んで葬られています。

この後「磐代君」は落飾し仏門に入り、わが子 聖護院盈仁法親王から「連上院定生」の法号を賜り、亡き親王を弔う身となりました。

文化九年（一八一二年）八月盈仁法親王が聖護院門前に「連上院殿屋敷」を新築したので、一生のほとんどを過ごした閑院宮邸を出て移り住みます。

その秋深まる頃から老齡の衰えか、病の床に伏す身となりました。盈仁法親王が三日に空けず見舞うも次第に重く至り、神仏の祈りの甲斐もなく十二月九日未明とうとう帰らぬ人となりました。御齡六十九歳のご生涯でした。昨年は没後二〇〇年でした。

侍を辞めて医者になった父の田舎出の娘が、光格天皇のご生母になるという世に類のない事実が誰しもが耳を疑うほど稀なこと誰が予知したでしょう。

幼年時代に母の愛情教育を受け、少女期は良い家庭で琢磨され、生来の素質もあったで

しょうが、努力と勉強は容易ではなかったことでしょう。

宮仕えに恵まれたことは縁かと思はれます。しかしついに歴史にこの上ない誉に至るまでの努力や辛苦を見逃してはならないと思います。

大江磐代君のご一生は、「つる」といつていた九歳の春、母と別離して上京してより後、ついに一度も郷里 倉吉の地を踏むこと無く、母の顔も見ることかなわず、六十年間京都でそれも殆どが宮家の奥深くで、宮仕えに終始の暮らしの身でした。

玉の光を放つ王子が天皇の位に就いたことも伝えられないもどかしさ、母の死を知っても世俗のように弔いに下がることも出来ない不自由を、宿命の致し方ない事と諦めながらもそうなりきれない思いの模様が、逢いたくて逢えない思いが、母を思う娘の情が溢れた流麗な「おりん様まいる」という筆致にみえます。

世俗の人々は、宮仕えの暮らしへの憧れを抱き、宮使えの人は、逆に世俗が味わえない不自由さを感じ

人の生き様は決まっているようで、人それぞれ

何時どこでどう変わるか誰も知る由ありません

人生、必ずしも意のままにならぬこともあると言うことなのでしょう。

ありがとうございます。

(鳥取県 山根神社 宮司)

米国分社 アメリカ椿大神社について

佐藤直道

アメリカ椿大神社は西海岸のワシントン州シアトル郊外、グラナイトフォールズ市の小さな町にございます。シアトル国際空港から車で約一時間。ピルチャック山という自然豊かな山の麓に鎮座しております。

何故アメリカに神社？と疑問を抱かれる方もいらっしゃると思いますが、これは「神道は日本人だけにしかわからないものではない 民族を超えて世界中の人々に理解してもらいたい」という、先代山本行隆宮司の強い信念のもと、約三十年前にアメリカに神社を建立いたしました。現在は、当神社で十年間にわたり神道の修行をされたコウイチ・バリシ氏というアメリカの方が禰宜として神社をお護りしております。

戦前、ハワイやブラジルには既に神社が建立されていましたが、アメリカ本土に本格的な神社が建立されたのは初めてのことでしたので、現地での関心はもちろんのこと、日本でも新聞各社が取り上げて話題になったそうであります。

私は平成十五年、アメリカ椿大神社に駐在をさせていただき、期待と不

安を胸にアメリカへと出発しました。そして、アメリカでの奉仕が始まったわけでありましたが、私の一日は禊ではじまりました。境内にピルチャック川という大きな川が流れておりまして、毎朝、バリシ禰宜と共に川に身を委ね禊を行いました。

ただ、ワシントン州シアトルという町は樺太と緯度が同じであり、非常に寒いところでもあります。もちろん、雪もたくさん降ります。境内を流れる川の水面に氷が張ることもありました。手水舎が凍りつくと春先まで融けないというような、非常に厳しい寒さの中での禊が私の一日のはじまりでございました。

境内は樹齡何百年もの大木に囲まれて、本当に自然豊かな所でございます。時には禊をしていますと、鮭が私の隣を横切ったり、頭上には翼を広げると二メートル以上の白頭鷺が飛び交ったり、鹿の親子が禊をしている私たちを不思議そうに見つめていたり、大自然というよりも、ジャングルといってもおかしくないほどの迫力満点の禊でありました。

禊後は、朝拝が行われ社務につくのですが、私の社務の地は、日本ではなくアメリカであり、そこには言葉の壁が待ち構えていました。日本人にも難しい神社の用語を外国の方々に英語で説明しなければなりません。そのような中で、ご参拝いただいたアメリカ人の方々に何とか神社の正式な作法で参拝していただきたいと思い、まず私が最初に覚えた

英語は二礼二拍手一礼でした。

[PLEASE BOW TWICE CLAP TWICE ONE FINAL BOW PLEASE]
今でも、このフレーズだけは、忘れません。

シアトル市近隣は多くの日本人が在住しており、連日、神社には初宮、厄祓といった御祈祷の方がお参りされる他に、節分祭、春季大祭、夏越大祓式など、本宮にならない斎行される恒例祭典には、現地の崇敬者が大勢参列されております。年末の大晦日には新年を神社で迎えようと、全米から約二千人もの崇敬者が参拝されます。

出張祭典の依頼もございまして、地鎮祭・竣工祭はじめ、シアトル市にある日本庭園の開園清祓や、市内の大学を会場として、秋には「日本祭」というイベントが開催され、約一万人が来場する中、ステージ上に祭壇を設け神式で世界平和祈願祭を斎行しております。また、日本の歴史と文化を教える授業の一環として、近隣の大学等では定期的に生徒を引率して神社を訪れてくれます。こういったアメリカ人の生徒たちにとって神社に参拝して目にするものはすべてが初めてのものばかりで、様々な質問を投げかけてきます。

質問は本当に素朴なもので、「手に持っていた木は何ですか」「ところどころにぶら下がっている白い紙は何ですか」「入口にある一対の犬は何ですか」あるいは、「神前に捧げた

枝は何ですか」など、目に跳びこんでくるものはすべてが新鮮であり疑問であり、改めてアメリカ人の神道に対する関心の高さが窺い知れると同時に、この経験は今後の日本の若い世代に対する神道教化にもつながると確信をいたしました。

ここ最近のニュースと致しましては、先月、ワシントン州の南、オレゴン州の海辺に、二年前の東日本を襲った大震災の津波によって流された神社の鳥居が漂着しました。その鳥居の取扱い方についてアメリカ椿大神社に問い合わせの連絡が入り、このような問題が生じたときにも、アメリカ椿大神社が日本とアメリカとの架け橋となっております。

アメリカでの滞在は一年という短い期間でしたが、非常に勉強になることばかりで、貴重な経験をさせていただきました。また、たくさんのご縁をいただく中で、特に現地の日本人の方々には、言葉では表せない程、大変お世話になりました。アメリカという異国の地にて、初めて日本人の心の温かさ、優しさ、助け合いの精心というものを実感しました。そして何よりも、このアメリカ駐在により、外から日本という国を見ることによって、改めて日本の伝統文化の素晴らしさ、そして、今まであまり考えることのなかった日本人としての誇りというものを自覚することができました。

シアトルに旅行に行かれる機会がございましたら、是非、アメリカ椿大神社にご参拝く

ださい。きっと、日本では氣づくことのできない、また違った日本の素晴らしさを感じ取っていただけると思います。

(三重県 椿大神社 権瀬宜)

あの日、あの時から

佐々木美津子

今、陸前高田市は、更地が広がり閑散としかつて美しい白砂の高田松原は、瓦礫を組み分けるブルドーザーが並び、騒音と砂ばかりの町に変わり復興が進んでいるようには見え、いったい何年掛かるのだろうか……と。

平成二十三年三月十一日。東日本大震災は、陸前高田市をはじめ東北三県に大きな被害をもたらしたのです。

あの日、電気店を経営していた吉田君は、妻と次男、母の三人を亡くし店兼自宅を流しひろしと二人になり、仕事一筋だった彼は、息子が口を閉ざしてしまい、泣きながら私のところに来、どうしたらいいのかと気のくるいそうな生活を送っていました。残っていた線香花火をあげ二人で遊んでごらんとあげた日から二年過ぎた今では、六年生になった長男は、休みの日には店番をするなど少しずつ大人への階段をあがってきており、三回忌法要後に向かった墓で「俺が死んだらもっと立派なやつ建てろよ」と言ったら「すごい建ててやる」と二人で笑える親子の会話が出来ると喜んでいました。しかし帰りが遅くなる

と「いつ帰るの」と電話してくる「やっぱり寂しいだろうなあ」と悲しそうに話していました。

仙台の荒浜で生活していた純君。次女の娘かのんちゃんを残し、妻と長女、自分の三人が流され、娘のかのんちゃんが高田の祖父母に引き取られ今四年生になりました。震災直後のかのんちゃんは、いつも強がりばかり言って涙も笑顔も見せない子でした。不憫に思ったおばあちゃんは一緒に死のうと思った事が何度もあり決して忘れる事の出来ない二年三ヶ月だったと。授業参観日に教室に飾ってあったかのんちゃんの絵は真黒にぬられてありびっくり、その絵は、家の窓から見た風景で、木のかげにかのんちゃんがいて、木の向こうにパパとママ、お姉ちゃんのいる絵でその時家に帰って来て泣いたと話していました。絶対心を開かず強がりを言っていたかのんちゃんの心を開いたのは校内マラソンの時とか：。「あのねアーちゃん「祖母の呼び名」最後まで走れたのは、パパとママとお姉ちゃんのおかげだ」って話したのが震災後はじめて口にした家族の名前だったと。結局後から二番目だったけど、走るのが辛くやめようと思った時は「かのんガンバレ」とママとお姉ちゃんの声、「かのんガンバレ津波にも負けないお前なら頑張れる」ってパパの声。だからかのん走れたんだよと……。孫の成長を涙ながら話してくれました。「じじとアーちゃん何歳

まで生きるの？もし先に死んだらかのんどうなるの？」と口にする事もあるとのことでした。久しぶりにかのんちゃんのおばあちゃんと話していたら「ただいまー」と帰ってきました。身長も伸び髪も長くし笑顔のかわいい四年生になったかのんちゃんです。「先生このふで箱お姉ちゃんの。かのん使っているの」宿題終わって「お姉ちゃんとかのんの相性うらないたいの」と今までのかのんちゃんから聞いた事のない言葉です。

今確かに吉田君、かのんちゃんのように、父や母を亡くした子供達は多くいます。いずれも二年前の悲しみを受け止め身体の成長と共に心も大きく成長しています。震災を乗り越えたこの子供達、命を大切に明日への希望に向かって進んで欲しいと祈っております。

(岩手県 天照御祖神社 宮司)

「惟神と根源」

山 本 行 恭

先ほどはご神前にて企業のご繁栄、並びに役員、職員のご安泰をお祈りさせていただきました。引き続きまして第二チャプターに入らせていただきたいと存じます。

今日は「惟神と根源」というテーマでお話をさせていただきます。実は、ある方からそういう依頼をいただいたというのは、企業の中で研修をやるのだが、どうも経営・経済ばかりでなく、もっと違った方面での話をしてくれる人はいないのか、ということがあったそうでありまして、どのような風向きか知りませんが、こちらに矛が回ってきたということでもありますから、あえて神社の神道理念ならびに、経営の理念というものがどのような形で合重なっているのかという、いわゆる変えてはならないものとは何なのか、ということの一部をご紹介にさせていただくぐらいに留めておきたいと斯様に思っておりますので、宜しくお願いを申し上げます。

神道の理念は清・明・正・直、清く明るく正しく直くというのが基本の四本柱であります。さて、皆様方は不動産会社を経営していらっしゃる。それも東京の渋谷・松濤という

一等地で店舗を構え営んでおられることを先ほどブログで拝見したところでございます。

そこで、皆様方にお聞きしますが、皆様方は今朝、早朝に東京からお出でになられて、この椿大神社にお集まりになられた。きつと、お疲れのことであろうと拝察をいたします。ところで、皆様方の会社は奇麗ですか？入口は奇麗になっていますか？神社仏閣の入口には必ず手水舎があります。手水舎は何をするところか。自分の心身を清めるのは当たり前ですが、清めてさらに神仏に向かい対話をさせていただく、その為には常に清浄にしなければいけない。皆様方は彼方此方に営業に行かれます。百軒営業に回った内、十人でも会社に来られた時に、会社の入口が汚かったら、あるいは応接室にご案内したときに、先の方の湯飲みがそのままであつたら、椅子が曲がっていたら、あなた方はどうされますか。もしもご自分がおお客様の立場だったらどうしますか。何なのここは？と誰しもがそう思います。そこにまず、お客様が安心していただけるような状況を作って差し上げるのが神道の教えと同じなんです。

私どもの神社は幸いにして松下幸之助翁から非常に多大な恩恵を蒙った稀有な神社です。そのお陰でお茶室もご寄進いただいております。また、松下さんの神社も建立してあります。その方が生きながらにして経営の神と慕われ、平成元年四月二十七日に九十五歳

で帰幽されます。あの方が一番最初に出会った商機は、自分が虚弱であつた、兄弟が大勢いた中で、丁稚奉公に出なければならなかつた。朝早くから起きて掃除をし、打ち水をするのがコウキチドンのお仕事だつたわけであります。そのようなことから入つて、まず何をしなければならぬか、人様がいつ来られても、いつ通られても、綺麗にしておかなければならない、というのがあの方の一番の使命でありました。これをもつて七十年間、王者として君臨されたのは誠に、今、世界のトヨタが云々と言われますけれども、一人で七兆円の財を刻んだ人はいまだにいません。七十年で七兆円と言いますと一年間に壱千億円の企業を作つたことと同じくらいに匹敵する。そんな人は誰一人もないわけであります。その方が一番大事にしたのが掃除だったのであります。掃除が出来ない者とは付き合ふな、つまり整理整頓の心が如何に大事かということをいつも考えておられました。それで、綺麗にする、清らかにすると人間は当然明るくなつてまいります。

古事記・日本の神話に天の岩戸開きという段がございます。天照大神は弟の残虐な行爲によつて岩戸に隠れられた。世の中が真つ暗になつてしまつた。真つ暗になつてしまつたら、悪いことがどんどん湧き上がってくるものだから、神々がいろんな知恵を出し合つて、何とか表に出て戴けるようどうにかしようとして、全部シナリオ通りにやつて、お出

ましになったときには、注連縄を張って入ってはなりませんということになった。明るくなった時に、再び世の中が平穩になった。これが明るさであります。押し並べて、営業に行かれる方が口をへの字にしているのか、やはり唇尻を少し上げて行かれるのか、男女共々に心の持ち方によって向こうに与えるインパクトは全く違つてきます。

正しく直く。今、大阪にしても東京にしても箱ものというマンションはすぐに完売になります。不動産会社はそれくらい景氣がいいのでしようが老若男女を問わず大変若い方でも自分のマイホームというのを持ちたい。それは大阪、関東共に土地がないものですから、当然マンションに視点をあてなければいけない状況はよくわかります。ですが、そのマンションも最低五千万円は下らないでしょう。そういったものを買おうという時に、店に來られてパンフレットを見せられて、これがあなたの御希望に添えるパンフレットだからといって、その場で渡されてもお客様は見る時間がありません。あらかじめ渡しておいても結構ですが時間をいただいて、このページにこのように書いてあります。耐震構造はこうです。これはオール電化になっております。そういったことを説明してあげると、そうなんだなと分かるんです。ところが、そこに正直にお客様と対峙しなければいけないということの教えがある。これはまさに神道の精神とイコールであります。そうすると人間はお

互いに素直な氣持ちになつてくる。素直な氣持ちになつた時には、そうだったのか、今まで知らなかったけども、そういうことだったのかということをも、改めて学ばせていただけるといふのが私は神道の理念と経営の理念とは全く密にするところではないかと思うのであります。

さあ、皆様方がこのような大きなところで、研修をしていただいて非常に有り難い事なので、もう少し有り難さが増すようなことも話さなければなりません、今、松下幸之助翁のことを簡単に申し上げました。あの方には三つの勝因の信条があります。それは、人と付き合うにはどうすればよいか。「掃除」の出来る人、つまり、整理整頓を心掛けている人と付き合わなければならぬ。それと、「愛嬌」のある人と付き合わなければならぬ。愛嬌とはなにか。人生における礼儀作法です。人と会つても挨拶もしない。おはようございますも言えない。こんにちも言えない。神職だったら、ようこそお参りです。御祈祷のお下がりを持つておられましたら、ようこそお参りでした。これを言う時に何が生まれるか。行動の礼儀作法によつて生まれるのはご縁なんです。ご縁が生まれたら、あそこで声を掛けていただいた。有り難かった。お年寄りにも声を掛けてあげたら、お年寄りは有り難いと思つて下さるのです。そしてまた、お越しいただけるのです。そのようにしてご

縁を積んでいくこと。

最後は、人との「対話」。これは、今皆様方に箱ものの話をしましたが、個室を持つということが一つのステイタスのシンボルになったということが数十年前にありましたが、皆が一階建てから二階建てに変わって、マイルームを作ってあげるのが、親が子にしてあげる最高のサービスだというふうに捉えられたことが大きな間違いでありました。あの時、個室に入って何をしておったか。その時にはまだパーソナルコンピューターはありません。自分がしたい事だけをする。夕食時にはまだ二階から下に降りてきて、夕食を済ませれば、またすぐに部屋に帰ってしまう。つまり「個」というものが蔓延^{はびこ}ったことにより人と対話が出来なくなってしまったということは、昔、私どもの少年時代には住宅の部屋の中で一つ団欒をもてる大きな部屋があったように、今がそうであればどうなんだろうか。そうすると、親と子が、子と親が何をしているか、どういう対話をしているのか、一部でも耳に入ったら、こういうことなのかと、明らかにすることによって、万が一、親と子に歪があっても瞬時に矯正できるという素晴らしい教え（訓）であると思わざるをえない。そのような事をするのが、松下幸之助翁は三つの条件で教えられた。あの方が、虚弱であつて色んな会合にも出なければならなかったが、どうしても体が弱い。代わりに役員を会合に

出すことが多々あったそうです。会合に出席した役員からは「非常に素晴らしい重要な会議に出席させていただきまして有り難うございました。この恩恵は終生、忘れ得るものではありません。一生涯、努力させていただくつもりです」と言われたのが、一番最後の山下俊彦さんであります。そのあとは松下イズムは徐々に影をひそめ始めたと聞いておりますが、そういうぐらいに人を大事にしてあげた。そして松下電器は電化製品を作っているだけではない、色んな物を作っている。そういう人を作っている会社が松下なんだということを自分たちは考えておけ、と言われた。あの方にも栄枯盛衰の時代があつて、初めの頃は金儲けをしなければならぬ。集金に行かなければならぬ。という時に奈良の天理教に足を踏み入れられた。天理教は御承知の通り、行ったら必ず「おかえりなさい」と言われます。ボランティアの方々は右にモップ、左にモップ、片方はウェット、片方はドライ、必ず持つて歩いていきます。そして長い砂利道を歩いたら、皆が入船方に靴を脱ぎますが、ボランティアが全部靴を拭いて出船方に揃えてくださっている。松下さんは、あの方たちは無償で何故あんなにニコニコと働いていらっしゃるのか。生き生きしておられるのか。と考えたときに、あの人たちは、宗教組織というのは人様を幸せにしなければならぬ使命がある。よし、それならわしの使命は何や？良い電化製品を作つてこの世の中

から貧困を無くすようなことをしなければあかんやないか！と思い立った時に、あの人はそのような行動をした。しかし、その行動は完璧なものではなかったことは、あとで本人も自戒をしておられます。その自戒をするのに作った材料が京都の「真々庵」という迎賓館の中にございます。そこには「根源社^{こんげんしゃ}」というお社がございます。それは伊勢の神宮、内宮の八分の一のスケールです。その前には円状の石と長方形の石が置いてあります。松下さんは何か自分が壁にぶち当たった時には夙にそこに行かれてお参りをされたそうであります。お金儲けができないのはどうしてだ、自分自身のためなんだ。今度は、人から貧を無くすためには物を作って人差し上げなければならぬ。作って差し上げるといのは人の為なんです。これだけでは違う、こういったところに、これからをもっと人の立場に立って物事を考えなければならぬ時代がきたとわしは思うと。そういう考え方をずっと踏襲されて今、セブン&アイ・ホールディングスの鈴木敏文氏というCEO（最高経営責任者）がこの二月に東京の赤坂のセブン・イレブンの店頭に生鮮野菜を販売しました。去年の暮れから土地が冷たく野菜が出来ない、何とかしなければならぬ。特別な畑を購入して野菜を安価に販売することをした。彼の勝負が始まったのは、そこからお客様の目線までを考える。つまり動線を考えているということは、全部、松下さんの教えであります。

皆様方は不動産の関係でビルを売るでしょうが、名刺を渡して色んな話をするなかで、相手の好みや趣味もわかってくる。あらゆる話に及ぶとき、この人がこのマンションを買う理由は海辺が近いから。そこで釣りが好きなのかなというイメージも湧きます。人それぞれ様々なジャンルをもって話をすれば必ず共通点は出てきます。そういったものは全部ご縁であって、先ほどの清明正直に全部入っていて、鈴木さんもそれを実行された。若い女性が仕事をして夜遅くなつて一人で食べるのに食材を買ったらもったいない。どうしたらいいんだろう。それならば、小さな食材を作ったらどうだろう。パイナップル七切入りで一四五円、リング数切れで二百円。セブン・イレブンはそういったものを売っていて、それを販売する従業員が頭を働かせなければならぬ、というような動線を作ったのですが、鈴木さんはすべて松下イズムから吸収されたものだと聞いております。

さあ、そこで、安心立命の境地に立って根源さんの氣持を考え、自分が何をすればいいか。惟神とはそんなに難しい事ではありませんから、普通の道を歩んだらいい、間違ったことをしてはならないということを自らに問いながら自らそれを実践することが惟神であるならば、この根源というのはすべての根源、商売の根源であります。その根源さんを大事にされたというところが松下さんのイズムであった。私はそれを大いに使わしていただ

きながら、そしてその恩恵を蒙っている神社のひとつとして皆様方に立ち入った話をするところではありますが、どうかこの機会を得て大いにご研鑽され、さらに全職員が一丸となつて氣魄を奮い起こして、事にあたっていただき、更なる御隆昌と御繁栄をお祈り申し上げます。

(三重県 椿大神社 宮司)

こんな子どもに誰がした

村田和之

荒廃した世相、放任主義、家庭崩壊、親が我が子を、子が親を殺す殺人事件。先日も雑木林の中に少女の遺体が発見された。調査によると離婚している母親が、お金を持っていないような人を町中で捜す為、置き去りにされた子どもが餓死したのだと云う。子は教わらなくとも作るのに、育て方を知らない親。親の虐待、衰弱死。文部科学省の発表によると、小・中学生の居所不明者が全国に九七六人いると云う。一体どうなっているのでしょうか。

たちねの庭の教えは狭まけれど

広き世に立つもといとぞなる

と、私達は教えられて来た。しかし、実際には、戦後、目の前の貧困から逃れる為に、一番大切な子どもの教育や家庭の教育を忘れてしまった。

今の親等は「今頃の子どもは悪い」と責任逃れをする。他の誰でもない、親自身がゲ-

ムにばかり夢中な子どもを育て、最悪のパターンを生んでいる。

一面、風葬・散骨・家族葬・直葬等の葬儀の営みの変化の中、新しく気になる風潮が起こつて来た。

それは、我が身内の骨壺を墓地の中を見渡し、大きく立派な他人の墓を捜し出し、その中に無断で置き去るというものだ。自分の墓に納めるよりも、大きく立派で掃除の行き届いた墓の方が故人に対する供養も手厚く行ってもらえるという理論。我が家の狭い墓、しかも、めったに掃除も供養もしない所より、安らかに眠って頂けるからと、自分勝手で一方的な親を思う現代っ子の気持ち、迷惑な話ながら分からないでもない。墓を開けてびっくりしない様ご注意下さい。押し込まれた故人は、見も知らぬ他人ばかりの墓の中で肩身の狭い思いをしているのではないだろうか。

こうした親の行動を子ども等はよく見、気付いている。

真実を見抜く天才等の詩が綴られ、「子供達に学ぶ日々」と題した本が発表された。

「おとうさんのうそつき」

町田市町田第六小学校二年生

夜、

「トランプしよう。」とよんだ。

おとうさんが、

「ごを五分してからな。」といった。

あつという間に五分たった。

「トランプとつてくる。」といった。

「なにやる。」といったら、

「ねむくつてやだ。またあした。」といった。

わたしは、かつときた。

「おとうさんのうそつき。」

「おとうさんいったでしょ。やるつて。」

といったら、

「じゃ後で。」といった。

「もも子あとじゃいや。今やるの。」

といったら、

「うるさい。」といった。

わたしは心の中で、

(うそつきはどろぼうのはじまり)
と思った。

「わたしがおかあさんになったら」

東京都豊明小学校一年生

わたしがおかあさんになったら

とてもすてきな人をおむこさんにします

それでママみたいに

パパをまたないで

先にねないで

おむこさんをまっています

それでママみたいに

よなかに

こそこそケーキをひとりでたべないで

おむこさんをよんで

ケーキやおかしをたべます

もし赤ちゃんがうまれたら

ママみたいに

ぎゅうにゅうじゃなくて

ぼにゅうをのませてあげます

この様に、子どもの目は大人を实によく観察している。大人こそ、子を持ったからには
本当の親にならなければならない。

銀も金も玉も何せむに

勝れる宝子にしかめやも

祖父母になつても、子どもの親は親、歳だからとあきらめず、孫やひ孫の為に親としての責任を持つてはありますか。

今年の五月、二十三日、心して聞くべき老人が出現した。全世界で放映された三浦雄一郎という八十歳の冒険家で、世界最高峰の山、エベレスト、八、八四八メートルの頂上を極めた人だ。私も日本一の富士山に一度だけ登ったことがあるが、その倍以上のエベレスト。マイナス二十度、空気は地上の三分の一という。

「八十歳でも、まだまだいける。世界最高の気分だ。」と頂上より家族に電話で話す様子は、皆さんもご存じの通りである。

常に目標を持ち生きている限り、最大限に生きることが出来る。生きる希望をいくつになっても持ち続け、子や孫に立派に生きる姿を見せること。「もう歳だから」とあきらめずに頑張ろうではないか。

成せばなる成さねばならぬ何事も

成らぬは人の成さぬなりけり

(広島県 長束神社 宮司)

巳歳談義

佐 古 一 冽

本年の干支は、巳―へび歳です。

俗に、〃巳年生まれは金に不自由しない〃と言われます。実は私は巳歳生まれでして、酒には不自由ませんが、お金にはいささか困っております。〃蛇の夢を見ると、お金を拾う〃との事。先日へびの夢を見た翌日、なんと自動販売機の前で百円玉を拾いました。

又〃巳年生まれの女性を嫁に貰え〃とか。少し嫉妬深いが、愛情こまやかで家計のやりくりが上手との由。

へび歳生まれの方の一代運勢をご披露致しましょう。

若い時は、衣・食心に叶い、晩年は繁盛する。剛気の気性で、よく艱難辛苦に耐えれば大事業を達成する。

几帳面で出世する人もいるが、猜疑心が強くて、人間関係で円満を欠く場合がある。自分の性癖を自戒して精進すれば、中年の中期に良運を得ることが出来る。

総じて『吉』と言ったところでしょうか。

○
蛇は、生物学の分類で申せば、爬虫綱有鱗目へビ亜目に属し、地球上全世界に分布して、約二五〇〇種類も生息しております。

我々は四つ足を持たない、あの独特な細長い体形で蛇行運動によって前進する姿や、チロチロと舌を出し入れして獲物を狙う姿勢、トグロを巻いた特有の攻撃・防御態勢、口を大きく開けて大きな獲物を呑み込む姿などが、人に不気味な感じを与え、恐怖感をそそりますが、一般に蛇の性質は温和で、逃げ足も速く、毒蛇でも自衛以外に人間を攻撃することはないそうです。

ギリシア・ローマの神話時代、へびは一方で邪悪な動物と考えられ、他方では愛すべき動物と見なされました。創世記に「神が造られた野の生き物のうちで最も賢いのは蛇であった」とあり、新約聖書にも「蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい」ともあります。

しかし、エデンの東の楽園では、

アダムとイブに禁断の木の実を食えと教えて、人間に生涯労働と妊娠の苦の運命を与えたのは蛇である。蛇はその罰として、言葉を奪われた上、舌に毒をはさまれ足を

取られて、這い回るようになった。

と伝えていきます。

我日本では、稲作と関連して、田や家のねずみを退治してくれるところから、稲の守護神・穀物神の神格が与えられていますし、加えてトグロを巻く蛇の姿は円錐型の山容に似て、それがあらぬか三輪の神奈備山の神・大物主神は、蛇体とされてきました。

○
へびの登場する逸話を一つ、ご紹介しましょう。

昔、楽広と言う人に親しい友人がいましたが、しばらく遊びに来なくなりました。或る日道でその友人に会い、「なぜ足遠くなったのか？」と尋ねたところ、「実は先日君の家で酒をいただいたが、その時杯の中に小さな蛇がいたようだったけれども、棄てるのも失礼だと思って飲んだところ、それから気持ちが悪くなって、ついに病気になる」という。そこで楽広さん、思い当たることがあり、「もう一度来てごらん」と言って、その場所に連れて行き杯を与え酒をつぐと、又しても蛇がいる。実は友人の座の壁上に懸けてある弓が映ったもので、その訳を知った友人は即座に病気が癒えました。

これを「杯蛇の厄」と言い、氣から得た病いを意味します。

○
ところで、蛇が好きという日本人は、わずか五パーセント。他の九十五パーセントは、「氣味が悪い・好きになれない・大嫌い」です。従つて蛇は嫌われものの、ヘビ・級ということになります。

序でに、へびについてのジョークを二つ。

一つは、沖繩のジョーク。

蛇を指さして、「お前毒を持っているのか？」と聞きました。流石、沖繩は米軍基地の島。英語で答えます。「イエス・アイ・ハブ」

今一つ。

酒飲みの亭主とその女房との会話。

「今日の晩酌ビール、中ビンにします？小ビンにします？」

○
「いやダイジャ！」

へびは、何度も脱皮するところから「不死と再生のシンボル」とされています。時恰

も本年は、お伊勢さん二十年に一度の第六十二回式年遷宮の年です。我々も大いに蘇り、生々とした素晴らしい一年でありますようお祈り申し上げ、結びとさせていただきます。

(京都府 松尾大社 名誉宮司)

神道講演構成法

神道講演の大先達、渡辺武清先生を始め、野村清臣先生、宮地保先生、河本眞澄先生、石井寿夫先生、佐古幸嬰先生など神社界のために一生を捧げられた大先生が神去りまして久しい、先生の教えの万分の一でも恩返しできればと門下生は各地で祈りの庭のひろがりをお願い神明奉仕に励んでいます。講演内容を組立てる構成法を参考迄に佐古先生の「庭のおしえ」より抜粋し、神道講演の手引きにしてみました。

「論」と「証」

一般には序論、本論、結論からなる三分法が主ですが「序」「論」「証」「結」の四分法からなる構成法の必要性を説かれています。

それは、本論をさらに分析して「証」を独立させ「論」の正しさを証明する。「論」で神道の古典を引用し大綱をしめし、その真実性を証明するために具体的な例話「証」を語る。内容として

I 何のために語るか（祈願）

1 神命をかしこんで立つ

2 まず祈れ

3 正しい志を

4 まじめな生活を

5 話は生きている

II 何を語るか（内容）

その一 体験を語る

1 体験を語る

2 体験を反省する

3 二つの「門」

① 自然のいのちのなかに神様を見る

② 人間のいのちのなかに神様を見る

その二 講演の内容

1 岩戸を開け、門にとどまるな

2 位に中す

3 講録をつくる

① 話の材料を集める

② 話の材料を選ぶ

③ 話をまとめる

④ 特に切り捨てについて

Ⅲ いかにかに語るか（表現）

1 わかりやすく語る

① 話はわかりやすく

② 自分の言葉で語る

③ 抽象的な論理よりも具体的な事実を

④ 話には「うねり」を

2 至誠をもって語る

① 主催者にも聴衆にも深い感謝を

② 至誠をもって語る

③ 遺言の覚悟

3 自然に語る

① 講録をはなれて

② 自然に語る

③ 個性ある語りぶりを

以上、紙面の都合で構成法を簡単に記して見ました。詳細については各地で活躍している門下生、又は、事務局迄お尋ね下さい。

第二十九回神道講演全国研修大会・京都大会の記録

於 京都府神社庁

神社本庁総合研究所所長 田中 恆清

顧問 寺井 種伯 (大阪府神社庁庁長)

々 藤原 正克 (兵庫県神社庁庁長)

々 栃尾 泰治郎 (奈良県神社庁庁長)

々 岳 尋幸 (滋賀県神社庁庁長)

々 西川 秀紀 (和歌山県神社庁庁長)

々 真弓 常忠 (住吉大社宮司)

々 大野 俊康 (元靖國神社宮司)

々 矢野 憲一 (元神宮禰宜)

大会会長 田中 恆清 (京都府神社庁庁長)

実行委員長

佐古 一洌

(松尾大社宮司)

実行副委員長

落合 偉洲

(久能山東照宮宮司)

々

山本 行恭

(椿大神社宮司)

参 与

村田 和之

(長束神社宮司)

実行委員

芦原 高穂

(旭川神社宮司)

々

生寫 經和

(松尾大社権宮司)

々

小串 和夫

(熱田神宮宮司)

々

鍵 三夫

(志波彦神社鹽竈神社宮司)

々

河本 文夫

(宮尾八幡宮宮司)

々

蘭田 稔

(秩父神社宮司)

々

谷田 勉

(劔緒神社宮司)

々

長曾我部延昭

(伊豫豆比古命神社宮司)

々

戸内 康雅

(心清水八幡神社宮司)

々

中木屋 豊

(稻荷神社宮司)

実行委員

々

中野 幸彦
(元多賀大社宮司)

々

塙 東男
(笠間稲荷神社宮司)

々

宮川 脩
(福井県護国神社宮司)

々

山下 裕嗣
(白山神社禰宜)

々

山田 一孝
(靜内神社宮司)

々

山元 義清
(老杉神社宮司)

渡邊 知宣
(疋野神社宮司)

— 実行委員五十音順 —

事務局 長

畠田 明彦
(松尾大社権禰宜)

事務局 員

村田 和弘
(長束神社禰宜)

々

村瀬 佳子
(長束神社権禰宜)

々

鈴木 明子
(立木神社権禰宜)

神道講演全国大会のあゆみ

大会	開催年月日	開催場所	大会会長	実行委員長	事務局長	講話集
第一回 東京大会	昭和四六年八月四～六日	神社本庁		石沢 久英	久保田 博人	
第二回 広島大会	昭和五〇年八月八～一〇日	塩屋神社		石沢 久英	河野 貞愛	
第三回 伊勢大会	昭和五四年八月二七～二九日	神宮会館		猪瀬 好一	山本 行隆	五十鈴川
第四回 九州大会	昭和五八年六月七～一〇日	太宰府天満宮		西高辻 信貞	宇都宮 正元	神国の春
第五回 みちのく大会	平成元年八月二一～二三日	高山稲荷神社	工藤 伊豆	新山 昌孝	平澤 明穂	平成の民の祈り
第六回 伊勢大会	平成二年八月二〇～二二日	椿大神社	岡本 健治	山本 行隆	二橋 一彦	うまし国日本
第七回 東京大会	平成三年八月二七～二九日	全国神社会館	大野 俊康	山本 行隆	青島 清三郎	食国の祈り
第八回 宮崎大会	平成四年八月二四～二六日	宮崎神宮	大宮 四郎	山本 行隆	本部 雅裕	
第九回 愛媛大会	平成五年七月一九～二一日	愛媛県護国神社	大宮 四郎	山本 行隆	小川 純生	天翔るみたま
第一〇回 東京大会	平成六年七月二一～二三日	靖国神社	大宮 四郎	山本 行隆	坂 明夫	
第一一回 北海道大会	平成七年八月三～五日	鳥取神社	山本 行隆	鈴木 瑞彦	奥谷 由起子	大禊
第一二回 広島大会	平成八年七月一六～一八日	三瀧荘	山本 行隆	村田 和之	村田 和弘	
第一三回 伊勢大会	平成九年七月一七～一九日	神宮会館	山本 行隆	矢野 憲一	中村 昌司	神路山
第一四回 京都大会	平成一〇年八月二七～二九日	八坂神社	真弓 常忠	佐古 一洌	嶋田 達久	追憶

大 会	開催年月日	開催場所	大会会長	実行委員長	事務局長	講 話 集
第一五回 東京大会	平成二一年九月九～一二日	全国神社社会館	宮西 惟道	村田 和之	生寫 經和	神国の教え
第一六回 愛媛大会	平成二二年八月三～二五日	石鎚神社	十亀 興美	村田 和之	生寫 經和	伊予の雄叫
第一七回 石川大会	平成二三年九月四～六日	白山比咩神社	山崎 宗弘	村田 和之	生寫 經和	白嶺
第一八回 鹿児島大会	平成二四年八月二～三三日	霧島神宮	高橋 弘平	村田 和之	生寫 經和	肇国の誓ひ
第一九回 愛知大会	平成二五年六月二五～二七日	熱田神宮	小串 和夫	村田 和之	生寫 經和	剣のこころ
第二十回 島根大会	平成二六年七月一三～一五日	出雲大社	千家 尊祐	村田 和之	生寫 經和	国引の集い
第二一回 宮城大会	平成二七年八月二三～二五日	志波彦神社鹽竈神社	宇仁 繁儀	村田 和之	生寫 經和	鹽竈ざくら
第二二回 北海道大会	平成二八年六月二二～二三日	士別神社	佐藤 公聰	村田 和之	生寫 經和	朔北のいぶき
第二三回 奈良大会	平成二九年六月一八～二〇日	石上神宮	森 正光	村田 和之	生寫 經和	布留の鼓動
第二四回 伊勢大会	平成三〇年六月一七～一九日	神宮会館	高城 治延	村田 和之	畠田 明彦	神風のむすび
第二五回 茨城大会	平成三二年六月二四～二六日	茨城県神社庁	塙 東男	村田 和之	畠田 明彦	常陸の祈り
第二六回 山口大会	平成三三年六月二二～二四日	松陰神社	上田 俊成	村田 和之	畠田 明彦	至誠のかがみ
第二七回 沖縄大会	平成三三年六月二二～二四日	波上宮	末安 大孝	村田 和之	畠田 明彦	魂の島から
第二八回 愛媛大会	平成二四年八月二八～三〇日	石鎚神社	十亀 興美	佐古 一洸	畠田 明彦	愛比賣の睦び

あとがき

胸を張り 奮い起こそう 大和魂をスローガンとして、第二十九回神道講演全国研修大会・京都大会が、古社松尾大社に隣接する京都府神社庁に於いて開催されました。

参加者は聴講生を含め四十一名。例年通り三日間の短期でしたが、誠に充実した日程内容で、一同が学び合う鍛錬の場であったかと思えます。

平成二十五年は第六十二回神宮式年遷宮、併せて六十年に一度の出雲大社大遷宮、加えて熱田神宮ご創祀千九百年大祭の佳年でもありました。殊にお伊勢さん・神宮の参拝者数は、千四百万人と有史以来を記録し、伊勢の町も大いに賑わいを見せました。

ご遷宮は、不死と再生、蘇りの思想がこめられており、我日本も心なし明るい兆しが見えはじめて来た感じが致します。

世界に冠たる日本文化の根幹・神道の再興をめざし、神社界が一丸となって新たに行動を移す秋でもあります。

結びにあたり、京都府神社庁様そしてご協賛ご支援を賜った近畿各県神社庁様のご好意

に對し、心より御礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成二十五年

第二十九回神道講演全国研修大会

京都大会実行委員長

佐古一洌

講話集 平安の念ひ

—第二十九回 神道講演全国研修大会 京都大会—

発行 平成27年3月10日

編集者
装幀者 神道講演全国協議会事務局

印刷所 吳市広白石一—二—三四
製本所 株式会社 ユニックス

発行所 神道講演全国協議会

〒六六〇〇四 京都市西京区嵐山宮町三 松尾大社社務所内

TEL (〇七五) 八七一—五〇一六 FAX (〇七五) 八七一—三四三四

落丁・乱丁の場合はお取り替えます

